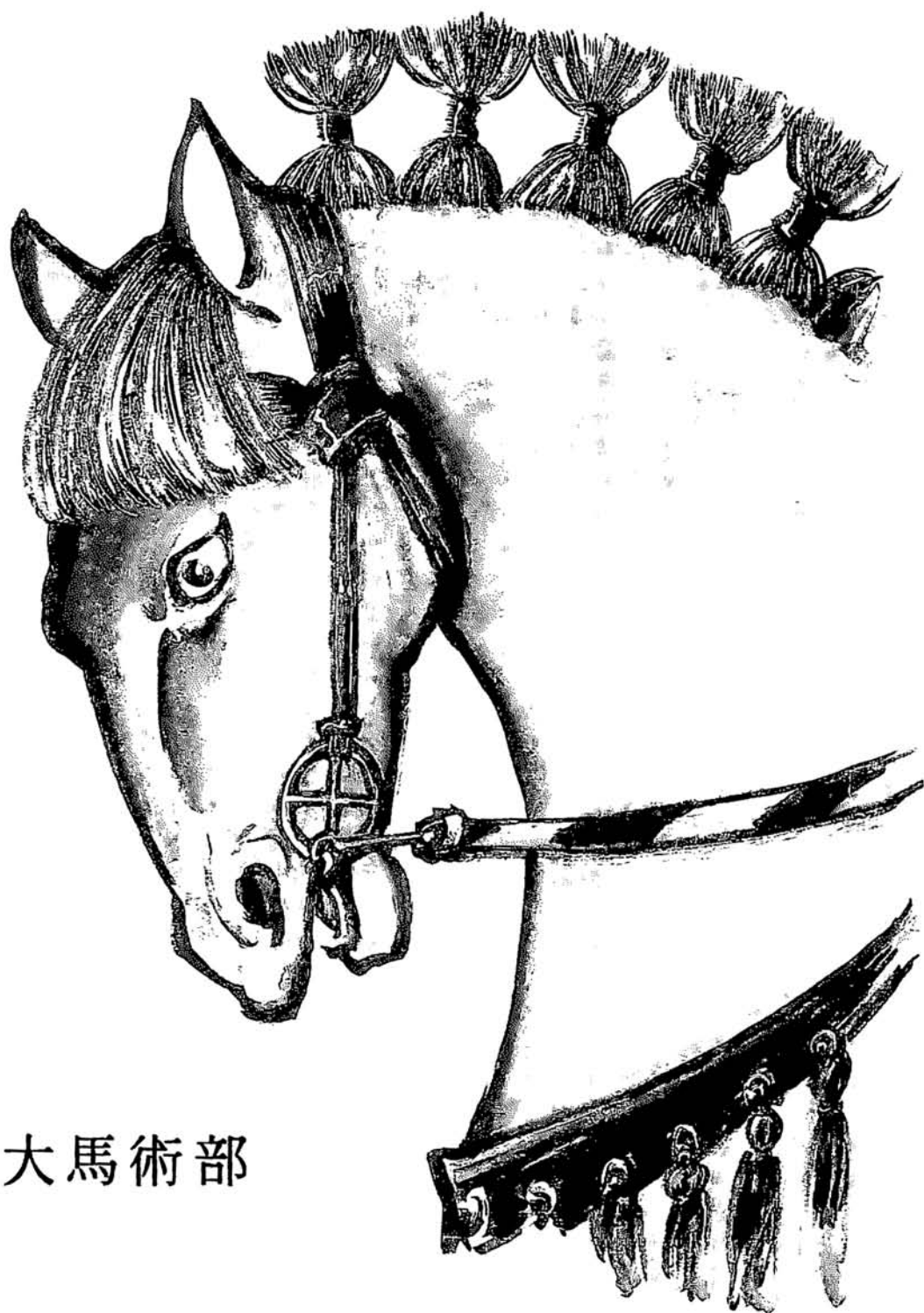


平成9年度

NO. 43

部報



北大馬術部

馬術部賛歌

滝沢南海雄君作曲

♩ 80



は る き た れ ば だ い ち ひ か ー る、



し ろ が ね の え ん さん ゆ め ほ う ぼ う た り、



た か ら か に い き ぞ い な け、 わ れ



ら し ゅ ん め の ほ ま ー れ あ り。



あ る ー か ざ り。 ほ く だ い ほ く だ い、 お



お わ が ぼ こ う、 わ れ ら し ゅ ん め の ほ ま れ あ り。

馬術部賛歌

(昭和三十五年頃)

三浦清一郎君 作歌

一

春来たれば 大地光る
銀の遠山 夢花々たり
高らかに 今ぞ嘶け！
われら駿馬のはまれあり

二

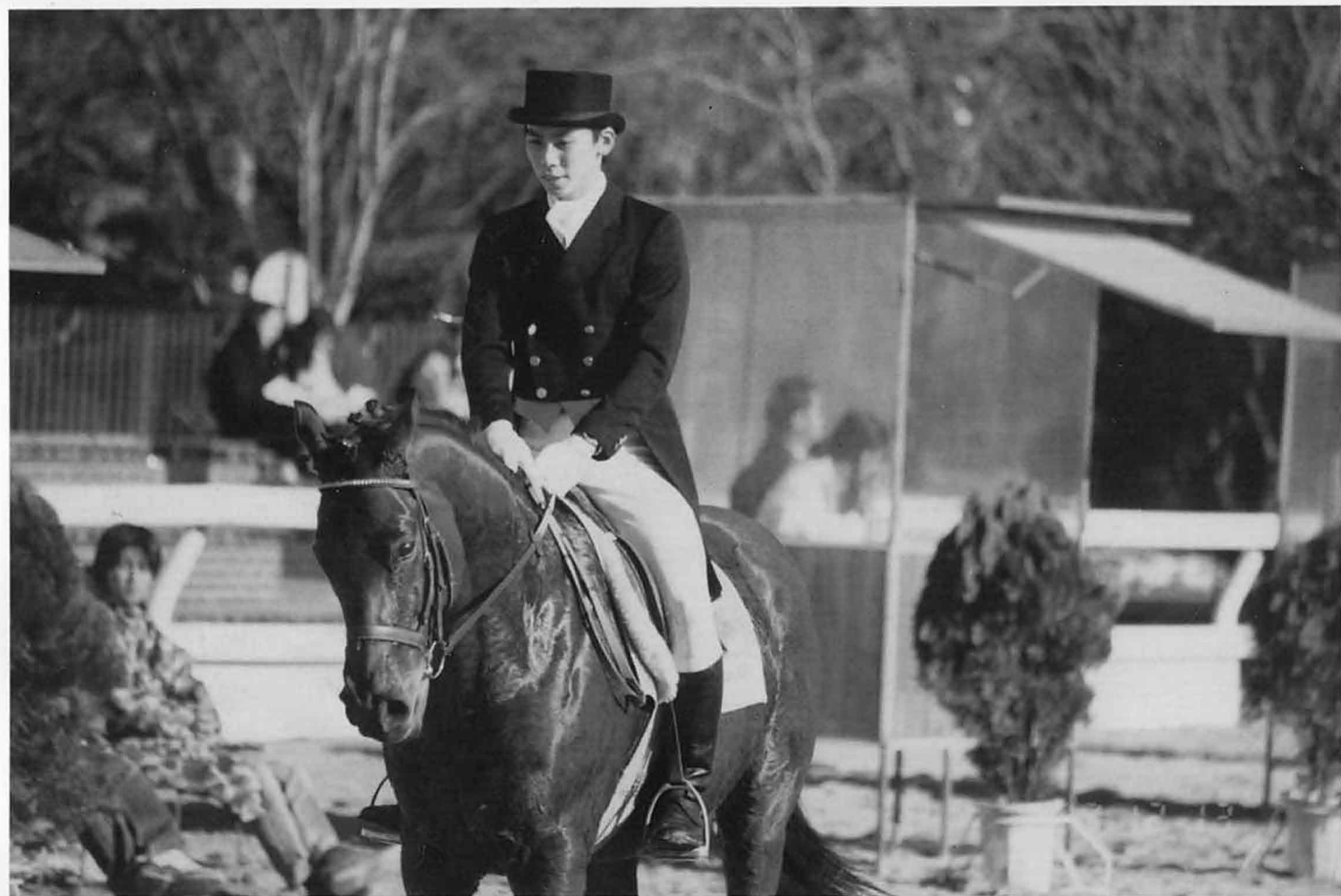
時来たれば 旗をかざせ
背雲の旅路に 意気軒昂たり
高らかに 今ぞ嘶け！
われら駿馬のはまれあり

三

雲流れて 旅路遙か
青春の孤杖 泥濘はばめど
凜然と 進みて行かむ
駿馬のはまれあるかぎり
北大！ 北大！ お、我が母校
われら駿馬のはまれあり



池田兄と北駿号



亀山兄と北凌号



下田 姉と北獅号



全日学へ出発

平成9年度部報の訂正

- P102 千葉 幹夫さん(34卒)勤務先 遠野畜産振興公社
勤務先TEL0198-62-5561
- P104 恩田 正臣さん(39卒)勤務先 群馬馬事公苑
勤務先TEL027-288-7002
- P104 加藤 正昭さん(42卒)TEL0155-22-8345
勤務先 (株)加藤家具店代表取締役社長
勤務先TEL0155-27-1111
- P105 村井 弘一さん(44卒)住所 横浜市神奈川区千若町3-1
勤務先 協同飼料(株)関東支店長
勤務先TEL045-461-5364
- P105 横山 豊昭さん(48卒)住所 郵便番号191-0041
東京都日野市南平2-27-13
TEL042-599-7272
勤務先JRA
- P105 春田 恭彦さん(44卒)勤務先 日本中央競馬会生産育成対策室
勤務先TEL03-3591-5251(代)
- P106 半浦 剛さん(53卒)TEL011-611-0215
- P108 根井 礼子さん(H4卒)住所 根井智さんに同じ

今シーズンの主な戦績

半沢杯

3 課目	3 位	鈴木 (3)	北凌
複合	3 位	小谷 (4)	北獅
	4 位	川崎 (3)	北祥
	6 位	田中 (4)	北旋風
中障害	2 位	角堂 (4)	北牙
	4 位	小谷 (4)	北獅
小障害	7 位	乗次 (4)	北蘭

馬場馬術大会

3 課目	6 位	小谷 (4)	北獅
2 スター	6 位	小谷 (4)	北獅
	8 位	角堂 (4)	北蒼

自馬場術大会

3 課目	6 位	小谷 (4)	北獅
------	-----	----------	----

北海道馬術大会

3 課目	8 位	角堂 (4)	北凌
M級C 種	4 位	角堂 (4)	北牙
L級A	4 位	尾崎 (3)	北燕
M級C 種	9 位	角堂 (4)	北牙
	10位	川崎 (3)	北祥

北日本学生馬術大会

団体	1 位	帯広畜産大学	2 位	酪農学園大学	3 位	北海道大学
----	-----	--------	-----	--------	-----	-------

二回走行

1 位	浦崎 (4)	柏嶺 帯畜大	2 位	小守 (3)	緑天鳳 酪農大
3 位	高橋 (4)	グレスカップ 東北大	4 位	小谷 (4)	北獅 北大
5 位	毛利 (4)	柏雲 帯畜大	6 位	山田 (4)	タイキベントスト 帯畜大
7 位	工藤 (4)	スーパージャック 酪農大	8 位	加藤 (4)	柏朱 帯畜大
9 位	鎌田 (4)	ノーバディエルス 帯畜大	11位	田中 (4)	北旋風 北大
13位	川崎 (3)	北祥 北大	失権	角堂 (4)	北牙 北大

総合

1 位	山田 (4)	柏明 帯畜大	2 位	加藤 (4)	柏朱 帯畜大
3 位	小守 (3)	緑天鳳 酪農大	4 位	工藤 (4)	スーパージャック 酪農大
5 位	鎌田 (4)	ノーバディエルス 帯畜大	6 位	湯口 (3)	柏海 帯畜大
16位	大崎 (3)	北鈴 北大	12位	田中 (4)	北旋風 北大
失権	寺坂 (4)	北帝 北大	失権	小谷 (4)	北彪 北大
失権	角堂 (4)	北凌 北大	失権	小谷 (4)	北蒼 北大
失権	川崎 (3)	北祥 北大			

賞典

1 位	上野 (4)	リブラ 岩大	2 位	海川 (4)	ハミングダンス 酪農大
3 位	加藤 (4)	キプロス 岩大			

目次

巻頭言(酒とスポーツ).....	市川 瑞彦.....	1
前主将より.....	池田 智義.....	3
現在のクラブ状況.....		4
会計報告.....		10
行事報告.....		11
戦績報告.....		13
調教報告・馬匹紹介		
北駿号.....	池田 智義.....	25
北牙号.....	角堂 豪.....	29
北凌号.....	亀山 巖.....	32
北旋風号.....	田中 悟史.....	35
北燕号.....	河合 由枝.....	46
北帝号.....	中田 一紀.....	49
北祥号.....	北祥 馬資.....	54
北獅号.....	小谷 友也.....	56
北優号.....	黒崎 雅人.....	58
北鈴号.....	大崎 智弘.....	61
北閼号.....	亀山 巖.....	62
北彪号.....	池田 智義.....	63
新馬紹介		
北神威号.....	金丸 鉄平.....	64
北蒼号.....	浅野 知弘.....	65
雌厩報告		
北駿号.....	川崎 洋史.....	66
タンデムシチー号.....	金丸 鉄平.....	69
東京OB会だより.....	陣川 雅樹.....	70
北大の馬たち.....		72
卒部にあたって.....		80
自己・他己紹介.....		81
集合写真.....		93
馬匹名簿.....		95
後援会員名簿.....		99
部員名簿.....		111

巻頭言(酒とスポーツ)

部長 市川 瑞彦

最近気になることの一つに、部生活と酒の問題がある。この欄に書く題材としては必ずしもふさわしくないように思うのだが、あえて問題提起として述べて現役やOB諸兄のご意見を伺いたいと思う。部員諸君にはどこか心当たりがあり、苦い薬かもしれないが。とはいっても、毎年4月になると新聞紙上でも話題となる新入生に対する「一気飲み」の強要と急性アルコール中毒(あるいはそれによる死亡)というようなケースをさしているわけではない。このようなレベルの問題は、我が馬術部では、きちんと対処されていると思う。ここでは、もう少し広い意味で、部生活と酒、スポーツ選手とアルコールについてである。

これまでも酒の飲み方について苦言を呈してきたが、受けとり側はどうもピンとこない様子である。返ってくる答えは、「たまには酒を飲んでストレスを開放することは必要ですよ」、「楽しくやって親睦を深めているだけです」、「そんなにひどいですかねえ」といった感じで、どうもこれは根深くいつの頃からかの「慣習的な」問題のようである。しかし、酒の飲み方にも節度が必要なのは、逆の例を考えてみれば誰でも分かる。馬術といってもスポーツである。違いは馬と一緒にするところである。例えば、陸上競技の選手が、二日酔いでふらふらした状態で競技に出場したら、誰の目からも明らかにスポーツ選手として失格である。馬術の場合はなんとかまたがることができれば、馬はうまくやってくれてボロがでないかもしれないが、それは表にでなかっただけでやはりスポーツ選手として失格である。また例えば、体質的に酒を飲めない下級生に対し、上級生が「飲めなくても、何回も吐いていればそのうち飲めるようになる」などと言って執拗に飲ませれば、強制・強要で、本人にとってみればストレスはたまるばかりで、悪くすると急性アルコール中毒で病院に担ぎこむことになる。それでは、試合の前日に吐くほどに飲む、飲みすぎて大会や練習に遅れたり練習ができない、コンパで吐いて会場を汚し店や施設ともめた、など実際にありそうなケースはどうか。考えてもらいたい点である。

私の共同研究先のスウェーデンでは、長い冬のためかアルコールは社会的問題で、国で規制しており、ワイン・ブランデー・ウィスキーなどは国営の酒類販売所でしか買えず、6時には閉まってしまうし、土日は休みである。スーパーで買えるのはビールだけである。また人前で酔っ払うことに対しては、自己管理ができない人間とみなされ社会的評価は非憎に厳しいため、鍵をかけて部屋の中で飲み、他人が気付いたときには深刻な状態になっていることがあるとも聞く。人前で酔うことが、特別に恥でもなく、「酒の席だから」と多少の事は大目に見てくれるのは日本のよい慣習だとは思いますが、これから国際的に活躍してほしい部員諸君は欧米のアルコールに対する厳しさも知っておく必

要があろう。テレビでの、ドジャースの野茂投手への生活のインタビューで「お酒は？」との質問に、「飲みません」とさらりと答えていた。プロとしての厳しい自己管理の側面を垣間見たような気がして、すがすがしかったのをおぼえている。

こんなことを書いてくると、「堅いことを云うな」とお叱りをちょうだいしそうだが、私自身ふだんは酒をほとんど飲まないが、酒の席でみんなで楽しくやるのは嫌いではない。学生時代は、恵迪寮、進修寮と寮生活をしてきたので、酒席の数は相当に多かったと思う。しかし、自己管理なくしてなんの部生活かとも思う。しかも、1996年北日本学生馬術大会期間中に酪農大の1年生が酒に関連した事故死をしたのはまだ記憶に新しいし、現に今でも大会期間中は禁酒である。最後に誤解のないように言うが、1) 他の人に（陰に陽に）強制することなく、2) 周りの人に迷惑をかけず、3) 自分で飲みたいだけ（飲めるだけ）飲んで、みんなで楽しくやるような酒は大いに結構である。クラーク博士の残したもう一つの言葉、“Be gentlemen!” は、馬術部部員にとっても例外ではないように思うのだが、どうであろう。

(98.3.30)

前主将より

池田 智義

僕は幸運にも二年間共に全日に団体出場できました。これはやはり松原さんを筆頭に鶴見さんたちがエサをやり、馴致をして試合に臨むというやり方を徹底してきたお陰だと思う。つまり今までいた古馬が前述のことをすることにより権利をとれたということと、その方法で調教していけばよいということ（F.Wや基本的な口向きなどはまた別だが）がはっきりしたのだと思う。今いる下級生はそういった過程があったことをきちんと知っていてほしいし、またしっかり受けついでいてほしい。

これは帯畜を見てて思ったことだが、さらに強くなるために12頭から14頭ぐらいで頭数を増やして、ある程度シビアに馬の出し入れをやっていくことと男子だけでなく女子でも十分力を発揮できるような馬術部にしていくことも目指してほしい。

またこれから全日で勝つためには、障害に対してひるまない馬であることはもちろんだが二走コースの変化を見てもわかるように左右の十分なやわらかさ、短いアプローチでも馬体を立て直してこれるような前後のやわらかさ、そのための口のやわらかさと馬の器用さが求められると思う。これは十分な経験のないOBや現役だけではあまりにも難しい。そのためにNH Pで行なわれる各種の講習会に参加することや、各乗馬クラブの方に教を乞う必要も出てくると思うが、利用できる機会はとことん利用してもっと馬術に対して食欲になってほしい。

君たちの健闘を祈ります。

現在のクラブ状況

〈主将から〉

角堂 泰

(目標と現状)

わが北大馬術部の目標は全日本学生馬術大会で二走・総合の団体をくみ、そこで勝ち北大の名を残すことである。

自分が入部したころは北日本で1頭か2頭が権利をとれるくらいで、全日本に団体で出るには程遠く、北日本の壁の大きさを感じた。しかし、ここ2年間の北日本での成績はというと、一昨年は二走・総合での団体権利獲得、昨年は二走での団体権利獲得というように北日本では十分通じるようになってきた。つまりわが北大馬術部の目標である全日学の二走・総合団体出場は実現の可能性が高いといえる。しかし、全日学での勝利はかなり可能性が低く、雲の上の存在である。また、北日学での勝利も可能性が高いというだけで確実であるとは言えない。目標を達成するためには、何を考え何をしなければならぬかを述べたいと思う。

(今後の方針について)

〔馬匹面から〕

現在北大馬術部の所有馬は14頭である。この中で今年の各馬の位置付けはというと、

〔全日学に出場可能な馬匹〕

二走	北牙(13)	総合	北凌(12)
	北旋風(9)		北旋風(9)
	北獅(14)		北祥(10)
	北蘭(16)		北獅(14)
			北蒼(7)

〔北日学に出場可能な馬匹〕

二走	北凌(12)	総合	北帝(9)
	北祥(10)		北鈴(7)
			北彪(9)

〔下級生の練習を主体としている馬匹〕

北燕(11)
北優(8)

〔新馬〕

タンデムシチー(7)
北神威(8)

となっている。

これを見てわかるように、馬匹の平均年齢が高い。この中で何をしていかなければならないかということ、第一に北日学で過去に権利をとった馬は確実に権利をとること、北日学に初出場する馬は、完走し、権利に近づくことである。

第二に調教に時間のかかりすぎる馬は、出すべきである。目安としては、5歳で入厩、7歳で北日学総合出場、8歳で北日学二走出場、9歳までに全日学出場をめざさなければならない。

第三に馬体的に問題のある馬は早めに見きりを付けることである。

第四に、それらを踏まえて馬の入替えを頻繁にすることである。なぜなら多くの馬を比べたうえで、より可能性の高い馬を育てられるからである。

第五に馬房数の都合から二走・総合の両方で権利をとれる馬を育てること。

第六に競技馬と練習馬をわけること。なぜならテンボよく調教し、エース馬を9歳前後で育てるには下級生の練習にたくさんの時間を割くわけにはいかない。また、1年半で馬を調教できるレベルになるには、下級生の練習量を増やさなければならない。

最後に代が変わるときにチーフの引継ぎがしやすい馬、つまりオーソドックスな馬（北獅など）を育てるべきである。

この他にもたくさんあると思うが現状に即して考えて見ると、これらの事を（急には無理なので）徐々に実行することによって北日学はただの通過点となり、全日学での勝利に近づくのではないかと思う。

〔部員と練習方法の面から〕

現在北大馬術部の部員数は27名である。内、3年目6名（女子1名）、2年目9名（女子3名）、1年目12名（女子3名）であり、完全なピラミッド型で人数的には申し分無い。しかしこのなかの全員が馬を持てるわけではない。つまり冒頭にかかげた目標にたいして、直接的にかかわる人間と、間接的にかかわる人間が出てしまう。簡単にいえばチーフとして馬を持てるかどうか、北日学、全日学といった試合にでれるかどうかという問題が出てしまう。だが現役部員のだれ一人として欠けたら部にとってマイナスになるわけである。チーフだけが部を運営し、アルバイトをし、作業し、馬の世話をしろと言われても無理な話である。チーフを支える馬質、サブチーフがいて初めてそれらが行え、わが北大馬術部の目標に近づくことができるはずである。

練習について考えると、最近はやや惰性的でいいかげんになりつつあると思う。なぜなら各個運動が主流で下級生の指導も各個に別々の事を教えているからである。ではこれから何が必要なのだろうか、確かに各個運動は馬の調教を考えた上では必要なことである。しかしそれだけでは馬は偏りが出てくるし、人は小手先の技にはしってしまい基本を忘れがちになるのではなかろうと思う。必要なことは人も馬も同時にレベルアップし、基本を取り戻し、くせをなおすことである。そのために各個にチーフが互いに乗りあうことも大切だが、部班運動が一番よいのではないかと思う。部班運動は平均的に人馬を伸ばすこと、基本姿勢や基本的な扶助を取り戻すこと、下級生を簡単に伸ばすこと、個々の能力を見比べることなどの方法として最適である。

またお互いをチェックすることに関して言えば、経路廻りを頻繁に取り入れることであると思う。これは試合なれするためにもよいことであろう。

ほかに必要な事というミートンである。これはクラブ全体としての問題意識の再確認、お互いの考えの理解のためには必要不可欠であると思う。お互いに話し合うことによって練習方法にも磨きがかかり、部全体としてのつながりが出てくるであろう。

〔総合面から〕

部活というのはあくまで実力主義だと思う。これまで述べたように目標に近づくには実にたくさんの事が必要であるが、最終的に実力が無ければ何も生まれないということを念頭に置かなければならない。

ここで部活に必要な3つの事柄を述べたい。

一、勝つこと

二、礼儀

三、楽しむこと

これら3つのうちどれが欠けても部は成り立たない。勝つためには何が必要か、馬を育て人を育て、個々の技術向上を必要とする。礼儀を得るには何が必要か、上を支え下をひっぱり、OB、他団体との関係をしっかりとし、部を運営していくといった厳しさを必要とする。楽しむには何が必要か、馬に乗り、世話をして、馬を好きになり馬と接すること。コンパで仲間と接しお互いを理解しあうことが必要である。これらの3つの事ができなくて実力があるといえようか。

これらの事があたりまえにできる、実力のある部活、実力のあるものをどんどん伸ばし、お互いに切磋琢磨できる部活にしようと思う。

最後になりましたが、市川部長、岡田顧問、斎藤先生、OBの方々これからもどうぞよろしくお願いいたします。

〈副将から〉

小谷 友也

'98年度の北日を目指す部員としてスタートをきったのは、3年生6名、2年生9名、1年生15名の総勢30人です。数がすべて、ではありませんが、やはり一時期の倍近い部員が活動しているといった状態は一人一人の負担も少なくなる分、普段の余裕が生まれますし、何よりも部全体としての活気が違います。忙しいバイトに走りまわり、厳しい指導に耐え、歯を食いしばり涙を飲んで手につかんだ勝利というものは何事にも変えられない大きなものでしょう。しかしそれが勝った部員その人だけの成果なら、馬術部としての活動は意味の無いものではないでしょうか。大切なのは何かをつかみ、少しずつ成長し、しかもそのことを目標に楽しみも含めて日々活動できるのなら、そしてその結果が全員が望んだ勝利へとつながるのなら。こういった雰囲気を感じられる部になってきたのではないかと考えています。

決して一人一人の認識が甘いのではなく、また馴れ合いで楽な方へと流れていくのではなく、つらく厳しいことに背を向けて笑っていることでもない。「勝ちたい」という意識のもとで、馬術部の組織が活動するのであるから、その4年間はひたすら苦悩の連続であろうし、決して唯一つの答えを全員が求められるはずもないでしょう。ただ、その悪戦苦闘の日々が、全員が共有する時間が北日での、さらに大きく言うなら全日での勝利へとつながるようできる限りのことをしたい、しなければならない、と思っています。

〈主務から〉

田中 悟史

9月から亀山兄より引き継いで主務を担当しています。各役職の中でも主務は部の運営をより良い方向へ向けるように仕事を迅速かつ確実にこなしていかなければならないと思っています。今までは主務が膨大な量の仕事を担当していましたが、最近の部員数の増加により、新しい役職主務補佐をつけることができ、仕事の分担化が進み、今ではかなり楽になってきていて部員各位には大変感謝しています。

現在主務が直面している大きな問題は厩舎移転の話です。数年前より話が持ち上がっていましたが、ここに来て徐々に進展してきています。

・学生部との関係について

馬術部の運営上必要不可欠なものであり、密接な関係を維持していかなければなりません。日頃から物品援助や厩舎施設の改善などの支援を受けており、また厩舎移転の問題にも親身になって対応してもらうなど、なにかと気にかけてもらっています。このような支援にたいして裏切らないように、学生部に対して守るべきルールを守ってこれまでの関係を崩さないように努力していきたいと思っています。

・外部(他団体、アルバイト先)との関係について

一旦大学から場所を離れれば、自分たち学生も社会人の一部であり、外部の人からもそう認識されます。このような見方にたいして「学生だから…」というような行動態度をとってはいは信頼を失ってしまい、一度失った信頼を取り戻すことは容易ではありません。今まで保ってきた外部との信頼関係を崩さないように部員一人一人が責任ある行動、態度をとれるようにまとめていくつもりです。

・競技会の運営について

競技会の主管は実際には主務が中心となって行いますが、主務ばかりに頼ってはいざというときに対応しきれなくなってしまうです。そのようなことがないよう部全体で仕事をするということを部員各自で理解し、責任を持って運営にあたるようにしていきたいと思っています。

・厩舎移転について

馬場に隣接している北18条通りを札幌市が拡張する計画が進行しており、それにより馬場及び厩舎が道路の予定区域にかかってしまうため現在の第2農場の北西の端(北24条通りぞい、北24条西13丁目付近)に移転することになっています。移転が完了する時期は1999年3月になる見込みです。

場所は大学からは少し離れてしましますが、馬場、厩舎、部室、また敷地全体どれをとっても広く大きく、格段と充実したものになり、さながら乗馬クラブのようなすばらしい施設になると思われます。ただ一つ、乾草庫だけは市の移転保証の問題から希望するようなものにならないため、頭の痛い問題となっています。

この移転問題に関して現在市川部長を始め、岡田顧問、斎藤前部長、昭和39年卒部の八木さんやその他OBの方々、畜大OBの中曽根さん、長岡さんにもご協力いただき、気にもかけていただき大変ありがとうございます。まだこの問題は解決していませんが、いろいろな方々に支えられながら徐々に前に進んでいくものと思います。

これからも御協力、御支援のほどをよろしくお願いします。

＜馬匹から＞

浅野 知弘

‘98年1月現在の馬匹数はセン馬12頭、牝馬2頭の計14頭です。‘97年始めに馬2頭が疝痛になり、部員が交代で一週間ほど馬房の前で様子を見たりなどすることがありましたが、それ以降は大きな病気やけがもなく北日、全日と乗りきることができ、‘97年を終えることができました。

‘97年春に長年お世話になっていた装蹄師の太田さんが事故にあわれて、装蹄のお仕事に支障をきたすようになったので、OBで装蹄師の山川さんに以降の装蹄をお願いすることとなりました。太田さんご自身は装蹄自体は困難であるけれども、蹄鉄の製作は可能であるとのことでしたので、今後とも太田さん、山川さんのご助力を賜りたいと思っております。

また獣医学部に対しては、外科の藤永先生や、とくに奥村先生に対しては数々の部員の失礼な行為があったようであり、獣医学部との関係は好ましくありませんでしたが、この冬に部の現状をお話してご理解をいただき、なんとか関係改善の糸口をつかむことができ、新馬の去勢手術を行っていただくことができました。また水野さん、本城さん、池田さんを始めとするJRA在職のOBの方々のご助力もあり、治療環境、臨床や薬理に関する知識も改善されました。

長岡さんからは、乾草や稲ワラの手配を始め、厩舎移転のことでもご相談に乗っていただきお世話になりました。今年の冬は比較的馬房の寝ワラが多く、馬体を清潔に保つことができ非常にありがたく思っております。

薬品に関しましては、現在ホシ伊藤商事に発注しておりますが、先の獣医師の方々のご助言等によりかなり充実したものになったかと思えます。

放牧に関しましては、従来の集団放牧をうけつぎ、現在馬場5頭、三角地3頭の集団放牧体制が整いつつあります。放牧中のけがも意外と少なく、馬たちはのびのびとしていてメンタル的にかなりの成果を上げているのではないかと思います。

本年度は馬匹という役職を通じて様々な外部の方々と接し、ご助言、ご協力を賜りましたが、私たち部員は厩舎の中では学生であっても、一歩外にでて他団体及び外部の方々と接するにあたっては、社会人としての礼節をわきまえておかねばならないものであるということを痛感した年でもありました。これからシーズンが始まります。馬たちが元氣よく快適に過ごせるようにするためにも、また自分たちの技術向上のためにも、そういった方々に気持ちよく馬術部と接してもらえるように努力していくと共に、愛馬精神にのっとり人馬一丸となって勝利を目指していきたいと思えます。

《後援会から》

寺坂 龍児

今年もOBの方々、特別後援会員の方々には御支援、御指導頂きありがとうございます。後援会の仕事は、OB、特別後援会員の方々と現役部員とのつながりを密にし、OBの方々の声を聞く機会を作っていくことでもあります。事務的な連絡だけに終わってしまいがちな仕事を、もっと距離を近づけていき、より良い関係を築いていくことを今年は目標とします。近郊のOBのご協力により、インターネットのホームページも開設され、こちらの近況を随時お知らせしていきたいと思っております。新馬の面においても、様々なご配慮を頂き本当に感謝しております。

来春に馬場も移転することになり、この厩舎も今年かぎりとなります。その折にはまたご連絡致します。札幌にいらしたときには、ぜひ厩舎にお立寄りください。

これからも頻繁に近況報告していきたいと思っておりますので、何かございましたら御指導お願いいたします。

《会計から》

乗次 由美

1997年は、馬術部の大きな収入源となっている札幌競馬場の開催時期が8、9月となり北日学と重なってしまいました。1998年も8、9月の開催となるため、アルバイト収入の減少は避けられないところです。反面、学馬連の補助金は馬匹数の増加、補助基準の改正により増加しており、収入の大きな割合を占めています。

支出に関しては、老朽化のため馬運車を購入しました。そのため収支決算がマイナスとなっています。また、全日学へ出場する馬匹数も多く、大馬運での遠征となり大きな支出となっています。

ぜひともOBの方々のご支援をお願いしたいと思います。

会 計 報 告 平 成 9 年 1 ～ 12 月

収 入

部 費	7 0 8 , 0 0 0
ア ル バ イ ト	
モ モ セ	5 4 5 , 7 0 0
J R A 開 催	2 , 6 2 3 , 9 8 5
朝 日 新 聞 社	4 6 5 , 2 2 0
そ の 他	1 7 3 , 6 2 0
企 画 ・ 競 技 会	
半 澤 杯	1 7 8 , 4 7 5
馬 場 大	4 7 , 5 0 0
公 認 大 会	7 4 0 , 8 0 0
秋 季 自 馬 大	1 6 5 , 3 5 5
そ の 他	3 9 3 , 0 0 7
学 馬 連 補 助	2 , 2 2 4 , 0 0 0
寄 付	1 0 0 , 0 0 0
そ の 他	8 6 , 7 3 5
合 計	8 , 4 6 5 , 1 1 7

支 出

飼 料	1 , 8 9 2 , 6 3 6
装 蹄	1 , 0 7 7 , 5 0 0
薬 品	6 3 6 , 2 8 0
馬 具 備 品	2 9 , 2 1 4
作 業	1 8 9 , 7 7 9
電 話	1 6 4 , 2 4 8
輸 送	1 , 5 7 3 , 6 7 6
車 輜	9 8 2 , 7 1 6
馬 巡 車	1 , 6 5 5 , 9 5 0
文 化	2 6 5 , 3 2 7
後 援 会	2 3 8 , 6 2 1
事 務	5 8 , 7 3 3
雑 費	5 9 , 3 9 6
登 録	2 8 1 , 3 0 0
部 報	1 9 1 , 1 0 0
そ の 他	9 7 , 0 0 0
合 計	9 , 5 8 4 , 5 7 6

会 計 : 乗 次 由 美

平成9年度 行事報告

◎4月

6日 東北戦

○兄1300gカレー&二日酔いで試合

19日 七大会

全国から馬乗り(酒飲み?)集合

22~25日 新歓馬術講習会

ニンジン買い忘れてハイキューブ

26日 岩大招待試合

飛行機に乗り遅れたそうですね

◎5月

4、5日 半澤杯

今年もやっぱり寒かった

6~12日 新歓合宿(前半)

13~19日 新歓合宿(後半)

「飼いおけます」

16日 寮歌祭

我ら騎馬隊注目の的

24、25日 馬場馬術大会

下旬 新歓コンパ

正装なのに吐いちゃった人も

◎6月

5~8日 北大祭

あれだけ売って儲けなし!?

8日 三大戦

21、22日 春季自馬馬術大会

28日 北日選手権

4年目両人見事にワン・ツー

◎7月

12、13日 公認大会

◎8月

7~11日 北日学

I兄二走走行中に肩で木を折った

14~19日 日高合宿

W君競馬で落馬骨折

23、24日 国体予選

◎9月

5日 タンデムシチー入厩

何でそんなにボーッとしてるの

上旬 全日選手権

◎10月

3日 NHPカップ

賞金目指して気合満々

4、5日 秋季自馬馬術大会

1年目デビュー、早くもポーズ

10日 モモセダービー

奇妙な落馬が大量発生

18日 役員交代コンパ

K兄のありがたい愛の講話

19日 OB戦

22日 ランフォーローズ入厩

あれ、この馬眉毛がある

◎11月

2日 山下杯

馬場というより沼だった

◎12月

6日 十大戦

10～14日 全日学

今年も団体を組めました

19日 忘年会

今年の天気は晴のち薄曇り

25～30日 冬合宿(前半)

場外のI君何故かトップに

◎1月

2日 初乗り

エオンの評価急上昇

2～7日 冬合宿(後半)

吹雪の中の悲惨な経路廻り

◎2月

上旬 雪祭り外乗

今年はみんなお利口だったようで

7日 馬術講習会

長野五輪初日、麻婆豆腐は旨かった

28日 追いコン

◎3月

27日 トワイライトブルー入厩

え!?背毛じゃないの?

戦績報告

◆対東北大学定期戦（於東北大学 4月6日）

出場選手 大崎(2)・尾崎(2)・寺田(2)

優勝 北大 準優勝 東北大 MVP 尾崎

◆国立七大学定期戦（於北海道大学 4月19日）

使用馬匹 北駿・北凌・フライト・北帝・北獅・エンゼル・ウエズデー
モモコ・エルク・ミスダビンスキー・柏神

出場選手 池田(4)・亀山(4)・角堂(3)・小谷(3)

1位 京大 2位 名大 3位 東北大

4位 九大 5位 北大 6位 東大

◆岩手大学招待学生馬術大会（於岩手大学 4月26日）

出場選手 内海(3)・乗次(3)

予選敗退

◆第25回半澤杯記念馬術大会（於北海道大学 5月4、5日）

〈馬場馬術第2課目〉

得点率(%)

1位	佐藤	ハンエイパレード	JRA札幌	57.1
2位	谷口	キョウワノーザン	JRA札幌	54.8
3位	コステロ	イイデツバサ	早田RC	51.7
7位	角堂	ファストバロン	北大(3)	50.0
8位	池田	グラッドリィ	北大(4)	49.8
17位	鶴見	北 祥	北大OB	46.1
23位	乗次	フ ラ イ ト	北大(3)	42.5
26位	浅野	北 凌	北大(3)	39.8

〈中障害飛越競技〉

減点 J.O

1位	亀山	北 凌	北大(4)	0	4
2位	池田	北 駿	北大(4)	0	4
3位	佐久間	緑 天 鳳	酪農大	4	
5位	中村	北 旋 風	北大OB	8	

〈小障害飛越競技〉

減点 J.O

1位	コステロ	イイデツバサ	早田RC	0	0
2位	高橋	シンコウブラウン	JRA札幌	0	0
3位	鶴見	北 祥	北大OB	0	0
4位	乗次	フ ラ イ ト	北大(3)	0	0

6位	角堂	ファストバロン	北大(3)	0	4
10位	小谷	北 獅	北大(3)	4	
13位	田中	北 旋 風	北大(3)	4	

＜新人新馬障害飛越競技＞

減点

1位	鶴見	北 優	北大0B	0
2位	コステロ	ラインハルトシチー	早田RC	0
3位	辻	デイビーグロー	早田RC	0
4位	松原	スズロード	北大0B	0
12位	栗原	フ ラ イ ト	北大(2)	0
14位	黒崎	北 優	北大0B	3
17位	藤倉	北 獅	北大(2)	4
18位	小谷	北 獅	北大(3)	4
19位	村田	スズロード	北大0B	4
22位	中田	北 帝	北大0B	8
23位	寺坂	北 帝	北大(3)	16

◆第11回北海道馬場馬術大会（於N.H.P 5月24、25日）

＜馬場馬術第2課目A班＞

得点率(%)

1位	谷口	アレジャボン	N.H.P	53.9
2位	古川	クレオパトラ	フロンテ7RC	53.6
3位	辻	トーイソルジャー	早田RC	53.5
7位	中田	北 帝	北大0B	50.1
8位	村田	スズロード	北大0B	49.8
16位	浅野	北 祥	北大(3)	41.5
17位	黒崎	北 優	北大0B	41.4

＜馬場馬術第2課目B班＞

1位	コステロ	イイデツバサ	早田RC	58.0
2位	田上	アレジャボン	N.H.P	57.1
3位	斎藤	ミスターブランデー	N.H.P	55.5
4位	寺坂	北 帝	北大(3)	53.3
6位	寺坂	スズロード	北大(3)	48.3
13位	田尾	北 旋 風	北大(2)	44.7
15位	田中	北 優	北大(3)	42.7
16位	徳永	北 獅	北大(2)	42.5
18位	金丸	北 祥	北大(2)	37.2

＜馬場馬術第3課目A班＞

1位	谷口	バ ッ カ ス	フロンテアRC	53.0
2位	岩崎	エ ア ジ ョ ー ダ ン	N.H.P	52.7
3位	竹之内	フ ロー デ ィ ワ ン ダ ー	オーファHC	52.5
10位	田中	北 旋 風	北大(3)	44.7
12位	小谷	北 獅	北大(3)	42.5

＜馬場馬術第3課目B班＞

1位	村山	エ ア ジ ョ ー ダ ン	N.H.P	57.2
2位	吉田	コ バ ル ト	N.H.P	54.7
3位	池田	北 駿	北大(4)	53.6

◆第6回三大学定期戦（於北海道大学 6月8日）

使用馬匹 フライト・北獅・グレンエトワール

出場選手 川崎(2)・下田(2)・鈴木(2)

優勝 北大 準優勝 酪農大 3位 帯畜大 MVP下田

◆第32回春季北海道自馬馬術大会（於N.H.P 6月21、22日）

＜馬場馬術第2課目A班＞

得点率(%)

1位	村上	ヒ ロ カ イ ザ ー	北星RC	55.4
2位	風間	グ レ ー ト サ ウ ンド	早田RC	54.3
3位	コステロ	イ イ デ ツ バ サ	早田RC	52.2
4位	角堂	ス ズ ロ ー ド	北大(3)	52.1

＜馬場馬術第2課目B班＞

1位	辻	イ イ デ ツ バ サ	早田RC	57.0
2位	辻	ト ー イ ソ ル ジ ャ ー	早田RC	52.4
3位	鬼塚	ユ バ ス バ イ ス	フロンテアRC	51.2
12位	中村	北 優	北大OB	42.8
13位	鈴木	北 祥	北大(2)	40.2

＜馬場馬術第3課目A班＞

1位	鈴木	メ イ ク マ イ デ ィ	オーファHC	55.6
2位	館谷	テ ネ リ フ ァ	モモセRF	55.1
3位	秋田	メ デ ィ ア ス ト ー ム	N.H.P	54.9
12位	亀山	北 凌	北大(4)	50.4

＜L級標準障害飛越競技＞

減点 J.O

1位	久保田	ア ブ サ ン	十勝地区会	0	0
----	-----	---------	-------	---	---

2位	亀山	アーネストヒダカ	北大(4)	0	3
3位	鈴木	メイクマイディ	ホーフルHC	0	4
5位	田中	北旋風	北大(3)	0	4
20位	乗次	フライト	北大(3)	5	

＜M級C標準障害飛越競技＞

1位	吉田	パワープレイ	N.H.P	0	0
2位	池田	北駿	北大(4)	0	0
3位	毛利	柏雲	帯畜大	0	0
4位	角堂	ファストパロン	北大(3)	3.75	
16位	亀山	北凌	北大(4)	24	
17位	中村	北旋風	北大OB	24	
20位	小谷	北獅	北大(3)	34.75	

＜特定L級標準障害飛越競技 初心者一般の部＞

1位	藤倉	フライト	北大(2)	0	0
2位	中田	ムテキテンホー	N.H.P	0	8
3位	中川	ミス・ジェニファー	札幌RC	3	
5位	尾崎	フライト	北大(2)	15.5	

＜特定L級標準障害飛越競技 新馬の部＞

1位	辻	ディビーグロー	早田RC	0	0
2位	梅村	ヒロチェック	北星RC	0	0
3位	山畠	ユーフォー	酪農大	0	0
13位	小谷	北祥	北大(3)	4	
14位	鶴見	北祥	北大OB	4	
15位	寺坂	北帝	北大(3)	7	
16位	中田	北帝	北大OB	8	
17位	村田	スズロード	北大OB	19	
18位	池田	スズロード	北大(4)	24	

◆北日本学生馬術選手権大会（於岩手大学 6月28日）

出場選手 池田(4)・亀山(4)・乗次(3)・栗原(2)

選手権	1位	池田	北大
	2位	亀山	北大
	3位	石井	北里大
女子選手権	1位	池田	岩手大
	2位	鎌田	帯畜大

◆第22回北海道馬術大会（於N. H. P 7月12、13日）

＜馬場馬術第2課目＞

得点率(%)

1位	辻	トーイソルジャー	早田RC	56.7
2位	古川	クレオパトラ	707RC	54.2
3位	本間	ヒカリライデン	707RC	53.8
11位	川崎	スズロード	北大(2)	48.7
15位	下田	スズロード	北大(2)	45.6

＜馬場馬術第3課目A班＞

1位	鈴木	キョウワノーザン	JRA札幌	59.6
2位	館谷	テネリファ	モモセRF	57.9
3位	河名	アブサン	札幌競会	55.9
16位	池田	北 祥	北大(4)	41.4

＜馬場馬術第3課目B班＞

1位	村山	サンダンス	N.H.P	54.1
2位	大林	フロディーワンダー	77MHC	53.5
3位	開発	スーパージャッジ	酪農大	51.4
8位	亀山	北 凌	北大(4)	49.6
15位	田中	北 旋 風	北大(3)	44.2
16位	小谷	北 獅	北大(3)	41.5

＜特定L級標準障害飛越競技 初心者一般の部＞

減点 J.O

1位	吉田	ボ テ ト	N.H.P	0	0
2位	中川	ミスジェニファー	札幌RC	0	0
3位	細川	ヒロチェック	北星RC	0	0
6位	大崎	フ ラ イ ト	北大(2)	0	4
7位	浅野	フ ラ イ ト	北大(3)	4	

＜特定L級標準障害飛越競技 新馬の部＞

1位	村山	ドンカスター	北星RC	0	0
2位	鈴木	ユーフォー	酪農大	0	4
3位	松井	ジャンピングクラック	モモセRF	4	
14位	村田	スズロード	北大OB	12	
	池田	スズロード	北大(4)	35E	
OPEN	村田	スズロード	北大OB	15	

＜L級標準障害飛越競技＞

1 位	川北	ピ ッ ツ ア	N.H.P	0	0
2 位	久保田	ア ブ サ ン	日高友会	0	3
3 位	宇佐美	ス テ ー シ ョ ン	オーフルHC	0	4
19位	池田	北	祥	北大(4)	8
25位	中田	北	帝	北大08	12
30位	乗次	フ ラ イ ト	北大(3)	18	

＜内国産馬M級C標準障害飛越競技＞

1 位	緒方	カ リ ス タ ヒ ー ロ ー	北星RC	0	0
2 位	渡部	パ ブ リ ッ ク	日高育成	0	4
3 位	吉田	フ ェ ニ ッ ク ス	N.H.P	0	4
17位	小谷	北	獅	北大(3)	12
18位	角堂	フ ァ ス ト バ ロ ン	北大(3)	14.25	
21位	亀山	北	凌	北大(4)	16
23位	田中	北	旋 風	北大(3)	24

＜M級B競技＞

1 位	天羽	シ ド ラ	日高KF	0	
2 位	池田	北	駿	北大(4)	4
3 位	宮竹	タ ラ ー ブ リ ッ ジ	浦河高校	4	

＜L級S&H競技＞

				成績時間
1 位	男鹿	ウ ェ ル ノ ン	オーフルHC	60"47
2 位	辻	ザ ・ セ ネ タ	早田RC	61"09
3 位	白井	バ リ ス カ ブ ル ス	日高KF	62"11
	乗次	フ ラ イ ト	北大(3)	3RE

＜内国産馬S&H C競技＞

1 位	村山	ミ ス ジ ェ ニ フ ァ ー	札幌RC	73"38
2 位	宮竹	ダンシングマイティー	浦河高校	74"07
3 位	平間	ブ ラ ッ ク ラ ン バ ー	酪農大	74"65
20位	田中	北 旋 風	北大(3)	125"50

◆第33回北日本学生馬術大会（於帯広畜産大学 8月7～11日）

＜2回走行＞

《 2 回 走 行 》					1走目減点	2走目減点	J . O
1 位	高野	柏	楽	帯畜大	0	7	0
2 位	池田	北	駿	北大(4)	0	7	2
3 位	山田	勝	皇	帯畜大	7	0	4
4 位	山本	柏	峰	帯畜大	8	0	

5位	平間	ブラックランバー	酪農大	7.5	4
6位	小林	柏海	帯畜大	12	4
7位	佐久間	緑天鳳	酪農大	8	12
8位	亀山	アーネストヒダカ	北大(4)	12	8
9位	田中	北旋風	北大(3)	16	4.75
10位	毛利	柏雲	帯畜大	15.75	8.25
以上 全日出場権獲得					
12位	小谷	北獅	北大(3)	12	20
	角堂	ファストバロン	北大(3)	33.5	3E

《賞典馬場馬術》

得点率(%)

1位	佐久間	ハミングダンス	酪農大	53.0
2位	中村	ザ・ジェネシス	岩手大	49.9
3位	中本	アークトゥルス	東北大	48.0

以上 全日出場権獲得

《総合馬術》

総合馬術▶					騎乗減点	耐久減点	余力減点	
1位	小林	柏	海	帯畜大	129.7	7.6	0	
2位	山本	柏	峰	帯畜大	149.8	0	5	
3位	林	緑	華	酪農大	145.3	0	10	
4位	山田	柏	朱	鶴	帯畜大	150.7	0	5
5位	亀山	北	凌	北大(4)	146.2	12.8	10	
6位	石井	雪	銀	北里大	150.2	27.2	0	
以上 全日出場権獲得								
7位	池田	北	祥	北大(4)	176.3	0	5	
8位	小谷	北	獅	北大(3)	157.5	10.4	15	
11位	田中	北	旋	風	北大(3)	171.7	22	10.5
	池田	北	駿	北大(4)		3反E		
	寺坂	北	帝	北大(3)		3反E		

《M級C障害飛越》

減点

1位	佐藤	マリオン	弘前大	3
2位	小川	柏峰	帯畜大	4.75
3位	市橋	マリオン	弘前大	16
OPEN	角堂	ファストバロン	北大(3)	8.75

《新人新馬障害飛越》

1位	浦崎	柏嶺	帯畜大	0
2位	吉内	柏峰	帯畜大	0

3 位	小野寺	勝	皇	帯畜大	0
4 位	鈴木	北	凌	北大(2)	0

◆北海道体育大会兼国体予選（於N. H. P 8月23、24日）

＜馬場馬術第2課目＞					得点率(%)								
1位	百瀬	リ	ユ	ー	ク	モモセRF	55.2						
2位	林	ホ	ワ	イ	ト	キ	ッ	ド	十勝地区	54.6			
3位	浦澤	フ	ロ	ー	デ	ィ	ー	ワ	ン	ダ	ー	オーフルHC	54.6
8位	角堂	ス	ズ	ロ	ー	ド	北大(3)	50.3					
10位	尾崎	ス	ズ	ロ	ー	ド	北大(2)	47.0					

◆全日本学生馬術選手権大会（於山梨馬事公苑 9月上旬）

出場選手 池田(4)・亀山(4)

◆第9回ノーザンホースパークカップ（於N. H. P 10月3日）

＜L級標準障害飛越競技＞							減点	J. O	
1位	高野	テ	キ	ー	ラ	十勝地区	0	0	
2位	コステロ	ラ	イ	ン	ハ	ルトシチー	早田RC	0	0
3位	山崎	ス	テ	ー	シ	ョン	オーフルHC	0	0
17位	角堂	北				牙	北大(3)	6	
23位	田中	北		旋		風	北大(3)	16	

＜特定L級標準障害飛越競技＞

1 位	大淵	ア	ブ	サ	ン	十勝地区	0	0				
2 位	工藤	シ	ン	コ	ウ	ク	ラ	ウ	ン	酪農大	0	0
3 位	長谷	マ	リ	ー	ゴ	ー	ル	ド	モモセRF	0	0	
4 位	寺田	北				燕	北大(2)	0	0			
14位	中田	北				燕	北大OB	0	R			
27位	池田	北				彪	北大(4)	8				
28位	田中	北		旋		風	北大(3)	12				

◆秋季北海道自馬馬術大会（於N. H. P 10月4、5日）

＜馬場馬術第2課目＞

得点率(%)

1位	谷口	エ ア ジ ョ ー ダ ン	N.H.P	57.4
2位	風間	ト ー イ ソ ル ジ ャ ー	早田RC	54.4
3位	吉井	ホ ワ イ ト キ ッ ド	日高RC	53.9
17位	中田	北 優	北大OB	50.2
19位	角堂	北 彪	北大(3)	49.0

＜L級標準障害飛越競技＞

減点 J.O

1位	宇佐美	ス テ ー シ ョ ン	オ-フルHC	0	0
2位	川崎	北 駿	北大(2)	0	0
3位	山内	ア ブ サ ン	日高RC	0	0
4位	乗次	北 蘭	北大(3)	0	0
13位	小谷	北 祥	北大(3)	5.5	
23位	浅野	北 獅	北大(3)	12	
OPEN	池田	北 駿	北大(4)	0	
OPEN	小谷	北 獅	北大(3)	8	

＜特定L級標準障害飛越競技 初心者一般の部＞

1位	大崎	北 祥	北大(2)	0	2
2位	佐藤	モ チ ョ ボ ス	N.H.P	0	12
3位	足立	モ チ ョ ボ ス	N.H.P	4	
6位	寺坂	北 燕	北大(3)	4	
10位	鈴木	北 凌	北大(2)	10.5	
12位	藤倉	北 燕	北大(2)	17.25	
open	亀山	北 凌	北大(4)	15.75	

＜特定L級標準障害飛越競技 新馬の部＞

1位	額田	テ イ ク ザ ッ ト	N.H.P	4	R
2位	島田	ワ ン ポ イ ン ト	N.H.P	4	R
3位	織田	ノ ー バ デ ィ ー エ ル ス	帯畜大	8.5	
7位	黒崎	北 優	北大OB	16	
8位	池田	北 彪	北大(4)	18.75	
11位	中田	北 優	北大OB	29.25	

＜標準障害飛越M級C競技＞

1位	山口	メ ド ウ ク リ ー ク	北星RC	0	0
2位	天羽	カ デ ュ セ	日高KF	0	0
3位	鶴見	イ ン デ ィ ア ン	JRA札幌	0	0

11位	亀山	北		蘭	北大(4)	4
12位	小谷	北		獅	北大(3)	8
15位	角堂	北		牙	北大(3)	9.75
18位	池田	北		駿	北大(4)	13.5
22位	田中	北	旋	風	北大(3)	16

◆OB戦（於北海道大学 10月19日）

＜L級障害飛越競技＞

1位	堀崎	北	駿	OB	2位	浅野	北	燕	3年
3位	川崎	北	駿	2年	4位	八木	北	旋風	OB
5位	藤倉	北	燕	2年	6位	池田	北	彪	4年
7位	近藤	北	祥	OB	8位	大崎	北	祥	2年
全馬減点0									

＜新馬の部＞

1位	寺田	北	鈴	2年	2位	黒崎	北	優	OB
3位	乗次	北	彪	3年	4位	中田	北	優	OB
5位	角堂	北	優	3年					
1～3位減点0 4、5位減点4									

＜新人の部＞

1位	長田	北	旋風	1年	2位	森田	北	獅	1年
3位	土肥	北	獅	1年					
全馬減点0									

＜ジムカーナ競技＞

1位	堀崎	北	鈴	OB	2位	荒瀬	北	彪	OB
3位	西村	北	祥	OB	4位	北村	北	祥	OB
5位	鶴見	北	燕	OB	6位	中嶋	北	駿	1年
7位	畔柳	北	鈴	1年	8位	市川	北	彪	OB

◆山下杯河田杯記念馬術大会（於酪農学園大学 11月2日）

＜M級C障害飛越競技＞

【M級C障害飛越競技】						減点	J.O
1位	開発	スーパージャッジ		酪農大	0	0	
2位	寺坂	北	獅	北大(3)	0	4	
3位	林	緑	華	酪農大	0	8	
4位	池田	北	駿	北大(4)	0	R	
5位	小谷	北	獅	北大(3)	4		
7位	田中	北	旋風	北大(3)	8		
	川崎	北	駿	北大(2)	3E		

＜L級障害飛越競技＞

1位	工藤	シンコウクラウン	酪農大	0
2位	平間	ユーフオー	酪農大	0.25
3位	宗形	シンコウクラウン	酪農大	15.75
	乗次	北	蘭	北大(3) 3½E
	中村	北	鈴	北大0B 3½E
open	亀山	北	蘭	北大(4) 0

＜特定L級障害飛越競技＞

1位	大塚	ユーフオー	酪農大	0	0
2位	鈴木	北	燕	北大(2)	0
3位	藤倉	北	燕	北大(2)	0
8位	中田	北	優	北大0B	3
10位	角堂	北	優	北大(3)	9.25

＜ジムカーナ競技＞

1位	和田	北	優	北大(1)
2位	寺沢	スーパージャッジ	酪農大	
3位	佐野	緑	炎	酪農大
4位	井口	北	優	北大(1)
10位	寺田	北	優	北大(2)
12位	浅野	北	優	北大(3)
13位	畔柳	北	旋風	北大(1)
15位	須田	北	旋風	北大(1)

優勝 酪農大 準優勝 北大

◆第20回国立十大学定期戦（於群馬大学 12月6日）

出場選手 金丸(2)・徳永(2)

1位 新潟大 2位 筑波大 3位 北大・群馬大

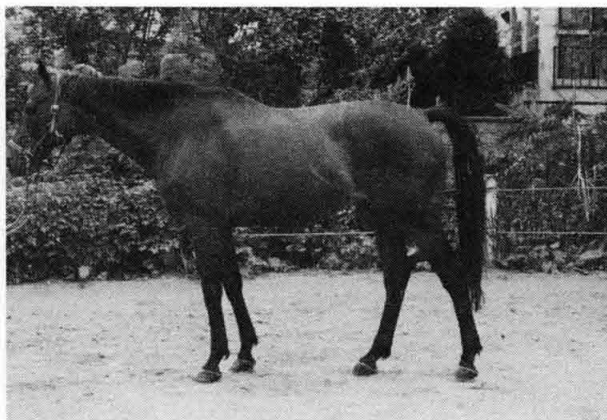
◆全日本学生馬術大会（於JRA馬事公苑 12月10～14日）

＜学生賞典障害飛越（2回走行）＞

				1走目減点	2走目減点	J.O
1位	岡部	ルバシ	東農大	0	0	0
2位	大岩	明	秀	明治大	0	0
3位	山辺	貴	桜	学習院大	0	0
59位	田中	北	旋風	北大(3)	27	32.75
	池田	北	駿	北大(4)	3½E	R

亀山	北	蘭	北大(4)	3反E	R
					得点率(%)
＜学生賞典馬場馬術＞					
1位	奈良崎	ス キ ボ ー ル	日大	61.60	
2位	岡田	白 王 将	中央大	60.14	
3位	衛藤	明 青	明治大	59.09	
					罰数減点
					罰久減点
					余力減点
＜学生賞典総合馬術＞					
1位	福島	明 州	明治大	96.25	0 0
2位	衛藤	ジ ャ カ ナ	明治大	97.67	0 0
3位	野口	ヴァイオンデコセ	日大	93.25	0 11.5
	亀山	北 凌	北大(4)	116.50	3反E

北駿号



昭和58年4月3日生
ア・ア セン 鹿毛 16歳
三石郡三石町産
父 トップホース
母 プルコワヒメ
旧名 チャフルガイ
昭和61年7月入厩

北駿号調教報告

池田 智義

北駿に乗るのは2年目になる。全日の疲れを取るために冬は去年ほどはのらず、常歩中心にハミうけ、横運動をやった。いろんな人から「障害はまあいいとしても馬場はひどすぎる」といわれ、遅まきながら馬場というものを勉強する必要があると思った。3月ごろ審判講習会があったので参加させてもらい、かなり勉強になった。そんな感じでわりあい運動は控えめにした。今年は七大戦の主管であったので、モモセさんに馬を貸していただきたい旨お願いすると「いいよ、いいよ」と二つ返事をいただき、また「乗っていきなさい」といつてくださったので、たびたび七大戦の使用馬匹に乗せていただいて非常に勉強になりました。本当にありがとうございました。

七大戦のため少し調整を早くから行った。北大の中で最も古い馬になってしまった北駿を貸与場の試合で使うのはきついかと思ったが、情けない話だが馬場がまともにできる馬がそれほどいない以上、やむを得なかった。

半澤杯は去年と同じで、中障害と3課目にでた。去年は馬場がひどかったので今年こそはきちんと馬場をふもうと思っていた。中障害は去年と同じ2位、3課目は自分ではそこそこかなと思える出来で、結果はこちらも2位だった。まずまず順調な滑り出しだった。その後は馬場大まであまり日がなかったので、七大戦と半澤杯の疲れを取る意味で障害は軽目に物をとぶだけにした。

3月にJRAの本城さんがアーネストヒダカとグラッドリイの入厩を世話してくださり、半澤杯のすぐあとにN.H.PでW.ニギリさんの馬術講習会にアーネストヒダカで参加させていただいた。ヒダカはすばらしい馬で4課目、MBをこなすレベルだった。その馬に乗って浦河高校の宮竹先生や、鈴木重雄さんたちと一緒にスイス人のニギリさんの講習を受けられたことは非常に大きな刺激になった。そのことがあってから、しばらく馬場馬術を集中してやった。馬場大会には3課目に出場し、その後村上捷治さんのクリニックに参加させていただいた。3課目は3位だった。

馬場大が終わるといよいよ障害を本格的にやる必要があった。コンビネーションを中

心に実戦的な練習をやった。が、馬の運動量を抑えるために、障害は週に1回だけ、F.Wも20分程度で2日は外乗あるいは常歩にした。自馬大は3課目とMCにでた。3課目は4位、MCは2位だった。人馬とも、このレベルは十分クリアしていたと思う。7月に入り、いよいよ北日への調整も頭に入れながら、運動をする必要があった。公認大会は、遂った末にMBに出ることにした。レベルを一つ上げたので準備運動はかなり緊張した。馬の調子は良く、準備馬場で130cmぐらいをどんどんとんでくれた。結果はまたもや2位だった。今年に入ってからなぜか2位がやたらと多かったのも、「万年準優勝」といわれた。

北駿の場合、それほど若くないので考えなかったが、もし若い二走に出る馬に乗っているなら、B級ライセンスをとって東日本を考慮に入れてもよかったと思う。内国産馬であればMCとスピハンCで入賞すればいけるのだから、それほど難しいことではないと思うし、全日の前に一つ大きな舞台でやってみるのも非常に良い経験になるはずだと思うからだ。

さて時期が少し前後してしまったが、公認の前に岩手大学で北日選手権があった。予選が3課目で、決勝が学生賞典とし級程度の障害であった。どういうわけか同輩の亀山と一緒に決勝まで進むことができ、まさか残れると思わなかったのも全く覚えていなかった学生賞典の経路をその場で二人して必死で覚え、めでたく1位2位を独占でき、非常にうれしかった。実はこの時、平成6年卒の岡部姉が応援にかけつけてくださり、前夜たらふく御馳走をしていただいたのだ。岡部姉大変ごちそうさまでした。ありがとうございました。

公認のあとに、畜大にスティーブル馴致にいった。特に隠することなく飛んだので、ひろいとび1回のみでやめた。

北駿は二走がメインで、もし元気であれば総合も使おうと考えていた。北日、フレンジー。準備運動は普通にやった。前半は調子良く飛んでいったが、何番か忘れたがピアノの形をしたついたてを物見して、1反抗してしまった。二走、一走目。準備運動はすごく良かった。馬は軽く脚を使うだけですばらしくいい反応を示し、障害の飛び方も変なつまり方をすることなく大きく飛越していた。思いきり気合をいれて走行に臨んだ。1番、前にだしながらもアプローチで少し起こし、確実に飛ばした。2番、3番、4番といい感じに飛んでいた。4番から5番の間は比較的急な回転だった。左手にバンケットがあり、それから2mほど離れて枯れた木がたっていた。4番を飛んだあと、僕はバンケットと木の間をいこうとしたのだが、馬はいけないと思つたらしく急に右に横飛びした。僕は左に乗った状態になり、馬は木の右横をかすめて走った。「あっ」と思った瞬間に僕の右半身は木にぶつかっていた。それで馬から落ちそうになり、必死で立て直しをはかっている間に後の方からバキバキバキバキ、ズシーンという音がして、振り返ると枯木はあわれにもなご倒されていた。それをみてしばらく呆然としていたが、だれかの「かまわずいけー」という声にはっと我にかえり気合をいれなおし、あとは気合で帰ってきた。飛んでる最中コツンコツンと軽く当てる音がしたので、2落ぐらいやったかなと思ったが、意外なことに満点だった。馬は必要最小限を飛んでおり、賢い馬だと改めて思った。木にぶつかったのも馬のけがが心配だったが、おそらく馬は木にあたっ

ていなかったように思う。僕の膝小僧に小さなすり傷があるだけですんだ。二走目は馬が疲れていて脚のあがりが悪かった。脚があがらず1落して10番障害につっこんで1反抗、結局-7でJ.Oとなった。J.Oは満点でTimeが遅く結果は2位だった。

調教審査は、馬が疲れていてしかもかかりぎみでけっしていい状態ではなかった。めりはりが付けづらく結果も8位だった。耐久の準備運動中の馬は非常に重く、前日の調教審査のとき以上だった。いつまでたっても鈍い感じが残り、決していい状態にならなかった。また、雨のため川が増水し下が悪く、D区間スタートの前に人馬転や落馬が何頭かいると聞いて、あまりスピードは出せないと思った。スタートして1番まで去年のような勢いが馬にはなく、人間が走らせているという感じだった。すこしポッコンとした飛び方をして森に入った。スピードはあまり出さずにいったので、馬のボルテージもあがらないままだった。そのあとにもいくつか切れの悪い飛びをして7番の穴におりたがらず、後退までして全く前進氣勢を失ってしまい、そのまま3反抗で失権してしまった。

北日のあと、引退気分もあってボーッと過ごす日が多かった。秋になってもっと馬が疲れないでしかも失速しない飛ばせ方はないだろうかと考え始めた。そして乗り方を変えてアプローチまでは馬のペースでゆったりと走らせて、アプローチに入り人間が体を起こして座ると馬が前に勢いよくでて、失速することなくとぶようにした。すると以前は馬は左によれたり、失速しながら踏み切りを合わせていたので、今度は踏み切りがあいにくくなってきた。そのため人間が3歩前あるいは4歩前をきちんと見定めて馬にゴーサインを出さねばならず、それは僕の技術や経験では全くあぶなっかしいものであった。そんな中で自馬大をむかえMCに出場することにしたが、普通のバーの障害は難なく飛んだが、ついたてに物見をしてアプローチにすら入らず1反、MC程度だったからそのあとまた前にだしまくって、なんとか帰ってきた。

山下杯はMCにでたが、北日以降の良くない状態からなかなか抜け出せないでいた。僕は満点で帰ってきた。来年乗る予定の下級生もMCにだすことにしたのだが、準備運動からあまり良くなくて、そのままだったの失権してしまった。そのあと僕のJ.Oがあったが、そのまま反抗をくり返し、結果J.Oも失権してしまった。今思えば、良くない状態で下級生を試合にだしてしまったという判断と決断の甘さが命取りになってしまった。下級生は与えられた条件でしか試合にでれないのだから、100%安全といえるレベルでだしてやらないとかえってその下級生に苦手意識を植え付けてしまう、申し訳ないことをしたと思っている。

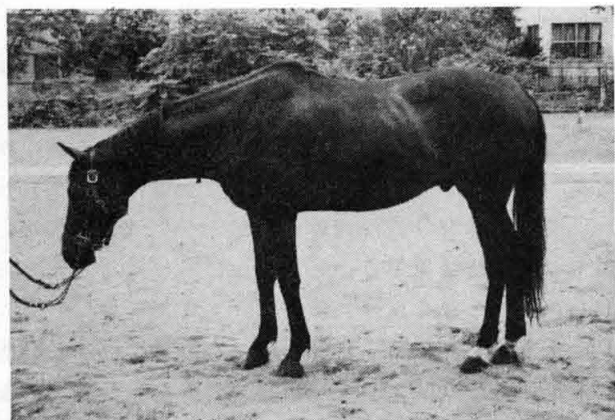
そんなことがあり、全日までにはなんとか人馬共に自信を取りもどさないといけないと思い、コンビネーションを少し多くすることにした。コンビネーションで少し調子を戻しつつあるかなと思っていた矢先、コンビネーションの最後のオクサーを飛んで着地のときにつまずいたのか、少しガクッと前脚が下がった気がした。前脚に大きな負担がかかり、肩をいためてしまったのだった。全日までもう1か月を切るころだった。もうダメだと思った。常歩でさえ痛そうに右前を引きずり、馬房の中でも脚を動かそうとしなかった。次の日からしばらく馬休にし、少しの引き運動を毎日やっていくことにした。全日の1週間前になって少し速歩で調馬索を掛けた。が、跛行はあまりなおっているとはいえなかった。常歩をしないということはなかったが、積極的に歩きはしなかった。

全日に連れていくべきかどうかさんざん迷ったが、北駿にとってこれが最後の全日かもしれないと思い、なおることを祈りながら連れていくことにした。入厩してからは少し興奮して歩きまわっていたが、飼いはほとんど食べず人参さえ口に付けようとはしなかった。とりあえず団体のためにエントリーをして、失権してもいいからでるだえでようと考えて、フレンドリーはやめにして一走目のみでることにした。準備馬場では回転のときに脚がついていけない感じがあった。また、障害を飛んだあとも少しつらそうだった。結局そのままでて、3番で物見をして飛ぶのを嫌がり、失権だった。

この文章をかいている現在(98年5月)北駿はもう北大を離れ、堀崎さん(平成3年卒)のお力添えで釧路の近くの乗馬クラブで余生をすごしています。北駿に2年4か月のあいだ乗ってきて、本当にすばらしい馬だったと思います。北駿には本当にいろいろなことを教えられました。彼は学生が馬術を習うときに最もすばらしい先生であつたし、競技においては最もすばらしいパートナーでした。チアフル、ありがとう。

最後になりましたが北駿、北祥で教えていただいた鶴見兄を初め、多くの方々に様々な形でお世話になり、また応援をいただき、本当にありがとうございました。残念ながらOBの方々に恩返しは出来ないのですが、そのぶんは次の現役をバックアップしていくことでお許しをいただきたいと思います。

北牙号



昭和61年3月8日生

サラ セン 鹿毛 13歳

浦河郡浦河町産

父 スイフトスワロー

母 インターブロッサム

旧名 ファストバロン

平成2年4月入厩

北牙号調教報告

角堂 豪

中田兄がバロンで二走全日出場を決め、自分はその後バロンを譲り受けるということで、いつも中田兄にバロンとその騎乗について教わっていたわけだが、1996年10月13日全日の経路廻りをノーザンで行い、その帰りに馬運車が横転し、バロンは左半面に大けがをした。さすがに僕はその時のバロンを見て、もう駄目だろうか、安楽死させなければならぬのか、という不安に押し込められた。しかし幸いにも骨折はしておらず、命にも別状がなかったのでホッとした。

それからは、バロンは全日出場を断念し、中田兄からバロンを譲り受けた。毎日獣医にいき治療してもらい、ようやく馬を曳くことができるようになったのは12月に入ってからだった。騎乗したのは12月の末ごろからで、速歩はできず外乗にいく程度だった。1月に入ってから、中田兄に調馬索をかけてもらい、少しずつ速歩を取り入れていった。

数か月馬体を休ませていたので、筋肉も落ち、飛節をけがして縫ったせいもあって脚の動きも悪く、騎乗して速歩運動をするレベルではなかったため、2,3月も調馬索での運動で馬体を取り戻していった。また主に外乗で自分とバロンの関係作りを行った。バロンは昔からだ音が敏感な馬であるため、音が近づいてくる時は声を掛けて落ち着かせることとか、どこに行けば馬が嫌がるのかとか、どうすれば馬が気持ちよくその場所に行ってくれるかなどのことを感じようと思ひ、外乗では常に集中し、馬をよく見て乗ることを意識していた。しかしその反面で自分は、次の北日までに時間がないこと、バロンが精神的にも馬体的にも難しい馬であることなどで焦っており、馬をハミ受けさせたとか勘違いしてむりやり屈とうさせたり、速歩をしたり、自然障害をとばせたりと、馬の気持ちを考えずに騎乗したこともあった。中田兄には、「今自己満足にはしり、北日学で馬体になくのと、今我慢して北日で結果を出すのとどっちが大切か」といわれ、焦る気持ちをできるだけ取り除き、中田兄から教わることをできるかぎり吸収していった。4月まではこのように、主に外乗によって馬と自分との関係作りを行ったのだが、

同時にこの時期は、手入れでどうすればバロンが喜ぶか、どうすれば怒るか、どうすれば自分のいうことを聞いてくれるかということ学ぶにはよい機会であり、気を使って手入れをし、バロンと接する機会を増やした。

4月からは馬体もだいぶよくなり騎乗してある程度運動を行った。バロンはハミにかりやすくハミで馬をねじ伏せることは障害逃避につながるため、主に放棄手綱にし、自由速歩や自由駈歩をした。これにより馬の口を楽にして運動することができ、騎手がバランスで馬を動かすよい練習にもなった。その後軽くハミをもって頭はあまり気にせず、減却、移行の練習を行った。ハミ受けの練習は主に綱馬索で感覚をつけていった。障害飛越に関しても、主に放棄手綱での自由飛越を行い、馬を自由にとぼせることを意識した。何回も馬場の箱障害を馴致し、拾い飛びを行い、障害に対するこだわりと、人間の馬への押しつけをなくすことを考えた。半澤杯までにはL級は自分の準備運動でも帰って来ることができたが、「この前進氣勢やリズムではL級までだ」といわれ、半澤杯のL級ジャンプオフで中田兄に準備運動してもらい乗ったときには馬が自分で準備運動したときとは違いやる気、リズムが共にすごくよく、馬についていくので精一杯だった。

5月に入ると北日まであとわずかであるため、また自分の準備運動でMCを帰って来れるようにするために中田兄が丁寧に乗った馬に自分が乗って教わるという方針から方向を変えバランシングレインを使って自分で、バロンの頭を気にせず、自分の推進力と拳のバランスを柔軟にし、半減却を意識してフラットワークをして障害までもっていくという方針にした。それによって自分の騎乗時間、中田兄に下で見ってもらう時間を長くしていった。これはバロンをもっとよい状態まで伸ばすということに関しては悪影響であったが、自分が早くバロンをつかむために中田兄に無理を言ってそのようにしてもらったのである。

自馬大では、自分の初めてのノーザンMCであったため中田兄に少し準備運動で乗ってもらったが、フレンドリーではリバプूलで逃げられ、本番のMCでは他は満点で帰ってきたのに、何でもない1番障害で逃げられて1反抗(総減点3)となってしまった。自分がどこかで気を抜いたり、バロンはハミを引っ張られるとかかって走りやすいのに随伴で遅れてハミを引っ張り次の障害に馬をまっすぐに向けられなかったりしたときに障害を逃げられることが多かったように思う。

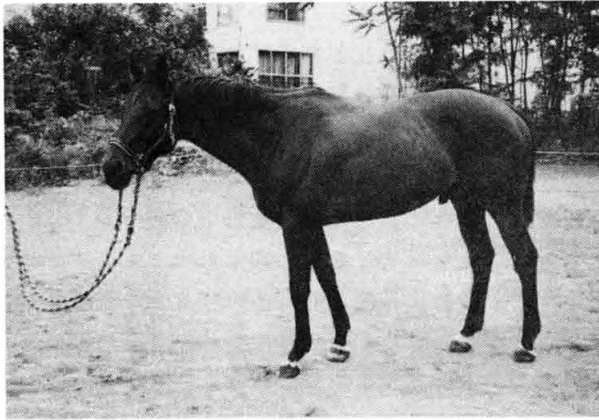
その反省から馬をじゃましないで随伴することと、アプローチでしっかりとリズムを整えまっすぐに入ることを意識しなおし、それに注意して練習を行ったが、公認では途中自分では気を抜いたつもりはないが、随伴のあとの体の起こしが遅く、すぐに馬を手の内に入れられなかったため、その後の障害で一反し、リズムが悪くなりペースがめちゃくちゃな走行になったため二落してしまった。しかも中田兄に、「結果はどうあれ自馬大のときと違い自分で準備運動をしてMC帰ってきたからいいだろう」と言われた(兄は自分を落ちこませないようにと言ってくれたのだと思う)ことに甘んじてしまったがために、自分の失敗の再確認が完全にできずに(仮にできたとしてもそのときの自分のレベルではそれをなおせなかった可能性が高いが)北日の二走に臨むことになってしまった。

北日の二走は、一走目の準備運動では120、130、130のオクサーまで勢いよく飛越し調子がよかったように思えた。しかしその時は馬が反抗しなかったために気付かなかったが、自己満足のために高い障害をやり人間の緊張もあって馬のリズムを無視し、がむしやりに脚を使って馬を追い込んで飛越させていたことも事実であった。一走目の経路走行中、馬が一步入ってから飛越する。そして何かがおかしいと思いがむしやりに脚を使い馬を前にだし、また一步つまづいて飛越する。その内馬のリズムが分からずに焦って自分の頭の中が真っ白になり、10番で2反されあとはボロボロで帰ってきた。ここでようやく自分の準備運動が何かおかしかったのだと思った。二走目の準備運動では一走目のことで精神的にまいっており、馬のリズムを感じとれず、前進氣勢も出せずに2回反抗されて、当然のことながら経路走行前から既に人間が帰って来る自信を失っていた。案の定本番では9番で3反目をおかし、失権となった。その後MCにて、内心馬がよく分からなくなりかけており不安だったが、一応無反抗で帰し無事北日を終えた。しかし結果は二走失権である。MCで帰ってきてMBで帰ってこれなかった。何か違うのだろうか。高さやボリュームは確かに違うし、MCを人間の勢いで帰ってきたことを考えればMBでも帰って来る可能性があったのかもしれない。

しかしそういう問題ではないということがこの北日までの試合を通して分かりかけてきた。馬が飛越するときの「リズムと前進氣勢」。これが毎回の試合で一定に守られていなかったのではなからうか。バロンはいつも気持ちよく良いリズムで障害をとべなかったから毎回試合で反抗したくなかったのではないだろうかと思う。確かに馬がひるんだときに人間が押し切ってやることも必要であるが、馬がとぼうとしているのに人間がハミを引っ張ってじゃまをしたり、腹を脚で圧迫したら馬もとぶ気をなくすと思う。

自分が次のシーズンに向けてやらなければならないことはこの辺りにあると思う。馬のじゃまをしない、リズムをこわさない、馬が興奮していない状態でのよい前進氣勢を作る、ということが今後の試合で勝つために必要であると思う。そのためにはいろいろな方法があると思う。例えば2年生のときはよく分からなかった二蹄跡運動や、低いレベルでしか理解していなかった調馬索、上手に使いこなせなかったバランシングレイン。今後中田兄や他のOBに教わりながら、これらをバロンに一番あったやり方で行い、上手にバロンに伝えることによって自分とバロンの関係がもっとよくなり、来年は必ず勝てると思う。そして誰にきいてもバロンは乗りやすいしわかりやすいと答えられる馬にするのが目標である。

北凌号



昭和62年4月10日生
サラ セン 鹿毛 12歳
浦河郡浦河町産
父 ハギノカムイオー
母 ハギノコトブキ
旧名 ハギノレジェンド
平成4年6月入厩

北凌号調教報告

亀山 巖

3年目のシーズン

全く足りなかった。見通し、計画性、向上心、集中力、すべてにおいて足りなかった。長期的な計画無しに毎日の練習をただなんとなく終える。調教に方向性がなかった。

3年目の北日までを簡単に報告するので反面教師としてほしい。代替り以降3月までの半年間自分はフラットワークに重点を置いた練習をした。別に難しい事を（障害はフラットワークの延長だ。等）考えたのではなく、ただハミ受けをさせられるようになりたかっただけだ。2年目の秋に馬をもらった時点で、自分は満足にハミを受けさせることもできなかった。その危機感が焦りを生み、毎日毎日前をいじくったろくでもない運動ばかり。馬の調教なんて頭の片隅にも無かった。当然馬の状態は悪くなる。上級生に注意されても、「できないのだからしかたない」と開き直り、耳を貸さない。最悪だった。

そうは言っても週1くらいのペースで行っていた障害練習も、雪が積もってからは全くしなくなった。冬の間一回も障害を飛ばなかったせいだろうか、雪解け後の障害は走る走る。狂ったように走りまくり手が付けられない。結局、半澤杯は新人新馬に出場。練習内容をつめ伸ばし中心としたとにかく馬を手の内にいれる運動に変えたのが成功し、試合の数日前にはどうにか経路を落ち着いて回れるくらいにはなった。

半澤杯はどうかクリアしたものの、シーズンは最悪の幕開けだった。ハミ受けはまだまだ満足のいく状態ではなく、減却はきかない。このシーズンは通してL級と三課目に出場したが、いけるという手応えを全く感じないまま北日をむかえてしまった。

北日ではいきなりフレンドリーで3反抗。ただこの3反抗は自分にとって非常に重要なものになった。自分のこれまでのレジェンドへの騎乗は腫れ物に触るような、障害で反抗しても鞭で打たずに愛撫してなだめるような、「走らないでおくれ。頼むから走らないで、あの障害飛んでね、レジェ」と、こう言ったら伝わるだろうか、とにかく消極的な腰抜け騎乗だった。北大の馬場やノーザンなどのなれた場所だったからそれでも飛

んだのだろうが、しかし北里という知らない場所でさらに初めて見る障害に対してあの騎乗では馬が飛ぶはずはなかった。この3反抗をきっかけに、自分は乗り方をがらっと変えた。荒っぽい、推進中心の積極的な騎乗。(当然、目標としてはさらに繊細で柔軟な技術を求める訳だが。)これに気がついたのは本当に大きかった。このシーズンは棒に振ったが、その後の走行で来年に向けての確かな手応えを感じた。

この1年間で得た教訓。

- ・自分の技術がつたなくとも、馬の成長(調教)を織り込んだ練習プログラムを組むべき。
- ・ハミ受けに必要なのは手先の技術でなく、推進と拳の静定。本当に。
- ・馬に対して強く出ること。走られないように腰を引いて乗るのではなく、自分の推進力で予め馬が走る以上のパワーを与えてしまうこと。

3年目の秋～最後のシーズンに向けて

来年、総合で権利を取る。きつと取れる。強い目的意識と確かな手応えを持ってレジェンドとの2年目のシーズンをむかえた。

オレ達は総合一本。二走にはチャレンジしない。失敗した場合、後に続く総合に悪影響を与えることを避けたかったからだ。そのような理由で、障害練習については止まるリスクのある高い障害を飛ぶ必要は無いと考えた。1mまでならレジェンドは放棄手綱で飛べる。駈歩飛越でも1m10cmまでなら問題無くクリアすることも前シーズンの経験から分かっていた。これ以上の高さは求めない。ここまでの高さで絶対に止まらない馬にする。これをまず守った。もう一つ、単一障害を飛ばないこと。これを心がけた。たとえ十分飛べる高さでも、踏み切りがあわなければ止まる恐れがある。そのため障害は必ずダブルにし、第一障害は極端に低いクロスにして必ず踏み切りをあわせるようにした。

フラットワークについてはハーフバスの中心に横運動を多く取り入れた。肩内、腰内もほぼ毎日練習した。これはもちろん調教審査対策であるが、馬の柔軟性を高め、また騎手にとっても内方姿勢をコントロールする良い訓練になった。この内方姿勢のコントロールについては、自分は非常に重要だと考えたため常に意識しながら練習を行った。具体的には練習で左右の内方姿勢を交互に取らせたり、左右の斜め横歩を連続して行うことを練習に取り入れた。また調子が良いときに今までよりも高度な要求をどんどんしていくことを心がけた。収縮駈歩を試みたり、駈歩→停止→後退→駈歩発進(左右交互)というような運動の組み立てをし、脚反応を高めていった。さらに、レジェの得意技である伸長速歩に磨きをかけるため、高さをつけたキャバレッティーにより前肢の上がりと後肢の踏み込みを鍛えた。運動も、キャバレッティー→回転(収縮)→伸長→回転(収縮)→キャバレッティーというような組み立てを行ったりした。

以上を常に心がけ、非常に充実したオフシーズンを送ることができた。今年はやれる。そんな手応えを感じつつ半澤杯にのぞんだ。

半澤の経路周り(練習)では大失敗したが、やはり手応えはあった。まずかったのは自分の経路どりと誘導。レジェンドは良かった。もっと集中し、丁寧に走行しなければ

と反省した。

半澤後、今シーズンのビジョンが見えた。MCでいける、強くそう感じた。不安と葛藤はもちろんあった。総合一本と決めたオレ達にMCに出る必要が本当にあるのか。レジェンドは本当にノーザンでMCを飛べるのか。自分は反抗させずにかえすことができるのか。しかし今後のレジェンドの役割を考えた時、MCを回れるというキャリアをつませることが今できるのならばやらなければならない。これは今の自分にしかできない仕事だと思い決心した。結果、3回の走行で無反抗。落下も徐々に減り、レジェンドの可能性は大きくふくらんだことと思う。

北日について

練習でできないことが本番できるはずがない。また練習でできても、権利を取るためには本番でのミスは許されない。

まず馬場であるが、これは如何に日頃から試合を意識した本気のフラットワークをしているかで決まる。推進気勢、反応、柔軟性、従順性、すべてにおいて毎日サボらず常に最高のレベルでの運動を心がける事。また横運動であるが、これは一ヶ月やそこらでできるようにはならない。冬のうちからはじめ、根気強く続けること。

次にスティーブルだが、当然10回は下見すること。それもただ歩くのではなく、障害の位置、障害間の距離、ロングコースのルート、カーブの具合、コースの起伏、雨天時のぬかるみ具合などをきちんと確認しつつ、実際に走行をした場合に自分の馬が示す反応、騎手が取るべき対応、起こり得るアクシデント等をシュミレートしながら歩き、また走ること。前後するが、馴致はできる限り行くこと。そして、多少無理をしてもとことんやること。「馴致の時やっておけばよかった」と後悔しても遅い。

そして最後に障害。がんばれよ。

全日の感想

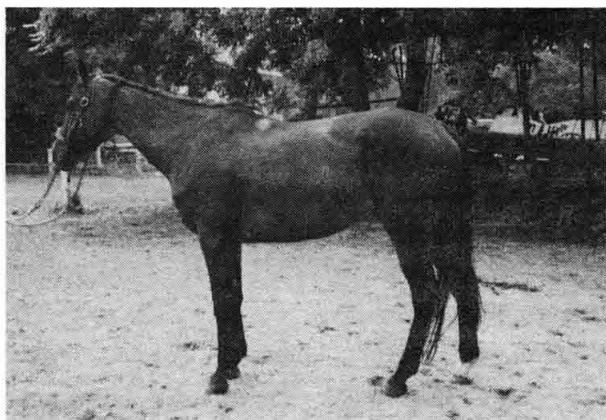
終わりになるが、全日の感想を述べる。まず注意しなければならないことは、曳き馬であまりレジェを興奮させないということ。レジェは混乱するとキレて跳ねる。人馬共に危険である。それは置いておくとして、まず馬場は必須。これは北大馬術部には厳しい注文であるが、君たちが毎日のフラットワークの時間に今までのようないいかげんな運動ではなく、試合当日のような気の張り詰めた運動を行えば今よりずっとましになるはずだ。

次にスティーブルだが、北日のそれとは全く違うものだった。北日の障害が逃げ場の無い一本道にあるのに対し、全日では多くの障害がオープンスペースに突然現われる。自分の技術不足はもちろんだが、レジェンドに関しては、これをクリアするには相当の馴致が必要だろう。ノーザンで、農場のような広い場所で、オープンスペースに設けた障害を飛越するのが有効ではないだろうか。

最後に障害。飛びたかった。

以 上

北旋風号



平成2年3月26日生
 サラ セン 鹿毛 9歳
 沙流郡門別町産
 父 アスワン
 母 ティーjeeブイ
 旧名 トルネードダンサー
 平成5年9月入厩

北旋風と私の全日学への道のり

田中 悟史

私は2年目の9月より騎乗することになった。

入部当初からのイメージは馬体が大きい、口が固く曲がらない、重い、自分勝手な方向に進んでいく、不整地にすぐいきたがる等、良い点としては何の障害でも飛ぶというぐらいである。

この時点での目標：北日の総合にでて、権利をとること。

戦績：秋季自馬大	特L	-12	(26位)
半澤杯	小障害	-4	(13位)
馬場大	3課目	44.7%	(10位)
春季自馬大	L級	0(J.O.-4)	(5位)
	Lスピハン	-10	決勝 -24(6位)
公認	3課目	44.2%	(15位)
	MC	-24	(23位)
	スピハンC	125.50	(20位)
北日	二走	-16	-4.75→-20.75(9位)
	総合 調教	-171.7	耐久-22 余力-10.5
			→-204.2(11位)
秋季自馬大	スピハンC	124.1	(17位)
	MC	-16	
全日	二走	-27	-32.75→-59.75(59位)

最初の時期は馬(北旋風自身)を知ること、運動のやり方を知ること、基本姿勢を身につけること、を考えながら乗った。当時4年目で主将の中村兄より引き継ぐのは容易な

ことではなく、悩むこともしばしばだった。

練習開始したばかりの時間帯に乗ると、まずぜんぜん動かなく打脚をしても言うことを聞いてくれない。中村兄の乗った直後に乗ってもほんのちょっとは馬が動くようになるのだが、10分も運動すればもう自分の体がくたくたになり、授業にいく体力がなくなる。

中村兄が乗れば馬が動き、自分が乗ると時間と共にどんどん重くなり、何をしたらいいのかわからなくなることの毎日で、月日だけが過ぎていく感じだった。障害を飛ぶこと、障害の経路をまわるときだけがその毎日の中でましだと思うほどだった。障害は週に2、3回。コンビネーション、拾い飛び中心で駈歩飛越の練習はあまりやらなかった。その後1996年10月に馬運車横転事故にあってしまう。

事故後の馬体

事故直後、左前膝の肉がえぐれ、そこからの感染と思われるフレグモーネが左前膝付近に発生した。1週間でおわる。

獣医にみてもらったのは事故より2日後で、左前肢内側の骨瘤が大きくなっていた。(ひき運動等でそこが熱をもったら冷やすよう言われたが、1回も熱を持っていないので放置<蹄洗後の放冷程度まで>している。未だにその大きさは変わらないが跛行等の異常はまったくない)

獣医の指示をもとに2、3日に1回みてもらいながら、念には念を押して1ヶ月はひき運動、放牧はなし。

11月末、12月初めぐらいからひき運動を始めるが、馬が張っていてすぐ走りだす、飛びはねることを繰り返して手がつけれない。ひき馬のとき3、4回蹴られそうになる等(あと数cmで当たるぐらい)、かなり危険な状態が続いた。

いつから人が乗り始めるかはかなり迷うところで、乗ったとたん走りだしたら1年生では止めることは不可能であるし、かと言ってこのころの馬場の状態はガチガチに固くなっているのを患部(関節であるから)への悪影響が心配され、2年生以上が乗っても脚の負担になることは予想できる。1週間は自分が30分ひいて、馬場の状態が良いときは調馬索、その後に15分以内の自由常歩程度の運動をした。

調馬索…馬休で固くなった馬の体をほぐす、いきなりハミを持たないで嫌がられないように心がけている。

自由常歩…乗り始めて馬が人を嫌がらないように。気楽な気持ちで。

運動開始後の練習はまず外乗30分、調馬索40分(20分は1年生が乗る)、中村兄が60分ぐらい乗り調教、その後自分がハミを持って乗り、輪乗り上でハミ受けを誘う。常歩中心で、調馬索では速歩中心とした。

冬が過ぎて馬場でしっかり運動できるようになり、毎日中村兄に見てもらって練習した。障害練習もよくさせてもらった。月日がたつところにだんだん自分でも動くようにな

った頃は、もうすでに馴致の季節であった。

畜大馴致は6月初めと7月中旬に行った。入部当初はまだほかの馬の後について飛んでいたのだが、トルは何でも飛ぶ馬であるため、現在は先頭で飛ぶような位置付けである。1日目は中村兄が全て飛んで問題なかった。自分で乗ったときもその性格のため何事もなく野外の障害をクリアすると思っていたが、稲妻障害だけは何回も嫌がったため、中村兄に代わってもらい飛ばせることができ、その後自分のときもトルは飛んでくれた。失敗は野外の障害は幅が大きく、見た目も大きく感じるため人間が構えてしまい、前進氣勢が無い状態で向かってしまったためである。また馬が飛んでくれるため何が何でも飛ばせるという気持ちもかけてしまっていた。畜大自体には毎年連れてきているので、馬は慣れてきたようである。

2回目に行ったときは野外を通しでまわったが、最後の最後で油断してしまいトリプルで反抗された。タイムは時間内にまわることができ、それ以外は難なくまわることが出来たので、より一層畜大の野外で毎年毎年何人かが最終のトリプルで反抗されていることが実感でき、本番では反抗されないよう肝に命じておいた。

北日まではN.H.Pの大会には全て出場し、試合経験だけはだれにも負けないと言えた。馬体が丈夫であるということもあったし。

北日学 1997年8月3日(日) 帯広畜産大学到着

6月、7月と北日学前に2回馴致に来ているし、その前の年までも来ているので慣れているはずだが、北日学の雰囲気のにまれたのか緊張しているようだった。

4(月)、5(火)

練習時、駈歩で頭を巻き込ませている感じだった。落ち着いた駈歩はする。左手前が内方姿勢をとらない。

6(水) フレンドリーの日

朝軽く乗り、堅くない状態でフレンドリーにのぞみ、初めて見る障害(ピアノ)に一瞬よけようとしたが気合で飛ばせ、肢も良く上がっているので問題なし、結果は満点。

7(木) 二走(1日目)

朝はひき運動をこなした。準備馬場で準備運動を始める。後退からの駈歩発進や伸ばすときなど、脚反応はかなり良く、障害の踏み切りも良い。ただ左手前では馬体がまっすぐにならずに傾く。

総合に照準を合わせていたので、待機馬場内でも緊張していなかった。

出番になり、本馬場に入ってから馬は驚く様子も無く、すんなりと左手前の駈歩がでた。馬が前に走っていく様子であったので、行き過ぎないように軽く腰を浮かせて合わせて①に向かう。

①から馬の集中力は良く肢が上がる。③から④の回転のため③前で手綱を少し強くもち、④のために押さえたが、回転しづらく腰を押しつけて内方手綱をひっぱり④へ向かう。しかし馬が失速する様子もなく、踏み切りもいい感じで飛べた。

⑤へは馬が躊躇する感じがあり、前進氣勢が感じられなくなり、落下。

⑥も飛びづらそうだった

⑦(ピアノ)も失速しそうになり、⑧aとの間歩も合わずに、落下。その後起こすことを念頭にb、c通過。

⑧cから⑨までの足場の悪さと、馬に一息入れさせることをかんがえて(自分でも何故そうしたのか不明)速歩を2、3歩いれて再走。

⑩は踏み切りが近く、落下。

⑫から⑬aの間歩が合わずにaを落下したが、bはうまく肢を抜いてくれた。

⑭は問題なし。結果は4落。

自分としてはこの結果にもう1個は落さずにできたと思ったが、まあまあではないかと思った。

8(金) 二走(2日目)

朝ひき運動をこなした。準備馬場での反応は1日目と同じでいい感じで、いけると思った。発進(左手前)は良かったが、内に入られた駈歩をしてしまう。

出番となり、「さあてと、やるか」と思い、経路を確認し駈歩発進。①の障害への集中力は1日目と比べひどいもので、よく落下しなかったなと思うほど。

しかし②以降は感じを取り戻したのかいい。

やはり③から④の回転だけは難があり、内方を引っ張らざるを得なかった。⑤へ向かう前、馬の頭が巻き込んできて、飛びづらそうにしていたが、肢をうまく抜く。⑥も前日とはちがい⑦から⑧は間歩が広がり、ピッタリでa、b、cと難なく通過。

ここまでバーの落ちる音は1回もなく、自分の耳を疑っていたが、どうやら本当の事らしいのは、観客の声で分かる。

⑨は自分がバランスを崩し、上に飛べなくて膝からバーを当てて落下。

その後もリズムはかなり良く、そのままそこからは1つも落さずにゴールしてしまった。

ゴールした瞬間に、ワーッとという歓声が聞こえ、まさか1落だけなのかと疑い、ゴールしたあとも馬場内を見回し1落だけなのを確認した。全くもって二走なんて狙えないと思っていたので、自分の方がかなり驚いてしまった。何度も馬付きの畔柳君に聞き直したが、やはり1落らしい。もしかしたら、もしかして二走の権利が取れてしまったらしいのだ。「やっつったー!!」と退場していくときに大声を出してしまった。うーん、いまでも信じられないことだ。全日学に出場できるということで、もうすでに興奮していた。

9(土) 総合(調教)

朝ひき運動。

馬場は元から考えていなくて、頭が高かろうが意識せずにはしていた。

準備馬場では反対駈歩はうまくできていた、横運動は元よりできないが脚に対する反抗はなかった。

柵内に入ると一変し、右脚にたいして反抗し続け、肩内も脚に反抗して腰が内に入ったりとさんざん。せめて駈歩区間はと思ったがいきなり反対駈歩がでたり、手前を変えられたりと、いいところが全くなし。かろうじて10mの半巻きがうまくできたところぐらいなもの。

10(日) 総合(耐久)

耐久の障害は幅のあるものも多いので、踏み切りを遠くから飛ぶように調整するよう心がけた。

馬が前に自然にできるようにさせたかったが、疲れているのか思うように前にでない。

実際地面がぬかるんでいてスピードが出せないとのことから、ゆっくり過ぎるペースでいってしまった。

3、6番の乾ごう壁、大乾ごうはペースが遅く飛べるかどうか不安であったが、なんとか飛んでくれた。

草地にでてから、スピードを飛ばしきれなかったし、森に入ってからスキージャンプまでも速歩でいってしまったりとタイムがかかりすぎた。

スキージャンプの後いつも馬が走っていくのだが、バウンスが危険なのでそうさせないようにしたらロードパッシングも行きづらそうだった。ピアノバンケの後、下り乾ごうのAのためにスピードを出さずにロスした。その後サイコロの後も同様。

最後の3連続の前で、自分も落ち着けるために坂の上で常歩にした。(馴致のときは3つ目できられたのだが)それが良かったのではないかな。

11(月) 総合(余力)

朝の時点では元気だと思っていたが、準備運動を始めると意外と重く、かつ自分の体力も無く、馬とのバランスも悪い。

一通り二走と同じ準備運動をしたが、いまいち前に出ていないらしい。自分では押さえきみでちょうど良いと思っていたが、馬は肢が上がっていない。本番になれば二走と同様に大丈夫だろうと期待をしていた。

しかし実際は二走よりも障害間が広くそれを走らせるだけでもへばってしまい、脚が使えなかった。

馬の丁寧さから①～⑧まで落下なし、しかし馬場を横切る斜めの直線で⑨(ピアノ)、⑩(馬の絵)を共に落下してしまった。

結局は馬も人も体力をもたせられなかったことから来る結果であったと思う。

北日後から全日までは、自分でさらにもっと馬を自由に動かせるようにすることを考えながら練習した。ただ、全日の二走の経路は例年とは異なるものであるということだ

かなり動揺していた。そしてついに全日学の季節となった。

全日学 1997年12月7日(日)PM1:00頃 J R A 馬事公苑到着

トルは初めての地にキョロキョロし、立ち止まり、物音に驚く。全く落ち着かない。ボロはゲリ。

PM4:00からもサウススクエアでひき馬するが全く落ち着かない。

8(月)

午前中まずサウススクエアで乗るがぜんぜん落ち着かない。少しでも強い扶助をしないと走りだす。とりあえず走路の方へいって乗ってみるが、変わらない。ただ沈黙運動を兼ねて輪乗りを続けて落ち着くまでやった。駈歩も同様。帰り道の方を向くと帰りたいるので落ち着かせた。

走路の障害も飛んだが、クロスを繰り返し、オクサーは高さ100cmまで、幅もあまりやらなかった。次にメインアリーナの準備馬場で障害をやったが、オクサー幅120cm程度、高さ110cm程度まで。飛び方は腰をひねって飛んでいた。

9(火) フレンドシップの日

朝ひき馬をし、まだキョロキョロし、ゲリ続く。

サウススクエアで準備運動をし、準備馬場で障害を飛ぶが、馬体は堅く、肢が上がらない。駈歩のリズムにも合わせられない。110×120cmのオクサーにも拒止した。少し低くしてやり直し、ほどほどで切り上げ出番を待った。

本馬場では観客席の人々に驚き、不正駈歩がでるが、落ち着いて出し直した。

①で躊躇したが飛び、走り、②前で落ち着くが飛び悪く落下。

反対駈歩のまま回転し、不正駈歩のまま向かってしまい③レンガで右に逃避、高さは110×120のオクサーぐらい。2回目飛ばしたが着地でバランスを崩し、④も右に逃避。④も2回目はなんとか飛んでくれた。

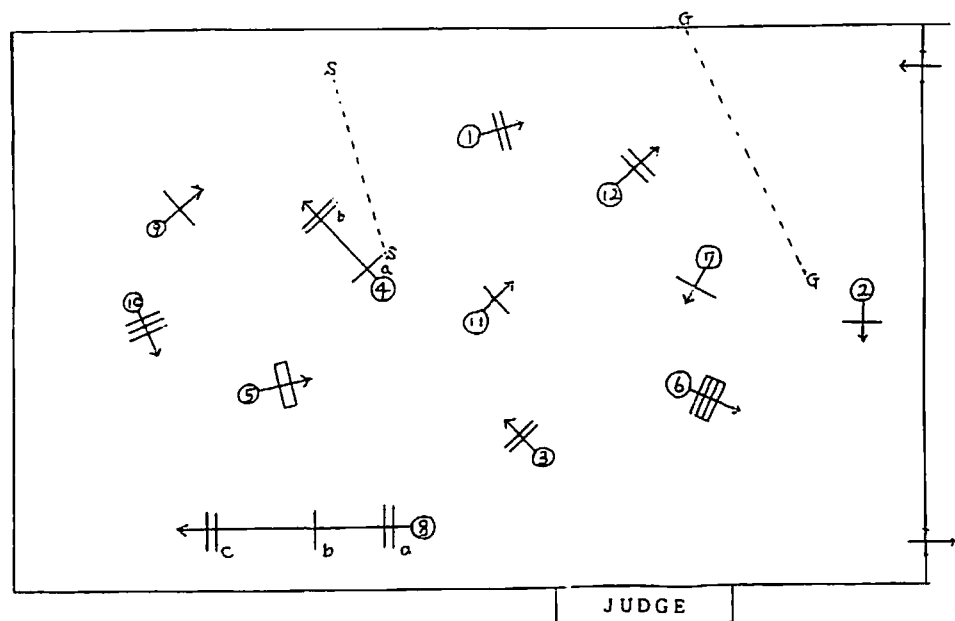
その後頭の中が真っ白になりながらも、3反失権だけはしないようにと思っただけで、あとは記憶にない。ゴールできたものの、結果は2反5落。

10(水) 二走(1日目)

全日1週間前から北大では馬場が凍り、乗れなくなっていて、東京に来て激しい運動を始めたので馬体が筋肉痛になっているのではないかと思い、常歩運動を多く取り入れた(その時人間は相当の筋肉痛だった)。前に動かそうとあせらせぎみに準備運動をし、その後で駈歩のゆっくりした運動を多めにして駈歩での反応を確かめたが反応は無く、鞭の使用による前進氣勢に頼るが、サウススクエアでの障害飛越は踏み切りのタイミングも、脚を使用するタイミングも適度でなく、馬には分かりづらいものであったと思う。

準備馬場に移りそこでも同じような状態が続き、なんとか自分に注意を向けさせようとしたがなかなかまとまらなく、数回飛越して(実際数回飛越する時間しかないが)まあいい状態になったかなと思ったあたりで順番を待った。

馬場の中にはいる前に深呼吸をし、ここまで来るために色々な練習をしてきたのだと思い返し、今までやってきたことを全てここで出してやろうと決心をあらたにした。



本馬場に入って、人間は緊張していないのだが、馬はだいぶ緊張しているようであった。

敬礼後ベルが鳴り経路を再確認し、ただちに駈歩発進させた。駈歩発進はスムーズにいったが、スタートまでの距離をあまり取っていなかったので脚反応の確認はやらなかった。あとで考えれば前に1回出してつめるといった作業は絶対不可欠なことであったと思う。これは2回目に対してもいえた。(馬場の半周程度しか距離をとっていなかった)

スタートを通過し、①の飛越後どうも手の内に入らないというか、自然につんのめっていくのを防げないで走っている。②は馬の体が全然起きてないので落下、③に向かい躊躇していないのでいい感じではないかと思っていたが(フレンドシップで反抗しているため)、ペースが遅いため飛ぶ感じもよっこらしょという感じだった。それでも乗っているほうは飛んではいるので(随伴はとてもしづらかったが)問題ないと思っていた。ただ、随伴が遅れてリカバリーできず、④(ダブル)に躊躇する感じがしたので肩に鞭をいれて、なんとか飛ばせた。

⑤に向かう回転は良く、たて直ったかに思えたが、⑤の水道橋の高さが130cmであることもあり、落下。また人間が構えてしまったせいでもあった。

⑥も遠くから飛ぶ。⑦飛越後のリカバリー、回転、向かい方、どれを取っても問題なくこれは反抗なしでいけるのではないかと思った矢先に⑧(トリプル)のaで反抗(右逃避)した。かなり焦り「落ち着け、落ち着け」と心の中でつぶやいた。1回速歩に落して、

もう1度右手前駆歩をしっかりと出させた。再び向かいなんとか飛ばせようと気合をいれて飛ばした。aで飛び方が悪く、人がついていけない、前に人の体重が重くのしかかってつぶれていたが、bで馬が飛んでくれ、cも同様。ここに来て放棄手綱の飛越が救ってくれたのだ。(b、cでは全然手綱は張れてない)

⑨はそのリカバリーの悪さからと思われる落下。⑩も踏み切りがあわずに落下。

結果 1反4落(+タイム減点)

それでも前日より進歩している感じだった。

11(火) 二走(2日目)

競技開始時刻が配布された時刻と異なっていたため、準備運動はあわただしいものになってしまった。

速歩での脚反応も良くなく、前進氣勢にかけていた。駆歩で運動を始めても肢が上がって来る感じが全然しないので、常歩からやり直した。前肢旋回、後退、と脚反応、ハミ反応を確かめ、もう1度駆歩を始める。

今度はいけると感じたので、障害を飛び高さを上げていった。特に踏み切りがあわないので、オクサーを広げて遠くから踏み切るようにした。サウススクエアから準備馬場に移り障害を数回飛越し、良い状態で出番を待った。

前日の⑧(トリプル)での反抗が頭の中をよぎるが、準備運動の段階では前日よりは良くなったと感じたので、大丈夫だと自分に言い聞かせる。深呼吸をし、あわてないようにした。なぜかいつもこの待機馬場で待っているとき、全然自分は緊張しない。それほど集中しているのだ、とでも言っておこう。

この時、この出番が今シーズン最後の出番であり、またこの馬の正価が問われているときでもある。この馬も厩馬リストに乗ったこともあり、よくここまで来たというのと同時に、この結果が即そういうことにつながる可能性もあるのだから、しっかりこの馬を生かしてやるのがいま自分にできる精一杯の仕事であるのだ。全日学での自分の出番をもうすこし味わっていたいものだと思います、またこのプレッシャーから早くのがれたいなどと、色々な想いが頭の中をかけめぐる。

名前が呼ばれ「さあ、自分の出番だ。よし、やってやるぞ」と気合をいれ直し、入場、敬礼して、経路を確認して、駆歩発進する。

①で突っ込んで飛び、馬が前へかかってくる。②への回転でたてなおし、そこからようやく馬が飛ぶ気になり、気合も入ってくる。③、④a bをつまみながらも飛越し、⑤では近い踏み切りにより落下。

⑥のリバプールは幅、高さともにあったが、遠くから飛び、そのため体勢が崩れそうになったが、なんとか崩れずに回転していく。

問題なのは、やはり⑦飛越後であるのでかなり慎重に向かったつもりだが、⑦を落下し、馬が右手前に変え⑧に向かった。

が、初めからよける体勢で右に腰をひねりながら、右逃避された。その直後、1回速歩に落として落ちつけてから駆歩しようと思っていたが、馬は駆歩を維持していて、「タイム減点もかなりかかってしまうだろう」と考え、このまま向けてしまおうと決め

てしまったのが間違いであった。実際1回目と同じパターンで右肩からよけさせないよう右肩に鞭を何回もいれ、右手綱もしっかり張っていたが、それでも馬のよける力に負け、右逃避2回目となってしまった。

頭が真っ白になり、その次の瞬間に失権だけはなんとかまぬがれたと思い、その一瞬でなんでこの馬がこんなに嫌がるのだろうか、トリプルでその向こうに観客が見えるのが怖いのか、はたまたトリブルの間歩が分からなくて怖いのか、などなどと色々考え、自分ではとある結論に達する。トリブルが並んでいて大きいために、あいだが見えなくて怖いのではないかと、との結論に。この2回目の右逃避された瞬間に、このような様々な考えがよぎり(そんな一瞬でそこまで頭が回転するか!と読者は思っているのではないかと思います、実際にそのほんの一瞬が長く感じ、自分だけの時計が止まっているのではないかと思うことは、読者も体験したことがあるはずです。それと同じ状況でした。本当に。)、自分の結論からすれば、このトリブルの間に入って馬に理解させれば良いのだと思い、その2反抗されたaのすぐ裏、つまりaとbの間に馬を通らせた。(反抗している間の時間であるので大丈夫だと思った。)ただし見させたというより、反抗中に通過しただけ。乗馬教本にもあったが、同じ手前で障害を反抗したとき、もう一方の手前で向かえば良い、というのにも当てはまると思う。(左手前にはなっていないが、正面に障害がある感じになる。)

ただその方式を取ったために、向かい直すにもトリブルの直線上にしかアプローチが無くなってしまった。これは失敗だったかと思ったが、ここは何が何でもやるしかない。aとbの間を通り、ラチ沿いをゆっくり速歩で通り、⑧の直線上遠くから⑨に常歩で向けさせ、発進させた。

今度は馬体を曲げることなく障害に向かっていったので、「大丈夫だ、大丈夫だ」と自分に言い聞かせ、馬にも言い聞かせ、もうこのあとは推進する以外には、馬を信じるしかなかった。悲痛にも聞こえるような声を自分が発し、馬に気合で飛んでもらった。北大の仲間の声もその時間こえた。特に主将の角堂の声が。半分自分も泣きそうだったし、馬も泣きそうになっていたように見えていた。

でもトルは飛んでくれた。aで馬の飛び方が下手で、人も下手でついていけなくて前につぶれたが、それでもトルはbも、さらにcも飛んでくれた。

(ちょっとはなしがそれますが)

あとで聞いたことだが、この⑧(トリブル)でのこの馬の飛越を、ある東京の私大の監督が褒めていたということらしい(どこの大学か分からないが)。「何であんな体勢で馬が飛ぶのか」と。馬の飛び方も下手であるし、それより何より騎手が下手すぎて随伴も何もなく馬の邪魔をしていて、ハミは引っ張ったり、コンタクトも無かったりと、また人が前につぶれて体重を前にのしかかったままにいるなどと。こんな馬いるのかと。

自分たちはほとんど皆、大学に入ってから馬に初めて乗り、また練習の上達するシステムが我が部にはなく、技術が上達するような練習馬もいないし、コーチもいない。馬も競走馬で走れなくなった馬をもらって、競技馬として調教していくのも現役の自分たち、ないしは1年、2年上の先輩が行うのでたいしたことない。

この馬(トル)も競走馬であったのを我が部につれてきてから、競技馬として調教し始

めた馬である。そのためハミ受けなども全然できないし(人間が下手である影響が大きい)、馬場運動なんてとてもじゃないが人に見せられない。

でもこの馬は、この障害の高さぐらいだったら、たいてい飛べる。飛んでくれる。コンタクトがなくても。人が下手でも。それだけがとりえなのです。

この⑧のa b cの間でこの馬はそのことを実践してくれたのです。自分がかなり下手であるにもかかわらず。もっと上手な人が乗れば反抗などしないでまわってこれるはずであるのに。

ただ、この時自分はこの馬とコンビを組んで1年と3か月ぐらいでした。この馬の嫌がること、好きなこと、くせなどなんでも分かる仲にはなりましたし、それだけは自信があります。遠くにいても呼ばば振り向いてくれます。呼ばなくても、草を食べていても、気配を感じてこっちに近づいてきたりもします。

そんな仲だから、下手である自分が乗っていても飛んでくれたはずだと思っています。そんな関係が、ここ一番のところで効果を発したのだと自分は言いたい。下手なりの考え方で申し訳ありません。

(だいぶ話がそれましたが元に戻しまして)

まあ何はともあれ⑧をクリアしてほっとしたが、まだ競技は終わっていない。まだ⑨、⑩、⑪、⑫があるのだから。ここまで来たら絶対にゴールまでたどりつかなくては、全日の初舞台でもトルは失権しない馬であることを証明してみせなければ。北大代表、はたまた北日でギリギリの成績で出れるようなものであっても北日本の代表であるのだから。

⑨より後は無我夢中で飛ばせた。踏み切りも全く合わなくて飛びづらそうであったし、人もただ乗っかっただけだったが、なんとかゴールすることができた。

ゴールした瞬間自分の目にうつすらと涙が浮かんでいた。トルにも「良く頑張ったね、ありがとう、ありがとう…」と言い、よく愛撫してあげ、褒めすぎかと思うぐらい褒めて上げた。

今年度の目標としては、馬自体に反抗させないこと、それだけを考えていて(落下、タイム減点は気にしないということ)、それは全日学において達成できなかったが、今年度1回も失権することなく競技することはできた。全日学でももう少し良い結果を残せるような走行はできたはずであったが、その課題、その反省は来年度に持ち越し、また新たな気持ちで来年度の全日学に向けて調整していきたいと思います(まだ3年目なので、来年度も乗る予定です)。

・トルへ 今年度の締めくくりとしては不満が残ってしまうけど、よくぞこの1年間下手な自分を全日学に出場するまでにしてくれて、連れていってくれてどうもありがとう。

・最後に 言うことを聞かない自分を最後まで指導して下さった中村兄、中村兄のかわりに全日学で指導して下さった中田兄、そして支えて下さった市川部長をはじめとするOBの方々にお礼を申し上げます。

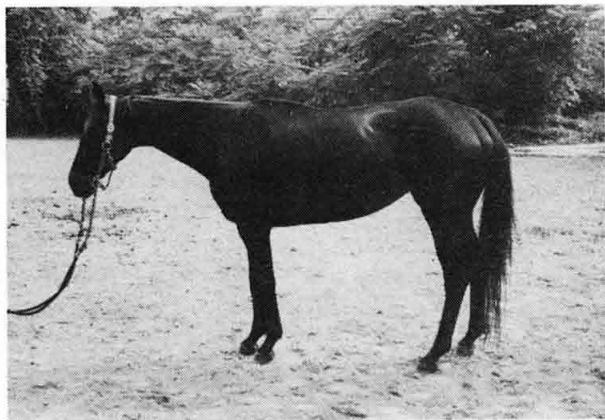
そして馬付きをやってくれた森田君ほか応援してくれた現役の皆様。ありがとうございました。

まだ自分には来年もあるのでこれで終わりではありません。引き続きご指導のほどよろしくお願いいたします。来年度もまた全日学というすばらしい舞台で活躍できるように頑張りたいと思います。

一生懸命応援してくれて、ゴールしたあと一緒に感動してくれた角堂主将へ、来年は全日学と一緒に団体の成績を残そうぜ。

かなり読みづらく、調教報告とかけ離れたものとなってしまいましたが、箱一杯書いたつもりですので、飛ばさずにお読み頂ければ幸いです。どうもありがとうございました。

北燕号調教報告



昭和63年 5月9日生
サラ 牝 黒鹿毛 11歳
勇払郡鶴川町産
父 サークアード
母 カミノダイアナ
旧名 フライト
平成5年11月入厩

北燕号調教報告

河合 由枝

今年度、フライトそして私に課せられた役割は3つあった。

- (1) 来年チーフを目指す人を騎乗させ、指導をしながら、準備運動、練習メニューのたて方から、試合に至るまでの練習をさせること。
- (2) 練習馬として、練習時に多くの人を乗せ、フラットワークや障害の練習をさせること。
- (3) できるだけ多くの人をレベルに応じた試合に出場させること。

(1) に関して

3年目の乗次が騎乗していた。準備運動としては、細かいことよりもとにかく馬を大きくからだ全体を使って運動させることを重要視させた。方針としては、できるだけ乗次が騎乗し、うまくいかないところが私が騎乗し、その後再び乗次が乗るというようにして、馬の良い状態やその時のイメージなどを体で感じてもらうこととした。さらに乗次ができるようになったことは、どんどん自分でやらせるようにして、彼女が騎乗する割合を増やしていけば良いと思っていた。彼女自身、色々と悩み、苦勞していたと思う。乗次の課題として、馬を推進できないこと、またそのことによって、準備運動で馬のボルテージがあげられないことや、ハミを強く持てないということがあった。

試合においても、基本的に方針は同じで、できるだけ乗次の力でやってほしいと思っていた。しかし、試合に出て先に経路をまわるということはしないかわりに、下乗りは必ず行い、準備運動では完全と思われる段階まで状態を良くしてから、試合に出すということにだけはこだわっていた。全てをやらせて、失敗したらそれも勉強だという考え方もできるかもしれないが、そのように失敗から学ぶということは、練習時において十分にできる事であると思うし、あえて失敗するとわかっていて試合にだすということは、選手にも馬にも不名誉な結果を残してしまう。もちろんそれで全てがうまくいったわけではなかった。

春の自馬大のフレンドリーでは、馴致をしたにもかかわらず、フライトがリバプールを嫌い、また急な回転の後の障害で減速してしまったこともあって、2反抗をまねき、次の障害での反抗により3反抗失権となってしまった。やむを得ず、私も経路をまわり、ゴールした後、もう1度乗次が出場した。今度は彼女も満点でゴールを切った。

最初に経路をまわる際に、いかにしっかりとフライトを飛ばせるか、課題は残った。フライトは1度飛んだ経路もしくは障害は2度目からはスムーズにこなせるが、最初は躊躇することが多くあり、馬としての大きな課題であった。

また公認大会では、私は学校の都合で試合にいけず、現役に任せたが、その時は準備運動が不十分でボルテージをあげきれず、良い結果が残せなかった。見ていた上級生は、乗次の準備運動を見ていて、「大丈夫だろう」と思い、下乗りをせずに試合にだしたといった。この時は、「必ず上級生が下乗りすること」と私がきちんと念を押さなかったことが原因で、私のミスだと思った。

乗次にとって、今年がどのようなシーズンであっただろうか。フライトに騎乗し、良い成績を残す事ができなかったという点においては、乗次もフライトも私も、決して成功してはいなかったといえるだろう。しかし希望的な見方をすれば、乗次がこの1年間で学んだことを来年生かすことができたならば、この1年はある程度意味のあるものであったといえるだろうし、私も彼女の成長に少しでも力を貸せたのであれば、うれしいと思う。

(2)に関して

重要視したこと

①馬体管理—常に故障なく騎乗することのできる馬体作りと運動管理

②レベルに応じた練習方法の確立—例えば、障害の練習において

- ・1年目レベル(目的：障害を飛ぶことになれる)

練習内容：低いクロス(必ずふみきりを置いて飛ばせること)

注意したこと：馬を落ち着かせるため、常歩で。障害に向かって直線に入ったら速歩にする。多くの注意を言っても混乱するので、次の2点だけに注意を集中させ、守らせるようにする。

- ・あぶみにしっかりと立つこと、前を向いて飛ぶこと(障害姿勢)

- ・手綱は持ってよいので、飛ぶときには必ずたてがみを持つこと

大事なことは、障害を飛ぶことを楽しいと思えるようにすることである。

- ・2年目レベル(目的：馬のコントロール《めりはり》をつかむ。リズム良く飛ばす)

練習内容：主にコンビネーション

注意したこと：障害に向かう、飛越時、リカバリー、直線上、回転時などに分けて、どの段階でどのようなことをしなくてはならないかを注意していく。馬への要求が足りないときは注意を促す。

- ・3年目レベル以上(目的：経路をまわることを想定して)

練習内容：コンビネーションから駢歩飛越へ

注意したこと：馬のボルテージ、直線と回転におけるスピード、障害前で馬を起こすこと。

どの馬でも、練習方法を工夫し、的を絞って注意を行えば、初心者から上級者までの練習に使えらると思う。それぞれの練習に応じた馬の状態を作ることと、馬に対しても悪影響をおよぼさないように注意すべきだと思う。

フライト自身は、長い練習時間に関わらず、常に元気で多くの下級生の練習を担ってくれたと思うし、そういう意味においてフライトは役割を果たしていたと思っている。

(3) に関して

特に下級生を新人新馬レベルの試合にできるだけ多く出したいと思っていた。馬としては、ある程度のスピードで障害に向かえば、新人新馬レベルの障害ならば、必ず飛ぶという状態にすることを目標とした。下級生が乗って経路をまわろうとすると、やはり回転などで減速してしまうと、そのまま障害前で止まってしまうこともあり、「とにかく馬をしっかり前に出して、まっすぐに障害に向けること」だけを特に注意した。それが守れた人は良い成績を残せたし、一方守りきれずにうまくいかなかった人もいたが、下級生の試合に関しては、それなりに学んだことと、思い出とを残せたのではないかと思っている。

結局、調教報告とは言い難い、誰に対して、何が伝えたいのか自分でも良く分からない内容になってしまったことを、お詫びいたします。

今年1年、私自身も学校の方が忙しく、またそれを言い訳に、馬の調教・下級生の指導など不十分であったことに対しては、申し訳なく感じています。この1年、フライトに騎乗した部員それぞれが、そこから何かを学び、この先それを次のステップに役立ててくれることを期待しています。この報告において、騎乗に関する注意や調教に関する細かな点は全て省略してしまいましたが、私がどのような方針で、何にこだわって、馬の調教及び練習を行ってきたかということが、少しでも下級生に伝えられれば幸いです。

北帝号



平成2年6月11日生
サラ セン 鹿毛 9歳
浦河郡浦河町産
父 トウショウボーイ
母 オーナーブッチ
旧名 マチカネイーリアス
平成6年8月入厩

北帝号調教報告

中田 一紀

北帝号は平成6年卒の松原兄によって初期調教された新馬です。その松原兄から現役の寺坂への中継ぎとして騎乗してきました。最上級生が少ないこともあって何か手伝えることがあるならという気持ちでやってきましたが、結果的に十分なことが出来ませんでした。

実際に騎乗しはじめたのは年明けの冬合宿後からでした。このころは人馬の約束事をしっかり作って欲しいと思い、簡単な要求の繰り返しとそれができたときに徹底的に褒める練習をしていました。寺坂自信が問題なく出来たこともあってこの段階はうまくいっていました。

馬場が凍ってきて常歩しか出来なくなると、自分が騎乗して斜め横歩や肩内、寺坂が騎乗して常歩～停止～発進と移行、半減却を中心に練習しました。最初のころはどうしても拳に頼って減却してしまうので、巻き込んだりしていましたが、しばらくするとだいぶ良くなりました。

暖かくなるにつれて速歩や駈歩ができるようになってきても練習の中心に考えていたことは移行、半減却でした。常歩～停止がだいぶできるようになった寺坂も、速歩～常歩、駈歩～速歩になるとコントロールが効かなくなってしまうところがありました。自分自身、騎乗するときには音声を使ったり同じ場所で移行するようにしていましたが、駈歩になると興奮してしまい、確実に馬に理解させることができませんでした。

この年は北大で七帝戦('97.4.19)があり、最上級生から三課目に出してほしいと頼まれました。自分としては上記のような不安があったために心配でしたが、やはり常歩からの駈歩でごねてしまいました。まだまだ移行の練習がたり

ないと感じました。

半澤杯('97.5.4-5.5)に向けて順調に調整が進んでいたものの、リバプールを馴致しているときに脚をぶつけて跛行、1週間休ませることになりました。試合の前日に騎乗を再開したところ、特に問題はなかったので出場しました。

新人新馬の1鞍目に自分、2鞍目に寺坂が騎乗しました。準備馬場では思ったよりも掛かってしまいましたが、それも2鞍目には良くなったので安心しました。どうしても前に前に行ってしまうので回転では突っ込んでいってしまい、内容的にはかなり良くありませんでした。落下はそのためでもっと落ち着いて走行できるようにしなくてはと思いました。

試合が終わってからは基本に戻った練習を行いました。フラットワークではきちんとしたコンタクトと推進を意識しながら半減却と移行の確認、飛越練習ではジムナスティックジャンプと箱障害の速歩飛越を行いました。

馬場大会('97.5.29-5.30)では二課目に出場しました。試合慣れしたせいか思っていたよりもずっと落ち着いていました。準備馬場ではかなりいい感じで、リズムも崩れなかったし移行もうまくできました。

試合は1鞍目に自分、2鞍目に寺坂の順番でした。最初、審判台を少し意識していたものの、すぐに慣れて速歩まではいい運動をしてくれました。それが駈歩になるともぐってしまい大きく減点されました。寺坂のときも同様に駈歩がうまくいきませんでした。それでも4位に入賞してくれたので駈歩が良くなればまだまだいけるという手応えをつかむことができました。

6月の第1週に野外走行の馴致で帯広畜産大学に遠征しました。このときはほとんどの障害を問題なくクリアしてくれました。スキージャンプも予想していたよりもずっと簡単に通過してくれたし、乾壕もしっかり飛んでくれました。しかし、最終障害の斜めに飛ぶタイプの連続で何度か反抗されました。最後には理解して飛越してくれましたが、まだまだ練習がたりないと思いました。

春季自馬大会('97.6.20-6.21)では特定L級に出場。このころから常歩飛越の練習をはじめ、単独障害ではほとんど落下しなくなっていました。前進気勢のある馬であれば常歩からでも飛越してくれるし、そのときに前脚をしっかり曲げてくれるので効果的な練習だったと思います。連続障害ではまだまだ確実にクリアするところまではいきませんでした、コンビネーションを続けていけば良くなると思っていました。

試合の前日にはフレンドリーシップがありました。この時の走行は半澤杯のようになってしまいましたが、回転で突っ込んでも立て直すことができました。本番では1鞍目に自分、2鞍目に寺坂が出場し、それぞれ2落下、1落下でし

た。落ち着いた走行をすることができ、特に寺坂の走行はよかったと思います。

公認大会('97.7.12~7.13)はL級に出場しました。このころはあまり馬体的に良くなかった(左前管骨瘤)ので馬場にもフレンドリーシップにもエントリーしませんでした。寺坂自身も出場できなくなってしまったので、自分が1鞍だけ騎乗しました。

走行はコントロールから外れることもなく無反抗でゴールしたものの、後半に入ってからかなり落下してしまいました。最終の連続障害でバランスを崩してしまってフラットになってしまったのが良くありませんでした。

7月の第3週にも帯広畜産大学に遠征しました。このときは自分が最初から行くことができなかったのも、寺坂と池田に馬場の障害の馴致を頼みました。

初日にかなり障害で反抗したらしく、2日目もいやがって左に逃避するところがありました。今までは拒止することはあっても逃避することはほとんどなかったもので、肩を張らせないように厳しく警戒しました。

野外コースの馴致ではほとんどの障害を寺坂が騎乗して飛越しました。最終の連続と'稲妻'とよばれる障害については自分が騎乗しましたが、かなり反抗されてしまいました。'稲妻'は過去にもたくさんの新馬が反抗している障害なので十分注意していたものの隙を突かれてしまいました。連続障害は前回より高くなっていましたがすぐに理解して飛越してくれました。

野外の馴致から帰ってきて考えたことは、最終の連続も'稲妻'も斜めに飛越する要素があり、それは練習でやっておかなければいけないということです。野外走行ではアプローチを真直にとるのが意外とむずかしい所もあって、そういうときには無理して角度を立て直すよりは馬体を真直にすることをしっかり行って斜めに入るほうが確実です。馬体を真直にするのはフラットワークの中でも要求されるし、それができないと帯広のコースは厳しいと感じました。

それと北帝の走行中のバランスがかなり前にいっているのが気になりました。野外走行するにはハミにもたれすぎで障害前でもう少し起きてこないとダメだと思いました。駢歩に関しては調馬索でしっかり踏み込ませることからやっていくことにしました。

馬場的な運動に関しては、寺坂が騎乗して速歩での肩内や斜め横歩、常歩での前肢旋回まではできるようになっていました。後退は常歩から停止した状態であればできるものの、速歩～停止～後退になると反応が鈍く、まだまだ課題を残していました。

自分自身が腰を柔軟にする運動を十分にさせられないために、腰内や横歩は理解していませんでした。外方脚を理解させるために小さな半巻きや輪乗りの開閉は繰り返し行っていたので、後肢旋回はすることができました。

それと左脚にくらべて右脚に対する反応が悪く、同時に輪乗りで左肩から外れようとするところもありました。かなり以前から外方の壁を意識する練習は自分も寺坂もしていましたが、輪線が小さくなると反抗が大きくなり、これは最後のほうまで課題でした。

駢歩での調馬索を始めてから2～3週間で、かなり騎乗したときの駢歩のバランスが良くなってきました。特に障害での走行が(騎手にとって)乗りやすくなってきたのを感じました。

これまでより駢歩での踏み込みが良くなってきたことで、かなりゆっくりとすることもできるようになりました。そしてその分、伸ばしたときも速くなるだけでなく大きく走れるようになりました。

寺坂も反対駢歩で手前を変えられることはぐっと少なくなりました。発進も以前とくらべれば正確になり、速歩への移行も良くなってきました。障害では飛越後にコントロールしきれないときもありましたが、アプローチは良くなっていました。

北日本学生馬術大会('97.8.3-8.12)には寺坂で総合に出場しました。到着してからの時間がだいぶあったのでこれまでの練習を確認することができました。北帝も新馬にしては落ち着いていました。

練習で一番考えたことは調教審査にしても耐久審査にしても馬に勢いがないとダメじゃないかということです。そのためには選手にも勢いがないとダメだと思いました。だから北帝の馬付きだった下級生が寺坂たちのことをしっかりもりあげてくれたのはとても助かりました。

調教審査はそれもあってこれまでで一番いい雰囲気の間場だったと思います。細かいところでミスがあったために得点は高くなかったものの、前進気勢や動きそのものは良かったと思います。ポイントや移行はもちろんこれからの課題なのでもっともっと練習するべきだと思いました。

耐久審査の準備馬場での寺坂の騎乗も良かったと思います。一番良かったのは寺坂に気合があって、しかも馬が騎手に対して集中していたことです。気合ばかりで馬が掛かったら意味がないし、前進気勢がなかったら走行できません。このときは馬場全体を大きく使って伸縮と左右の回転の確認をして、しっかりコントロールができてから飛越に入りました。北帝はバネで飛ぶタイプではないので地上横木を障害の少し前に置いて、やや遅めからスピードに乗せて飛越するようにしました。それと野外にある障害を意識して斜めからの飛越も行いました。鋭角には入りすぎて一度反抗されましたが、それ以外はしっかりと飛越してくれました。これだったら、というところで準備運動を終わり、寺坂には、絶対馬体は真直にしていけよ、といって送り出しました。

本番の走行では心配していた'大乾壕'も、'熊手'から'ヒューム管'の連続もクリアして、'下りバンケット'で1反抗してからも'スキージャンプ'を通過、'バウンス'も'ピアノバンケット'も飛越してくれました。最終的には走路上に

置いてある斜めの単一で3反抗失権。自分もそこで見ていましたが、人馬ともに疲労していてもう脚が上がっていませんでした。

余力審査は棄権し、最終日に野外コースの馴致をしました。失権した障害（ただ斜めに単一があるだけでなく、連続して下り斜面からの乾燥オクサー）は、はじめいやがっていましたが、速歩なら飛越してくれました。初めての障害だから物見したというよりはどうやって飛んでいいのかわからないという感じで怖がっていました。

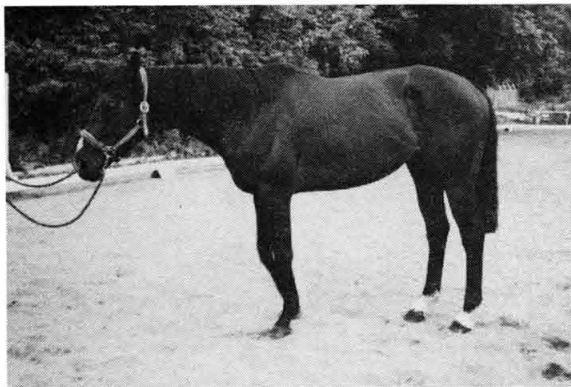
新馬に障害を馴致するときに反抗されやすい障害がいくつかあります。乾燥であったり、パンケットであったり、カマボコであったり、いろいろです。逆についたてや門扉ではあまり反抗されたことはありません。

馬にとって飛びやすい、飛びにくいのは色彩だけでなく、どこから飛べばいいのかはつきりしているかしてないかが重要で、'ふみきり'が見つけやすい障害とそうでない障害があるのだと思います。だからそれを、騎手が指示してやるのか、パターン学習によって覚えてもらうのか。自分たちの技術では後者だと思っています。（馬術的には騎手が指示するべきだと思う。）

帯広から帰ってきてからは脚元の故障で馬休。予定していた道体への出場もできなくなりました。ここで自分の北帝への騎乗も責任を果たせないまま終わることになりました。

結果が出せなかったのは寺坂の問題ではなく、自分の練習に対する計画性の問題だったように感じます。経験のない人間に技術や判断力を求めるのではなく、厳しい状況の中で騎手を助けてくれるような馬になるように練習をもっともっと考えていくべきでした。無責任かもしれませんが来年の寺坂と北帝にはそういう信頼関係を期待しています。がんばれよ！

北祥号



平成元年2月22日生
サラ セン 鹿毛 10歳
幌泉郡えりも町産
父 リードワンダー
母 イワサンパワー
旧名 シンコウスピリット
平成6年11月入厩

北祥号調教報告

《9～12月》

浅野 知弘

9月始め、運動量等は普通であったが、肩の筋肉(左右の特定はできなかった)を痛めたようで、跛行をひきはじめ、パスタノーゲン、マイクロウェーブなどの治療を朝夕行うがよくなりず、秋の自馬大は出場をとりやめることとなった。

リハビリはひき運動を1日2時間ほど行った。ひき運動をかねて校内へ連れていったのだが、あしを滑らせて藪の中に突っ込んでしまい右後肢に7～8cmの裂傷をさせてしまい、またしばらく動かせない状態となり、傷がなおった後も跛行はよくなりず、結局騎乗を再開したのは10月中旬のころで、常歩騎乗で恐る恐る乗るといった状況であった。

《1～3月》

栗原 佳子

私がスピの馬責についていたのは'97の1～3月、1年目の冬のことでした。ちょうど馬場の悪条件とチーフの鶴見兄の忙しい時期がぶつかり、馬責の私が主にスピリットに乗っていたわけですが、とても調教報告などを書けるようなことは何もできませんでした。やったことと言えば、毎日外乗へ行き、調馬索を回し、足場がよければ低い障害を飛ぶくらいでした。調馬索を回すと言ってもどちらかというと私の練習といった感じで、馬の調教につながったかどうかは非常に疑わしいところです。私は調教に関してはまったく有意義な2か月を過ごせませんでした。スピのかわいさにふれることができてとても幸せでした。スピのこれからの活躍に期待しています。

《4、5月》

川崎 洋史

4～5月の間北祥の馬責としてついていました。僕はたいしたことはしていないのですが、僕自身はスピリットに乗っていろいろ勉強しました。

毎日調馬索を回し、障害を週2～3回のペースで1m10ぐらいまでさせてもらいました。また鶴見さんの教え方もわかりやすく毎日がとても充実していました。僕はいつか

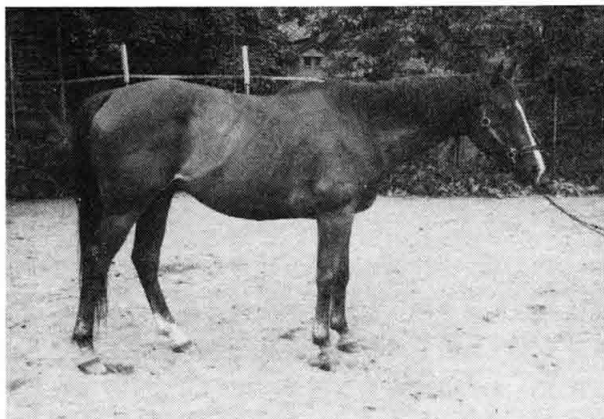
この馬に乗って全日にいきたいと思います。

《6～8月》

鈴木 忠樹

とりあえず馬賣であった僕が、この時期のスピリットについていえることは一つです。それは「よくぞ畜大のステイブルを満点で帰ってきた」ということです。去年の今頃は隠厩との声も上がっていたほどでしたが、ここ一年間の忍耐がここにきてやっと開花したという感じでした。余力でも、もう1つ落下が少なければ北日総合6位となって、北日初出場、全日本初出場という快挙をなすところでした。おしくも7位に敗れ全日本への切符を手に入れることはできませんでしたが、次の年につながる大きな収穫を得ることができました。春先までは特におぼつかなかったスピが、あの畜大のステイブルを満点、しかも満点馬は畜大以外ではスピと酪農の緑華のみという状況で。これは北大の中でも最高の成績でした。その日は台風の中のステイブルでコンディションは最悪でした。このコンディションで有力馬がくずれていく中でスピはスタートしました。馬付きであった僕はゴールでただただ彼の帰りを待つだけでした。時計が4分半を過ぎた頃、林のかけから池田兄の姿が見えてきました。初めての北日のステイブルであるから安全策をとってロングコースをいくという話でしたので、とても信じることはできませんでした。そしてぎりぎりタイムインすることができました。耐久減点0ということになり、スピの総合順位は31位から7位となり一気に権利の可能性ができました。結局前述のとおりで権利にはとどきませんでしたが、まだまだ課題(例えば馬場)もたくさんあるので、それを1つ1つ解決していけば来年は絶対全日に出場できることと思います。

北獅号



昭和60年生

中半 セン 栗毛 14歳

ニュージーランド産

父 MY SIR AVON

母 不詳

旧名 シャディーデュードウ

平成6年12月入厩

北獅号調教報告

小谷 友也

2年連続の全日出場記録を数多くの人々の期待に応えられず、3年目で止めてしまったのは、ひとえに自分自身の實力不足が原因です。もっと具体的に、しかも一つにしぼるとしたら、推進不足以外の何ものでもないと考えています。十分な推進ができないために、普段のフラットワークでも試合の障害走行でもDuに信用を与えることができませんでした。そして、もう一つ原因を挙げるならば、自分に自信を持てなかったことです。

昨年1年間の自分の精神状態を表すのであれば、抽象的ですが次のような状態であったと思います。どこを見渡しても濃い霧の中で前と後、左と右もよくわからない。どちらに足を踏み出していいかもわからない。多くの人たちから親身になって助言、しっかりといただいてもそれを自分の手でつかむことができない。心底混乱していたときに進むべき方向を教えてくださいましたのが、JRAの佐藤忍先生の指導でした。そこでとにかく前に進むことはできましたが、未だ霧は周りを囲み、不安をかきたてました。こうした中で北日を迎え、自分は確たる實力も自信も持てないまま、Duが取りかけた権利を自分の手で逃してしまったのです。このいつまでも自分にまわりつく霧（これこそ経験のなさや確信の持てない弱い心に違いなのですが）が晴れたのは、北日後、JRA獣医の本城先生に指導していただいたときでした。この時はじめて、暗中模索しさまよいながらもスタート地点よりは前進していることを知りました。そしてDuにとって必要な課題を与えていただき、今回はじめて自分でそれをしっかりつかむことができたのです。

もっと早くにつかめれば……。僕に期待をかけてくれた4年目の池田兄、亀山兄、応援以上のもので支えてくれた現役部員、なんとか伝えようと指導して下さったOBと市川先生、すべての人たちに申し訳ないし、なによりもこうした状態でしか騎乗できず、信頼を築けなかったDuにたいして言葉にならないほど申し訳なく思っています。

この失敗を僕自身がくり返さないためにも、できるのなら僕と同じ経験をするかもし

れない部員の役に立てるようにも1年間の報告を書かせていただきます。

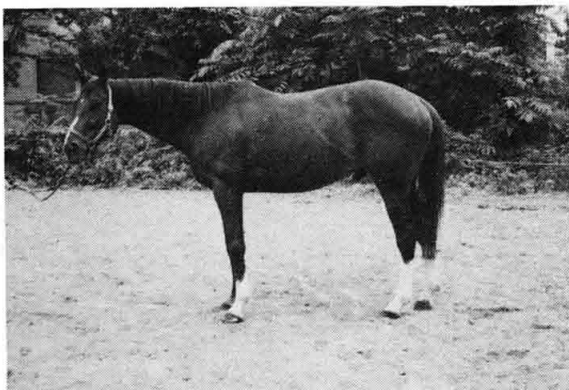
冬から春にかけては、とにかく推進不足のためまともな運動ができていなかったと思います。自分の脚が使えず、Duをあせらすことでしか前に出せず、自然自分の姿勢はくずれDuのリズムもおかしくなりました。多くの人から再三注意を受けたものの、姿勢を意識するとDuを動かすことさえできず、多少の悪姿勢は後でなおせば良いと思っていました。しかし、それでは馬を動かすことなどできるはずはないのです。こういった悪循環から脱けるきっかけを与えてくださったのは、前述した佐藤忍先生でした。先生をお願いして指導していただいたのは、ひたすらあぶみの踏み方から脚の使い方、軽速歩の姿勢や、馬上でのバランス、駢歩の騎座まで、基本中の基本の基礎でした。もう一度先生をお願いしたときも、内方脚の使い方等さらに基礎を徹底して教えていただきました。ここで僕は、騎座、バランスに関する確信を持って、運動自体も少しは良くなったのです。ここでの僕の間違いは、姿勢は後でついてくると自分の欠点から逃げていたことであり、姿勢と運動は相乗効果でしか良くなならないことをはっきりと知らされることになりました。けれども、北日での失敗の原因も、今現在の自分の課題も推進に変わりはありません。やはり馬に信用を与えて運動をこなすのも、馬が体全体を使って運動をこなすのも十分な推進とプラスしたたかな拳のゆずりではないかと考えています。一応の運動も不安ながらこなせるようになってむかえた二走の初日では、Duに前進姿勢があふれ、僕がやつのことながらゆったりしたリズムをつかめたことから3落8位に入れたものの、2日目には体に疲れがでたDuを僕自身が推進して励ますことができず、初日のリズムを生み出せなかったことから踏み切りも乱れ、5落12位に落ちてしまいました。総合の調教審査も推進不足から、必死になっても結局Duをあせらすことしかできず、馬場といえるものではありませんでした。スティーブルはDuの性格から自分は進路を示すだけで帰って来れたのですが、余力でまたしてもDuを十分励ますことができず権利外へ落ちてしまいました。何度くり返しても仕方がないのですが、全ては推進だと思います。これなしでは、いくら拳やバランス、リズムがあっても、またこれなしでは拳もバランスもリズムもつかめるはずがないと思うぐらいに窮感しました。

北日後も9月に本城さんに指導していただくまで確かな方針を見出せなかったのですが、1年間で僕がつかめた現時点での、本城さん、水野先生と市川先生のアドバイスも含めてDuに必要な、最終的には北日本が全日で勝つために必要なことを挙げてみようと思います。

- ・背中、腰、首の三角筋を中心とした馬体づくりをすること。
- ・全ての関節を柔らかく動かせる運動をくり返すこと。
- ・平常心で障害を飛越する馬にすること。
- ・普段のフラットワークから十分体をこなした運動をすること。

まだまだ必要なことは数あまたあると思いますし、全く自分の技術が未熟なものも確かです。それに本当に勝つためには部員全員の協力が必要です。もう二度とあの思いはくり返したくないですし、Duに関する全ての人のためにも、Duのためにも僕がしなければならぬことは数かぎりないと思います。自分だけが空回りしないように…。

北優号



平成3年4月30日生
サラ セン 栗毛 8歳
浦河郡浦河町産
父 ニシノライデン
母 エムジーマウタ
旧名 ビコーエオン
平成7年7月入厩

北優号調教報告

黒崎 雅人

前年に引き続き北優の調教を行った。日々の練習は下級生によるバー障害・障害の馴致・輪乗りを基本としたフラットワーク・外乗を中心に行った。これについては前年の部報を参照していただきたい。今年は障害と場所の馴致をすることを目標にし、試合での出来事を中心に書いていきたいと思う。

北優は96年10月に行われた秋の自馬大でデビューを飾った。といっても調教一年ちょっとにして、ジムカーナである。この試合に先立ちノーザンに馴致に行った（本当の目的は馬運車に乗せることという噂もあった）。

一鞍目の私の時には慣れない場所と、環境のため、ひどく焦っていた。しかし、1mを飛ぶことのできる馬では、30~40cmの障害などは焦っていても無事に帰ってこられた。初めてのノーザン・初めての試合からくる極度の緊張と恐怖により、馬を障害に向けることすら大変であり、（逃げないように）相当がっちり誘導した記憶がある。それが、二鞍目の池田、三鞍目の乗次と回数を重ねるうちに、馬自身かなり余裕がでてきた。かなり時間はかかるであろうが、時間と回数によって何とかできるのではないかという希望がわいてきた。

年が明け、翌年の半澤杯で障害の試合にデビューした。北大の馬場での試合であり、環境は試合特有のものになるが、場所の馴致をする必要もなく、障害の馴致も容易である（これまではシーズン初めの試合を北大の馬場でできるありがたみをさほど理解していなかったが、今回は非常に助かった）。これは好都合だと思っていたが、さんざん馴致したレンガが直前になって違った形で組み立てられてしまった。今まではレンガの箱をそのまま飛んでいたが、試合では小さめのレンガの上にバーをかけることとなってしまった。これは彼の得意な“平たい”障害から、彼の苦手な“複雑な”障害への変更でちょっとまずいなと感じていた。実際、試合で一鞍目に乗った私はそのレンガ障害へき

ちんと向けることができずに、一反抗。続いて乗ってくれた鶴見がなんと新人新馬で優勝し、見事小池杯を獲得した。馬の調教段階と衷腹に華々しい障害デビューを飾ることができました。鶴見をはじめこれまで北優の調教に関わってくださった皆様にこの場を借りてお礼を申し上げたい。

続いて、北海道馬場大会の2課目に出場した。このころ、馬資は二年目であったが、二年目の技術ではちょっと不安であったので、無理を言って三年目の田中に試合に出してもらった。馴致には行ったものの、やはり試合のビリッとした雰囲気を押されて北優はかなり緊張していて、普段とは違う感じであった。ドレッサー馬場に入り、これまでは大丈夫であった審判台を見てしまいすくんでしまった。何とか演技を終えることができたものの、またしても馴致という壁にぶつかってしまった。二鞍目の田中は一鞍目の“馴致”の成果により、まずまずの馬場を踏めたのではないだろうか。しかし、2課目程度の馬場においてもまだまだ練習すべきことが多いことを知らされた試合でもあった。

春季自馬大には、私は学校の都合で参加することができなかったのも、代わりに中村が2課目に出た。実際に試合を見たわけではないので、何も書けるようなネタはありません。ただ、先の北海道馬場大会とあまり変わらなかったのではないかなと思う。

北日学に馴致がてら連れていった。ノーザンでやる競技会とも違う北日学特有ののんびりとした雰囲気に少し迷っているようであった。私は少し遅れて行ったので、私が到着した頃には場所の違いによる戸惑いはなかったようだ。最初からそれほどひどくなかったそうだが。試合中は馬場が開放される早朝か試合後に乗っていた。いろんな大学のいろんな馬が入り混じって運動をしていて、正直言って北優だけでなく私も気が散ってしまいあまりまともな運動ができなかった。驚くとかすくむとか後ずさるといったことはないが、馬の反応がいつもと違い、馬の様子を把握しきれずにいた。

大会終了後にスティーブルコースの馴致を行った。馴致といっても常歩でコースを回り、簡単な障害を他の馬の後ろにつけて飛ぶ程度である。今年の北日学は、後半から雨が降り、コースは泥だらけでひどい状況であった。馴致の当日も雨が降りコースのほとんどがぬかるんでいた。一頭で行くのも心許ないので、他の新馬にどうするかを相談したところ、行くとか行かないとか迷っている返事が返ってきて私自身も迷ってしまった。乗る前に馴致の内容を考えておかねばならないのだが、この迷いのため周りに流されて中途半端なことをやっと思い非常にまずい馴致となってしまった。

本来ならば、北日学が終わり代が変われば私の任期は終わるのだが、現役に無理を言って秋季自馬大まで延長してもらった。どうしても他の馬場で障害の試合にでてみたいという希望があったからである。北日学から秋季自馬大までにノーザンへ3度馴致に行き、徹底的に障害を飛んだ。また、引継ぎをかねてこの時期は中田と一緒に乗った。

新人新馬の一鞍目には中田が出場した。かなり激しい走行であったが、2反抗4落下でかえってきた。私は二鞍目であったので4落下でかえってくることができた。馬が逃

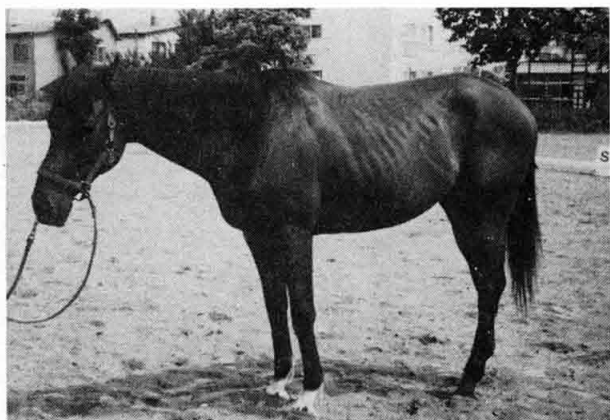
げようとしているのを無理矢理飛ばしているのです、人と馬が喧嘩している壮絶な走行であった。決して手本になるような走行ではなかった。

この二年間、北優を調教してきて様々なことがあった。ケガの治療でごねて半年ほど肢をあげなくなったり、馬運車に乗らなかったり、挙げ句の果てはたてがみにシラミがわいて坊主になるし…。現役時代には全く経験したこともない奇怪な事件の数々でした。

エオンの柔らかい馬体やバネに感激したこともあれば、慎重というか臆病というか神経質な性格で閉口したこともあれば、上のような???な出来事で困惑したこともありました。北優を調教するに当たり、様々な壁にぶつかり、調教するに当たり、自分が今考えていることや問題点あるいは解決策などをその都度現役に伝えてきたつもりです。これから調教する人の助けになれば幸いです。また、部報には書ききれない様々なこともあります。質問などがありましたら連絡をください。

最後になりましたが、北優の調教に当たって相談に乗ってくださったOBの方々、遅々として進まない調教を我慢強く待っていてくださった現役、これまで馬体管理をしてくださった下級生の皆様には本当に感謝しています。私はこの春より札幌を離れますが、これからの北優の活躍を期待しています。

北 鈴 号



平成4年3月31日生
サラ セン 鹿毛 7歳
沙流郡門別町産
父 スズマッハ
母 メイワレディー
旧名 スズロード
平成8年7月入厩

北 鈴 号 馬 匹 紹 介

大崎 智弘

スズロードが入厩した年の冬ごろからの様子を簡単にまとめました。

冬に肩のコブが肥大して破裂

↓

春にチーフが松原兄から村田兄に交代

↓

村田兄は馬場馬にしようとしていたらしく、馬場運動中心の調教をしていた。

↓

障害の調教は今後進んでいくものと思われる。

北 蘭 号



昭和58年3月7日生
サラ 牝 栗毛 16歳
浦河郡浦河町産
父 ホウヨウボーイ
母 ワールドカホー
旧名 アーネストヒダカ
平成9年3月入厩

北 蘭 号 調 教 報 告

亀山 巖

彼女に対して調教など、何も必要なかった。自分がやったのは、馬体管理と筋力トレーニング。あとは何もない。

参考になるか分からないが、自分の感じたことを二、三書く。まず、彼女の経路走行のペースは速い。が、それでいいと思う。無理に押さえようとせず、乗り手がそのスピードになれること。ただし、障害前のバランスバックは忘れずに。騎手がきちんと体を起こせば、彼女はきちんと飛んでくれる。

次に、練習では絶対反抗されないこと。騎手のレベル以上の障害を無理に行って、馬を壊すことのないように。また、フラットワークにおいても、馬の反応を謙虚に受け止め、精進すること。馬の状態、反応が悪いのはすべて騎手のせいである。彼女は何でもできる。

最後に、馬体管理を徹底すること。彼女は高齢なので、オーバーワークには気をつけること。筋力トレーニングを怠らないこと。また、疝痛持ちであることを忘れずに管理をすること。

現役には、彼女から多くの事を学んでもらいたい。たくさん教えてくれるはずだ。

北彪号



平成2年生
サラ系 セン 栗毛 9歳
ニュージーランド産
父 不詳
母 不詳
旧名 グラッドリィ
平成9年3月入厩

北彪号調教報告

池田 智義

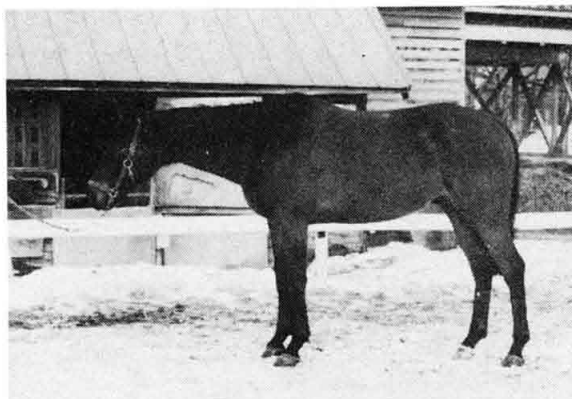
3月にアーネストヒダカと共にJRAの本城さん(昭和53年卒)のお世話で北大に入厩してきた。冬鉄ではなかったので乗るのは雪がとけてからにした。

春になってまず横木からまたがせようと思い、キャバレッティーブロックで小さなクロスを1つ作り常歩で向かったところ難なく通過したのでこれはそこそこいけるかなと思い、速歩でやってみると馬はすごい勢いではしり、またげるほどのものを遠くからバカッ飛びしてしまい、これは駄目だと思った。又F.Wにおいて右が大変かたく、駢歩は巻き込んでかかってかかってしょうがなかった。そのため、まず駢歩を巻き込まないでゆっくり一定のリズムでできること、右を柔らかくすること、障害はコンビネーション以前にたった1つのクロスや小さなカマボコ型の障害をゆっくり飛越することから始めた。

実をいうと北日までは北駿や北祥も乗らなければならず、試合でも他の新馬にも騎乗していたため、あまりじっくり乗れなかった。それでも時間がたてば毎日の少しのくり返しも功を成すもので、コンビネーションでは落ち着いて飛ぶようになり、又駢歩も下級生が乗ったときでも走られることが少なくなった。

馬の体格が少し前のめりであり起きていないため、二走までもっていくのは難しいように思うが、障害に対する素直さからみても、そこそこ総合はこなせるのではないかと思っている。5年目になっても残っているのも、2年かけてじっくりやるつもりだ。

北神威号



平成3年3月15日生
サラ セン 鹿毛 8歳
浦河郡浦河町産
父 アスワン
母 ユキノローズ
旧名 ランフォーローズ
平成9年10月入厩

北神威号新馬紹介

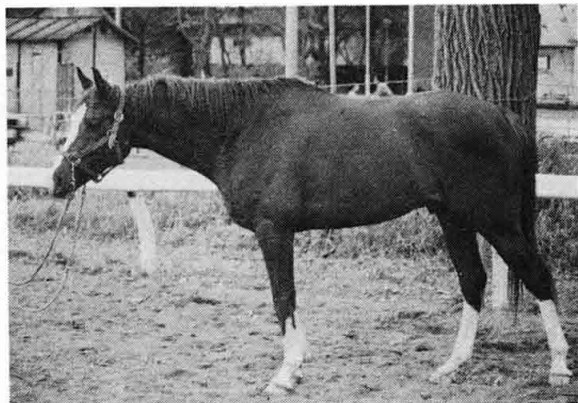
金丸 鉄平

1997年10月22日、門別はファンタスクラブの鎌田さんのもとを離れ、彼は北大にやってきました。初めはやはり新馬らしく、馬場で曳いてるときも乗ってるときも落ち着きがなく、ちょっとしたものにも驚いていたのですが、それも2か月目くらいにはだいぶ落ち着くようになり、4か月近くになる最近では馬場放牧に加わって他の馬たちと仲良くじゃれあっています。

馬体のほうは、競走馬時代からの屈腱炎が熱を持ちやすいのと、脚裁きが悪いためか脚まわりに傷を作りやすく小さな傷からすぐフレグモーネになってしまうなど、脚が弱いだけは心配なのですが、それさえ除けば馬格は競走馬あがりとは思えないほどがっしりとして肉付きが良く、また性格は素直で賢いため吸収が早く、乗馬にはうってつけだと思います。

門別で初めて彼に会った瞬間に、これから北大のエース馬として育っていく彼の姿が僕の脳裏に浮かびました。彼の今後の活躍を期待してください。がんばれローズ!!

北蒼号



平成4年3月26日生

ア・ア セン 栗毛 7歳

青森県八戸市産

父 カミカゼイチバン

母 トワイライトブルー

旧名 トワイライトブルー

平成10年3月入厩

北蒼号新馬紹介

浅野 知弘

3月28日、東京競馬場から函館に荷物を運ぶついでに馬運車で1頭の栗毛が運ばれてきた。神経質そうな7歳のせん馬で、大きくて右のまぶたに少しかかった白いサクと右目の白目が印象的な馬だった。きれいに毛を刈られていて、まだ寒さの残るこの札幌ではいかにも寒そうであった。チョコチョコと落ち着きがなく、馬房にいても逃げ出すほど元気はあった。

入厩から2ヶ月たった今では放牧地で多少問題を起こしたものの他の馬と仲よくやっている。寒くて首の所に生えかけたヒョロ長い冬毛が目立つ。

馬場も障害もそこそこでき、調教も順調、主戦馬になるのもそう遠い日ではないようだ。

北駿号離厩報告



川崎 洋史

昭和61年に北大に入厩して以来ずっと活躍し、部員のために頑張ってくれた北駿が数々の戦績を残して今年4月3日離厩しました。

去年、15歳になっても北日では二走で2位に入るなどあまり年を感じさせなかったのですが、秋になったころに、右前肩をおかしくして今春離厩することになりました。

これからは堀崎さんがおられる白糠乗馬クラブで新しい人生を送ることになりました。これからもあたたかく見守ってあげてください。本当に長いあいだおつかれさまでした。そしてありがとう。



北 駿 号 主 戦 績

S 63.	5. 5 6.18~19	半澤杯 自馬大	新人新馬 L級	石川(4) 長屋(0B)	減点0 15位
	7.16~17	公認	小障害 新人新馬	加藤(4)	20位
	8. 5~8	北日杯	M C	金田(4)	9位
	10. 9	山下杯	加スカントリー	中野屋(4)	2位
H 元.	7. 8~9	国体予選	3課目障害 標準障害	堀屋(0B)	open 1位
	7.15~16	道地区大会	標準障害	堀川(2)	2位
	7.22~23	N.H.P馬場大会	標準障害	堀川(2)	1位
	8. 4~7	北日	標準障害	堀川(2)	3位
	10.10	山下杯	標準障害	堀川(2)	9位
H 2.	3.25	東北戦	標準障害	堀川(2)	9位
	4. 6~7	七戦	標準障害	堀川(2)	3位
	5. 5	半澤杯	標準障害	堀川(2)	3位
	5.13	社説杯	標準障害	堀川(2)	3位
	6.23	自馬大	標準障害	堀川(2)	3位
	7.21~22	公認	標準障害	堀川(2)	3位
	8. 8~12	北日	標準障害	堀川(2)	3位
	8.25~26	国体予選	標準障害	堀川(2)	3位
	9.16	馬場選手権	標準障害	堀川(2)	3位
	10.10	山下杯	標準障害	堀川(2)	3位
	11.22~26	国体杯	標準障害	堀川(2)	3位
H 3.	5. 4	半澤杯	標準障害	堀川(2)	3位
	6. 8~9	自馬大	標準障害	堀川(2)	3位
	7.13~14	公認	標準障害	堀川(2)	3位
	8. 8~12	北日	標準障害	堀川(2)	3位
	9. 7~8	障害大会	標準障害	堀川(2)	3位
	9.15	N.H.P馬場選手権	標準障害	堀川(2)	3位
	10.20	馬場杯	標準障害	堀川(2)	3位
H 4.	5. 4	半澤杯	標準障害	堀川(2)	3位
	5.23~24	馬場大	標準障害	堀川(2)	3位
	6.13~14	自馬大	標準障害	堀川(2)	3位
	7.18~19	公認	標準障害	堀川(2)	3位
	8. 6~10	北日	標準障害	堀川(2)	3位
	8.15~16	国体予選	標準障害	堀川(2)	3位
	9.11~13	東日本	標準障害	堀川(2)	3位
	10.10~11	N.H.P馬場選手権	標準障害	堀川(2)	3位
	10.18	山下杯	標準障害	堀川(2)	3位
	11.11~15	全日杯	標準障害	堀川(2)	3位
H 5.	5. 4	半澤杯	標準障害	堀川(2)	3位
	5.22~23	馬場大	標準障害	堀川(2)	3位
	6.12~13	自馬大	標準障害	堀川(2)	3位
	7.17~18	公認	標準障害	堀川(2)	3位
	8. 5~9	北日	標準障害	堀川(2)	3位

	8.20~22	国体予選権	総合級	深部(3)	権位
	9.4~5	障害杯	総合級 S & H	深部(3)	失権
	10.11	山下杯	L級	深部(3)	10位
H 6.	4.3	東北戦杯	複合課目	深部(4)	2位
	5.3~4	半澤杯	3障害	深部(4)	6位
			中障	深部(4)	4位
	5.15	三春大戦	L級	長屋部(0B)	8位
		春季自馬大		深部(4)	open
		馬場大	3課目	深部(4)	3位
	8.4~8	北日	二走	深部(4)	失権
H 7.	8.9~12	北日	総合級	深部(4)	12位
		国体予選	MC級	鶴見(4)	失権
			L級	鶴見(4)	5位
		秋季自馬大	3課目	池田(2)	9位
			L級	池田(2)	8位
				池田(2)	16位
				池田(2)	12位
				鶴見(4)	4位
	10.9	山下杯	MC	池田(2)	2位
H 8.	5.4~5	半澤杯	3課目	池田(3)	6位
			中障	池田(3)	2位
		自馬大	L級 S & H	池田(3)	12位
			MC	池田(3)	18位
		公認	MC	池田(3)	7位
	8.8~12	北日	二走	池田(3)	5位
			総合級	池田(3)	6位
	9.22	秋季自馬大	MC	池田(3)	12位
	10.30~11.3	全日	二走	池田(3)	失権
			総合	池田(3)	44位
H 9.	4.19	七大戰	中障	池田(4)	2位
	5.4~5	半澤杯	3課目	池田(4)	3位
	5.24~25	馬場大		池田(4)	2位
	6.21~22	春季自馬大	MC	池田(4)	2位
	7.12~13	公認	MB	池田(4)	2位
	8.7~11	北日	二走	池田(4)	失権
			総合	池田(4)	2位
	10.4~5	秋季自馬大	L級	川崎(2)	open
				池田(4)	18位
			MC	池田(4)	4位
	11.2	山下杯	MC	池田(4)	失権
				川崎(2)	失権
	12.10~14	全日	二走	池田(4)	失権

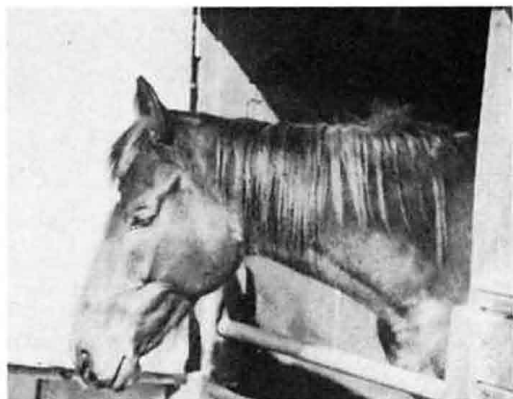
タンデムシチー号離厩報告



金丸 鉄平

1997年9月5日札幌競馬開催中に競走馬を引退し馬術部に來たタンデム君ですが、馬体が細いせいか体力がなく、ちょっと激しい運動をするとすぐに飼いが悪くなって寝込んでしまい、また年があけて行われた去勢手術にも体力がもたず体重が激減するなど、調教がたびたび中断され他の新馬の話もあったため、上級生で話し合った結果98年4月16日に北大を去っていきました。

離厩先は中標津で草競馬やトレッキングなどをやっている大西さんという方のところですが。もともと人なつこくとてもおとなしい性格の馬なので、トレッキングなどに使われてのんびりとした馬生を送ってくれることを祈っています。



東京OB会だより

陣川 雅樹

関東地方でも大雪に見舞われ、学生の頃のことを懐かしく思い出していたOBの方も多かったのではないのでしょうか。OBの皆様にはお元気でお過ごしのことと存じます。また、現役の諸君は人馬ともに全日学を目指し、寒い中がんばっていることと思います。さて、平成9年の東京OB会の活動をご報告いたします。

I. 平成9年活動報告

1. 平成9年総会・新年会

平成9年1月18日(土), NHK青山荘

出席者: OB 21名

2. 現役部員との懇親会

平成9年12月13日(土), 天狗(馬事公苑店)

出席者: OB 15名, 現役 17名

例年、場所探しに苦勞していましたが、馬事項円の正面に居酒屋ができ、昨年より利用しています。全日学に來た現役や馬たちを激励したその足で立ち寄ることのできる非常に便利なところです。大勢のOBの方々のご参加をお待ちしています。

3. 現役への援助

現役からの要望により、紳士用ジャケット(乗馬服試合用)及び作業工具一式を購入しました。工具は北大馬場内の障害を充実させるべく、修理、製作のため必要とのことであり、総会で承認されました。

東京OB会では、現役部員の活動を物心ともにできる限り援助していく所存であります。ご意見・ご要望がございましたらお知らせください。

II. 事務局より

現在、事務局の運営は、事務局長を本村、事務局を陣川が担当し行っております。至らない点も多く、東京OB会の皆様へはご迷惑をおかけしておりますが、皆様の御協力により、昨年いくつかの催しを行うことができました。今後も、関東在住OBの交流の場として、またOBと現役とのパイプ役としての機能を果たせるよう、この会を盛り上げていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

OB、現役を問わず、何かご要望等ございましたら、事務局までご連絡ください。また、関東方面へ転勤・就職された方、事務局からの連絡が届いていない方などおられましたらご一報ください。

最後に、若手OBの方へ、最近若手のOBの方の会への参加が少なくなってきました。
事務局としては非常にさびしく思っております。お忙しいこととは思いますが、東京OB
会を同窓会の場として利用され、会を盛り立ててくださいますよう、よろしくお願い
いたします。

北大馬術部東京OB会
会 長 東園 基文
幹事長 樋口 正明
事務局 本村，陣川

北大の馬たち

HOKUSHUN

北駿(チアフル)

北駿ことチアフルは、現在16歳で北大の馬の中で一番年上、そして最も古くからいる馬です。しかし「まだまだ、若いものには負けん」という元気を見せてくれます。僕は入部してからしばらくの間、はっきりいってチアフルのことが好きではありませんでした。手入れの時に、体を触られるのを怒って脚を振り回したり、朝、騎乗前に一年生が曳こうとしても素直に歩かなかったりするのを見て、「人をなめてる」という印象が強かったからです。しかし秋にチアフルのサブチーフについて、毎日彼と接しているうちにだんだんとなれてきて、そういうところに好感がもてるようになりました。

堀崎兄のご紹介により釧路の近くの白糠乗馬クラブに引き取られることになったチアフルですが、馬資ノートから「北駿」という名前が消えてしまうのは、とても寂しいです。北大を離れた後は、今までの疲れを癒して、のんびりと暮らしてほしいと思います。

HOKUGA

北牙(バロン)

－バロンの一日－

5:00 ボロの上で寝たため、体はかなり臭くて汚れている。手入れに10分くらいかかる日も少なくはない。装鞍は比較のおとなしい。

5:30 練習開始。バロンはとても難しい馬だ。短ペンをちょっとでも振ったときには、ドビューンと馬場を走りまくる。でも僕が思うに、彼はとても繊細な心をもっているからこそああやって走ってしまうのではないかと思う今日この頃である。練習後はもう飼いにしか目が行っていない。そして食べ終わること風の如し。

9:00 放牧。放牧地に入るとひたすら食べ物をさがして歩きまわる。最後にたどりつくのはやはり物見台のロール乾草だ。動かざること山の如し。そして彼は太っていく人生を歩む。

16:00 曳き馬へいく。ほかの馬はいくつもの場所を転々として動きながら草を食べるが、バロンは一つの場所で死に物狂いの表情で食べまくる。そして手入れした後、夕飼いをまたもや気合でガツガツ食べる。時には食べ終わった後に「投げ草はまだか」といった表情で首を振っている。

21:00 投げ草。そして翌日の朝練のために彼は熟睡する。



雪を食べるチアフル



バロンと弟達、時輝、土肥

HOKURYO

北凌(レジェ)

ハギノレジェンド。愛称レジェ、はととてもとてもかわいい。それは、たとえ練習中ものすごいスピードで馬場中を走りまわろうと、何人部員を落そうとかわからない。まして体重測定をする場所まで行けないなんてぜんぜん問題じゃない。あの、いやなときの三角目もラブリーだし、顔ふきタオルを持って近づいただけではじめるフレーメンも超キュート♡ 手入れのときの“がまんの顔”といったらもう、食べちゃいたいくらいかわいい♡。だから、牛がきらいだろうと、他の馬のことが好きなのに他の馬からはキラわれてようと、モードーでもいい。放牧中エオンのおしりをおっかけまわしてエオンをノイローゼにさせたり、ヒダカのおしりをなめまわして変態馬とよばれても、顔を見ただけで全て帳消し。おねだりされでもしたらもうメロメロ。「趣味草行ってきます」状態。かなりタンクローリー体形に拍車がかかってるかも。去年は全日にも行ったし、もうこれからはレジェの時代！というわけで私はかなりレジェに骨抜きです。

KITANOHAYATE

北旋風(トル)

トルは体は一番大きいけど、ノホホンとして、心の優しい子供みたいな馬です。彼は不思議なことに牛や羊とも、ごく普通に接していて、まるで仲間ようです。彼は時々自分が牛だと思ふのかも知れません。

普段はそんなそよ風みたいな彼も、ときには一気に変化します。トルはある夏、みんなと一緒に帯広にいました。その時の事です、トルが突然ものすごい風になって、そう東京まで届く旋風になって、みんなを嬉しい夢の中へと運んでくれたのです。

トルは今日もいつもみたいに、のんびりと仲良しのチアと一緒に放牧されています。たまに噛みあいながらも、一緒に草やわらを食べながらのんびり歩いている彼らを見ると、何故かとても幸せになってきます。これからもよろしくね、トル。



ばくレジェです



草履の中のトル(2歳)

HOKUEN

北燕(フ ラ イ ト)

フライトは小さいです。

だから、重い人を乗せるときはよろけます。

フライトはやんちゃです。

だから、雪が降るとはしゃぎすぎてしかられます。

フライトは牝馬です。

だから、ブサイクなオトコは嫌いです。

でもフライトは人がとてもスキなのです。

HOKUTEI

北帝(イ ー リ ー)

イーリーはよく食べる。自分の寝床も彼にとってはおやつだ。

イーリーはよくハネる。やんちゃ度NO. 1の馬なのだ。

イーリーはよくなく。実はさみしがりやなのだ。

イーリーはよくかむ。自分の存在をアピールしているのだ。

イーリーはよく蹴る。脚の長さを見せつけているのだ。

何を食べても平気。寒さなんて怖くない。冬になってもスベスベの夏毛のままで、馬着とは縁が無い。

こんなイーリーを愛する人は多く、イーリーのサブになった人は必ずハマる。本能のまま動き、乱暴にふるまう反面甘えん坊のイーリーはひそかに人気者なのだ。



フライトと愛蔵箱



イーリーと丸山兄、寺坂兄、中田兄、下田姉、寺田姉

HOKUSHO

北祥（スピ）

- ・わがまま、さぼる
- ・女子部員に人気（北村薫さんも含む）
- ・障害は失速するがとぶ 来年の北日こそ権利を！
- ・上唇はやわらかく伸びる
- ・ゆれる

HOKUSHI

北獅（Du）

金色に光り、普段は自分から積極的には動かないが、縄張りを荒らされると本気で怒り、とてつもなく強い。

もしニュージーランド産ではなく、アフリカ産ならだれが見ても百獣の王であろう。



冬のバドックのスピ



Duと新品の馬着

HOKUYU

北優（エオン）

エオン君は最近極度にはかの馬を怖がっています。速歩の馬とすれ違うときにビクビ

クしたり、シャンプーを付けようとするのを嫌がって立ち上がったります。

でもエオンは愛敬があり、この間の人気投票では上位に入っています。

山下杯のジムカーナで優勝して、今年は2冠もとりました。

来年は怖がりになおったらいいね。

HOKURIN

北鈴(スズ、ヒンペエ)

スズは人見知りする馬で、最初はなかなかついてくれないけど、実はとてもお利さんで、一度仲良くなると、まるでわが子のようにかわいく思えてくる。

スズは誰よりも早食いで、スズは曲芸ができて、スズはロバのような顔をしてて、して結構ワガママな馬。

かなり人をくったところもあるけど、やっぱり憎めないヤツなのです。



エオンあくびの途中



スズ、カメラに接近

HOKURAN

北蘭(ヒダカ)

Q: ねえヒダカ、どうしていつもゲップしてるの?

ヒダカ(以下ヒと略します): だって楽しいんだもん。

Q: でもねえ、無口とったらすぐ後ろを向くのもどうかとも思うんだけど...

ヒ: だってそれまで我慢してるんだもん。

Q: あとねえ、雨でも雪でも顔がびしょぬれなのに、それでいいの?

ヒ: だって生きがいなんだもん。

Q: たまに前後クルクルまわって肢にワラがまきついているの見るんだけど...

ヒ: 確かにそれは痛いよねー。まったく、どうしてかしら。

Q: それからさ、どうして前がきして大きい穴をほっちゃうの?

ヒ: それは私を待たせるのが悪いのよ。退屈なのにいつまでも待たせるんだから。

Q: 待たせなくても前がきしてるじゃない。

ヒ: そんなことないもん。

私はいい子だもーん。

Q: ……そうかなあ。

皆さん、ヒダカは決して単なるワガママな馬じゃないです。

(ご存じのとおり)むちゃくちゃすごい馬です。ね、ヒダカ。ワガママなだけじゃないもんね。

HOKUHYU

北彪(ヒュー)

のどについているフィルターで息をするためヒューヒュー鳴ることから、ヒューヒューが愛称。手を出すとペロペロしてくるかわいい馬。乗るとめっちゃおもいらしい。



ヒダカと狂気の狼



光るグラッドリイ

タンデムシチー

～プロフィール～

名 前：タンデムシチー

性別、年齢：騾7才

体 重：430kg前後。これはもちろん北大馬術部No.1のやせ馬。

呼 び 名：「デムデム」「タンデム」「デム」など。ちなみに僕は「デム太郎」とよぶ。

長 所：人なつっこい、よくなめる、よく寝る。

短 所：いつもやる気がない。

好 物：リンゴ

飼 食：食べるのは遅いが、最近をよく食べる。

ライバル：特にいない、というか他の馬を相手にしない。

潜在能力：よく分からない。けど障害に対してはタンデムなりに一生懸命跳ぶ。

ファン：一人存在する。どうやら現役(競走馬)時代からのおっかけらしい。先日、手紙とリンゴがその人から贈られてきた。

最 近：男のシンボルを手術でとった。

ま と め：かわいい

KAMUI

北神威(ローズ)

わーい、今から放牧みたいだぞ！あれ、いつもの一人用の狭い放牧地じゃないぞ。あ、ここが三角地か。おや、誰がいるぞ？あ、スビだ、僕よりちょっと強そうだな、困ったよお。もう一人は…うわ、ヒンベエだ。やだよ、あいつなんか怒ってるぞ。怖いよ、いちめんでよ。あ、ここに雪の深いところがある。ここなら狭いから二人とも来ないだろうな。(数メートル進む)あれ、行止りだ。戻れないぞ、どうしよう。しょうがない、この埒飛び越えちゃえ、エイッ！(ボキッ)あれ、折れちゃった。まあいいか、けがもないし…。

ここは本馬場だな。あ、みんな集まってる。何食べてるんだろ？あ、僕がいつも練習で飛ばされてる竹柵だ。おいしいのかな？ムシャムシャ。なんか変な味だなあ、まあいいや、とりあえずみんなと一緒に食べよう。

あれ、いつも手入れする奴が無口をもってきた。ヤダよ、連れてかれたくないよ。なんか怒ってるし…。馬房はやだよ！

彼はその数日後、今度は放牧中にけがをしてしまい、その後で馬房の扉をこわしてしまいました。将来を期待される彼には、もう少し落ち着いてもらいたいものです。いいね、ローズ！



タンデムごきげん



ローズ、兄貴のトルと

HOKUSO

北蒼(ブルー)

こんにちは。僕、トワイライトブルー。

今年の春に北大に来たんだ。アングロアラブの7歳。東京競馬場では人を振り落とすので嫌がられたんだけど、北大で主将の角堂兄のもと、馬場も障害もできる立派な馬になってみせるぞ。

頑張るので、あたたかい目で見守ってください。

半澤杯の成績

角堂

北

蒼

2課目

4位



目付きは悪いがかわいいブルー

卒部にあって

池田 智義

一年目に入部したとき、第一印象は「酒、作業、馬きちがいの人々」だった。

二年目、自分も徐々に「酒、作業、馬きちがい」になっていき、学校は無限に選ざかっていった。

三年目、自分自身の馬に乗ることだけで精一杯だった。

四年目、馬術部と自分が一体になった一年だった。

四年もの長い間、たくさんの方に迷惑をおかけしました。たくさんの方にたくさんの事を教えていただきました。本当にありがとうございました。

亀山 巖

自分の人生において、馬と生活したこの4年間は最高のものであった。

今までに感じたことのない愛情、反対報酬を全く期待しない純愛を自己の内に見ることができたから。

すばらしい仲間を知ることができたから。

苦しく、また満足できたから。

でもその満足と同じくらい、サボったこと、手を抜いたこと、不十分だったことに対する悔恨の念がある。

現役の君たち。さばらず、手を抜かず、十分に苦しんで、超最高の卒部をむかえられるように。

下田 素子

時が過ぎるのは、早いものです。あっという間に1年半が経過してしまい、水産移行となっていました。みんなと一緒にいろいろと頑張ってきたのに、途中でバイバイというのもつらいものがありますね。特に私は、水産学部のクラスの方に友達がいなし、友達といたら、この馬術部のみんなだったので、かなりさみしいです。

今思えば、1年のころとか何度もやめたいなあと思ったりもしたし、何でこんなにバイトばかりやらなければいけないのかなどと、文句が多かったような気がします。でも、朝の練習で馬に乗って、馬を思うように動かしたら、すごく楽しくなるし、馬（特にイーリ君）がご機嫌だと、私も嬉しくなって、続けてて本当に良かったと思ったのも事実です。入部したてのころなどは、慣れるまでがすごく大変で、水缶を換えるのも一苦勞でした。時間の経過と共に、だいぶ慣れていき、水缶も2個持てるようになったやん！と思って、ふと腕をみると、ゴツイ腕になってるし、体も一回りぐらいふとくなってるし、女の子じゃないなあと悲しくもなりました。

いろいろありましたが、今まで皆さんと一緒にこの北大馬術部をやっていたことがすごくいい思い出ができました。楽しかったです。ありがとうございます。

自己・他己紹介

◎ 4 年 目

池 田 智 義 <Tomoyoshi Ikeda>

(前主将・工学部応用物理学科)

★

★

放校にならないように頑張って欲しいですね。でも、何をやってもうまくいく人だから多分あと2、3年くらい学校に残って馬を調教してくれると思います。

☆

☆

池田兄は、北駿と北彪を愛しています。

コンパの時、近くにはSS(シンコウスピリットではない)がよくあります。そして、いつでもなみなみとSS(サンデーサイレンスではない)を入れてくれるとても気前のいい先輩です。

亀 山 駿 <lwao Kameyama>

(前主務・経済学部経済学科)

▼

▼

彼はかなり怪しいお人である。コンパではそれが大爆発している。でも、下級生からも慕われ、しめる時はしめるいい上級生でもある。

レジェとはまるで恋人同士、恋がかないますように。

▽

▽

愛馬レジェンドにすらりと跨った亀山兄はとても格好良い。レジェを語る兄の目はいつもキラキラと輝いている。

◎ 3 年 目

浅 野 知 弘 <Tomohiro Asano>

(馬匹・法学部)

自称 司法試験受験者 いや、卒業後1年以内に受かって見せる。2年前新歓コンパのときにはいた大言はまんざらいい加減なものでもないですよ。

それから自分は今馬匹をやっています。馬の世界は奥が深い。馬の病気も。いくら勉強しても経験したことのないケガや病気になる馬が多くて追いつかない。しかしできるかぎりは予防に努め、全馬が健康なまま次の代に引き継ぎたいと思う。

●

●

謎が多い人だと思う。

お酒を飲むとちょっと人が変わる。

○

○

冒険家の兄は愛車サニーで北海道中を走り回っていたと聞く。雪が降ろうと、槍が降ろうと。

馬匹の兄は大切な14頭に深い愛情を持ちながら、注射器を持って嬉しそうに走り回っている。

ビール好きの兄は今日も泊まりに500ml缶を4本買って来る。ビールの泡の一つ一つにまで深い愛情を注いでいるようだ。

将来僕が悪いことをして捕まったときはうまく弁護してください。Help me please!

角 堂 淳 <Tsuyoshi Kakudo>

(主将・農学部農業経済学科)

最近気になることがある。

まず第1に服装、私服と作業着が似てきたようだ。おそらく街へ行く機会が減って他人の目を気にしなくなったからであろう。

第2にヘアスタイル、この半年間ボーズばかりだ……。自分が試合で負けているからだと言われれば何も言い返せないが、サラサラヘアのあのころがなつかしい……。

第3に体の締まり具合、この間久しぶりにいらっしゃった先輩に「誰がバロンに乗っているかわからなかったよ、太ったんじゃない」と言われたり、周りの人たちから馬がしんどそうだとか、背中や脚が太いとかゴツイとか……。自分でもしばしば体重を量るようにして気にしているが、体重は1年の時とあまり変わらない。となるとやはり体脂肪率の増加により、体の締まりがなくなってきたことが他人の目を引き付けているようだ。

このままのルックスではまるで中年おやじ、昔のさわやかなサッカー青年のおもかげはどこへいったのだろうか、この1年努力せねばI兄のようになってしまう、手遅れにならぬよう頑張らねば!!



角堂兄といえばやっぱりゴツ系、好物はポテトチップスにマヨネーズ、そして激辛カレー。

コンパの時はやっぱり語りで夜を明かす。

一年目のときは、飲んで吐いて、吐いて飲んでいたそんな角堂兄も最近は酒が弱くなってきたとか？

角堂兄の泊まりと言えどカレーにお酒、酔っ払った次の朝はとても目覚めが悪い。

来年こそはバロンで全日へ。



初めはさわやかスポーツ少年タイプだと思っていたんです。元サッカー部と聞いてなるほどと思いましたし。でも今は、マヨネーズ好き（しかも味覚を疑うほど何にでもかけてしまう）の、ちょっぴり頑固な下町人情オヤジ……。彼が変わったのか、それとも長い付き合いを通して本性が見えてきたのか？

小 谷 友 也 <Tomoya Kotani>

(副将・理学部生物学科)

そろそろ やろうか。

■

■

彼にはもうちょっと口を開けてもらいたいです。開けるだけでなく、しゃべってください。

しかし実験で忙しくてもかなり頑張っていると思います。

これからも北獅と共に頑張ってください。

□

□

一見、坊主頭で厳格な修行僧のようであるが、酒には減法弱い。飲み会の次の日の練習で馬場の真ん中で苦しうづくまっている彼の姿を目にした人も多いだろう。

□

□

飲み過ぎたからって、車の中でコボコボ、ゲロをしないでください。

飲み過ぎたからって、寝ゲロをしてそれを自分の頭にかぶらないでください。しかもそのままモモセに行かないでください。

孤独を愛しているように見えて、本当はとてもかまって欲しい。だからみんな声をかけてあげよう。

でもそんな兄の乗ってる姿は一番カッコイイと僕は思います。

田 中 悟 史 <Satoshi Tanaka>

(主務・理学部数学科)

主務をやっております田中悟史です。

現在3年目ですが、学校の方はボチボチといったところです。まあ気楽にといった感じかなあ。

乗る方ははっきり言ってもうまくありません。

ただ馬とは仲が良いと思っています。

これから次の北日に向けて、愛馬北旋風と共に練習に励み、さらに仲良しになり頑張っていきたいと思っています。

現役、OB、その他関係者の皆様、これからもよろしくお願いします。

▲

▲

兄はとてもマメな人です。仕事をさぼっているとすぐ怒ります。またとても照れ屋で、時々からかってしまうことがあります(スミマセン)。これからもよろしくお願いします。

△

△

トルと一心同体の田中さん、北日同様全日、そして来年も期待してるッス！

寺 坂 龍 児 < Ryuji Terasaka >

(後援会、北日幹事・法学部)

なんだかんだで3年間、よく繞いてるもんだ。

あくせくしないで小沢健二でも聞きながらゆったり生きていこうと思う。

★

★

優しく親切で頼りになるお兄さんと言ったカンジ。

1年目のNが、元ヤンだと主張してるけど真相は……？

☆

☆

やさしい人

乗次由美《Yumi Noritsugu》

(会計・文学部)

最近馬と話せるようになった気がする。

それはうれしいのだけれど、こっちは相手の言うことを聞くばかりで、肝心なときにはみんなちっとも私のことを聞いてくれない(特に騎ってるとき)。

もっとコミュニケーションを図りたいと思う今日この頃。

▼

▼

乗次姉は何事にも真剣に取り組む人です。

また馬に対する愛情も深く、練習後の馬などに水をあげてまわったり、本当にかわいがっています。

コンパでは僕達にも結構酒をついでくれる姉ですが、終わりの方で普段からは想像できない一面を見せることがあるというのは本当でしょうか。

▽

▽

僕は見ました。日高合宿の作業で乗次姉が木の切り株に肥料を捨てるのを。普段のイメージからは想像できない姉の行動……。それにつられてNとH(s)も捨てました。そういう姉の意外な一面にひどく親しみを覚えたことですよ。

▽

▽

この方は酔うととても恐ろしいです(酔ってなくても恐ろしいかもしれない)。酔っているときは空き缶などでパンパン頭をたたきます。でも実はとてもいい先輩です。

◎ 2 年 目

大崎智弘《Tomohiro Osaki》

(馬匹補佐・獣医学部)

愛猫ライカと暮らす獣医のたまご。

目標は全日出場!!

●

●

3人の獣医学部生の中では、彼が一番学校に行っているようです。

朝も常に集合10分前から手入れをしています。

2年目の中では地味に頑張る人でしょう。

○

○

大崎兄は車を持っています。

なんと、フェラーリ 365GT4 ベルリネッタ・ボクサー。

12気筒DOHCエンジンで排気量4390cc。最高速度302km/hだそうです。ウソです。

尾崎 哲 浩《Tetsuhiro Ozaki》

(車輛・工学部物理工学系)

僕は問題児なのですが、一生懸命やっているので許してください。



寡黙な男、ニヤニヤしながら話す。しかし見るところは見ていて、しかもかなりの情報通。仕事もきっちりこなす、不思議な男だ。



とってもきれいずきな元衛生。次の車輛ではどんな活躍をしてくれるのでしょうか。馬に乗った後ゆでだこみたいな赤い顔をしている彼はとっても素敵。

金丸 鉄 平《Teppei Kanemaru》

(飼料・農学部総合系)

突っ走るぜ明日も

たぶん明後日も

男はいつだって

突っ走るだけさ

オーイー



彼はひそかに女の子に人気があるようだ。1年生のときも2年生のときも「なんかいいよね」「うん、いいよねー」と女の子の間で話題になっている。金丸ファンクラブというものもある(らしい)。独特の言葉遣い、そして優しい人柄が女の子をほっとさせるのだろう。

でも。

彼は一部の人にはかなり信用がないのもまた事実である。

たとえば、車を運転していたとき、助手席の上級生が、「おい、本当にこれで道あつてるのか？」彼曰く「大丈夫ですよ。前にも通りましたから。あつてます」と、自信たっぷり。

ところがどっこい、「あれーおかしいですねーこの前には行けたのに」ということで迷子になっていたのである。

彼の「大丈夫ですよ」は

あんまり信用しちゃ行けない気がする。

でもやっぱり、最近ヒゲをはやしてますますクラークさんのような彼を見るとちょっとほっとしてしまうのである。



兄は誰がなんといおうと九州男児である。嘘だと思ふ人は兄と話をして見てください。

3秒で分かります。

九州男児はゴツいだけでなく優しい。兄のsweet voiceで「何しとったと？悪いことばっかりしとったらイカンよ」といわれると、つい深く反省してしまう。

九州男児はゴツいだけでなく極め細かい。兄の作業の丁寧さ(とスローさ)は周知のところ。

しかし九州男児はなんといってもゴツい。嘘だと思う人は兄と会ってください。0.3秒で分かります。

川崎 洋 史 <Hirofumi Kawasaki>

(作業・獣医学部)

今年2年になりました。いっぱい後輩ができた。うれしい。

▲

▲

川崎兄は顔は怖い感じがしますが、本当はとても優しい人です。その証拠に、チアフルに話しかけるときの声はとても穏やかで、そんな風に話しかけてもらえるチアフルを羨ましく思うほどです。

また、川崎兄は時々おもしろいことをして、私達を笑わせてくれます。笑わせる、と言えば、川崎兄自身の笑い方だけでも私達を楽しませてくれます。

また、川崎兄は農場からもらったうさぎの「うさお」を飼っています。動物を愛する川崎兄は、やはり優しい人です。

△

△

一見、ずばらで手抜きな印象の川崎さんですが、真の姿は、まじめで計画的にものごとを進め、頭の回転がはやいのです。

車でいえば、ギャラン。

ハミガキでいえば、つぶ塩。

ポテトチップスでいえば、コンソメ。

正当派の横を負けじとまっすぐ進むタイプかな。

栗原 佳子 <Yoshiko Kurihara>

(馬具備品・文学部)

ソーラーパワーで動きます。昼間はピークパークうるさいけど、夜はおとなしくなります。口だけじゃなく手も動かすことを練習中です。敬語もちゃんと話せます。そんなに変な人じゃありません。多分。これからも私の話を聞いてくださいね。

★

★

少しはだまってろ、よし子！

☆

☆

「上へあがります」みんなからよしこさんと呼ばれ親しまれている栗原姉が今日も階段をのぼっていく。かなり大変な馬備の仕事ですが一生懸命こなしています。そんな姉のいちばんいいところはその明るさでしょう。

いつも笑顔を決やさず、特に寺田姉と一緒に歌ったり踊ったりして部内を明るくにぎや

かにしてくれます。

下 田 素 子 <Motoko Shimoda>

(水産学部生産海洋システム学科)

私は水産学部の下田素子です。九州の福岡から、はるか北の北海道を目指して、カッコイイ馬乗りになるため(?)やってきました。しかしもう、はや函館へと行く時期になってしまいました。向こうでは海の女として頑張りたいです。

▼

▼

朝見ても夕方見ても寝起き顔の下田姉は、底抜けに明るくて、みんなに好かれている素晴らしい先輩です。もちろん僕も大好きです。函館に行っても頑張ってください。

P.S かき玉じるぐらい作れるようにしましょう。

▽

▽

残念です。函館へ行っちゃうなんて残念です。

犬でいえば、チャウチャウ。

花でいえば、ひまわり。

ジュースでいえば、ファンタオレンジ。

いつも元気な下田さん、いつでも札幌に来てください。

鈴 木 忠 樹 <Takaki Suzuki>

(主務補佐、副務・医学部)

去年はかなり不真面目な僕でしたが、2年目となった今年は、授業をかなり犠牲にして部活に打ち込みました。おかげで今年は北日へも行くことができ、かなり充実した馬術部生活を送っています。そのかわり学校の方は留年の瀬戸際です。もし留年しなくても来期からは人体解剖が始まり、かなり忙しくなります。疲れきってグチっている僕をみつけたら、優しく声をかけてやってください。

●

●

最近調子ええなー、かなり絶好調やんか。でもな下級生には平等に接してやらなあかんぞ!!と、まあ女の子にあまーくて調子の良い忠君であるが、ハイテク技術ならまかせろと頼もしい存在である。

P.S 女の子はほどほどにして、馬術に熱中しなさい。

○

○

兄はとてもしっかりした人です。自分の仕事を、責任持つきちんとこなします。でも、時々天に訴えます。「なんでだよー」

寺 田 有 美 子 <Yumiko Terada>

(部報・法学部)

思えば昔はとび乗りもまともにできませんでした。それが今では水缶2つ持って走ってしまうし、なんだか言葉遣いまでお行儀悪くなってしまって…。そして何よりこの太い腕!並の男より筋肉質といううわさもあるほどです。これぞ労働の証!!でも花の女

子大生が力こぶを自慢していて良いのでしょうか？

◆
しっかりもので器量よし、根性もあって細かい心配り……
これ位でいいかな？

◇
面倒見の良い寺田姉はお姉さんみたいな存在です。

徳 永 や よ い《Yayoi Tokunaga》

(後援会・文学部)

素直になりたいなあいつも思ってます。

馬術部を続けることで自分がどう変化してきているのか楽しみです。

■
「とくぼん」とみんなに親しまれている彼女はすごく真面目だ。そして天然ボケだ。
一見しっかりものなんだけど……。

時々大事なことを忘れていたことに気が付いて慌てているとくぼんの姿を見る。焦ったときは深呼吸だよ、とくぼん。

□
とある部員総会で馬の北大名を提案しているとき、とつじょ「北陸海」の名がでてきた。誰だ、こいつを考えたのは!!と思ったとき、静かに手をあげて、自分が考えた名であることを主張したのはズバリ姉でした。ある人は言う、「彼女は天然ボケだよ」と。でも後輩である僕から見た姉は、そのあれこれあれこれと頑張っている姿が一番印象に残っています。まさに「緑の下の方持ち」改め「馬術部の下の方持ち」とは姉のことをいうのではなからうか。

◎ 1 年 目

井 口 大 地《Daichi Iguchi》

(作業・法学部)

我が心の宿恵迪寮にて、午前4時30分

俺「おはよう」

部屋員「おはよう」 お、もうみんな起きてる。

しかし午前4時50分

俺「いってきます」

部屋員「おやすみなさい」

そんな寮で暮らす俺は、部屋員と飲んだりする時間があまりとれないのが悲しい。日高合宿が終わったらやめようかね、と思っていたけど合宿が終わったら考えが変わって、とりあえず冬を超してみようかね、ぐらいになった。でも馬術部か恵迪かどっちかとれつつたら俺は迷わず恵迪を取るよ。まあなんののかんのいって続けそうな気はするが。

しかし俺も変わった。高校時代2時3時(午後)に起きてた俺が毎朝4時30分に起きようとはだれが想像したか、世の中はわからん。

★

★

彼は入部当初から飛び乗りが上手です。

普段はかなり変な人間であります。コンパ時はさらに変になります。

恵迪寮は住みごちがよさそうであると見受けられます。

これから彼はもっと頑張れそうな気がします。

☆

☆

彼が笑うときはなぜか音がしない。いかにも嬉しそうに静かにほほえむのである。

畔 柳 宏 司 <Atsushi Kuroyanagi>

(部報・農学部生物系)

問 ☐ にあてはまる語を1～3から選びなさい。

私は畔柳を☐と思う。

1.すばらしい、良い、なかなかだ 2.だめ、嫌いだ、やな奴だ 3.興味ない

(1と答えた人へ)

自己紹介 まじめな性格でなかなかの努力家です。人みしりこそするもの慣れてくると気さくに話しをします。一つのことでもよくよしなくて、気分の切り替えも早く、他人のことも真剣に考えます。

(2と答えた人へ)

自己紹介 一応いつも来ているものの、考えがまとまらずに乗っているのでも下手くそだし、作業もうまくサボろうとする。慣れない人には無愛想なくせに、ちょっとすると馴れ馴れしくなりむかつくことを言う。頭悪いのですぐ大事なことを忘れるし、学校サボって留年しやがった。何だかんだいっても自分を最優先するチョロい奴だ。

(3と答えた人へ)

次へ進んでください。

これを読んだ方はぜひご感想をお知らせください。今後のお付き合いの参考にいたします。

◆

◆

馬に乗ればみんなを笑わしてくれる、芸人のような馬乗りです。

◇

◇

部報を'98春までにだすと断言する畔柳、練習にも毎日欠かさず来る数少ない一年のうちの一人。気合の乗った今が旬の男。黒柳とか書かないように、彼は徹子じゃないよ。

須 田 健 一 郎 <Kenichiro Suda>

(薬品、副務・法学部)

札幌の北のはずれに住んでいます。早起きが苦手で、自転車で毎日通うのも面倒なので、近くにヘヤを借りるか、はやく免許を取るかを現在検討中です。

▲

▲

アメニモマケズ、カゼニモマケズ
マイアサ四十分カケテチャリデクル
ソナナスダクンニ
ワタシハナリタイ……

△

△

おとなしそうな顔をして、実は毎朝40分かけてチャリで通って来ている頑張り屋。バイトに行っている回数も独走トップ。

お父さんが元応援団団長だというのは本当？

竹 本 和 彰 <Kazuaki Takemoto>

(文化企画・理学部物理系)

ぼくは、……いつもねむたいです。こんなものかいてないではやくかえってねむりたい。

P.S. ぼくは、ぶんしょうをかくのが、とてもにがてです。ひらがなでかいているのは、かんじがわからないからではありません。すこし、もじすうをふやしたいからです。

▼

▼

まっすぐ歩け。
パンツのままで下におりようとするな。
いくら寝坊しても夕方まで寝るな。
でも最近ちょっと文化の仕事頑張ってるかな。

▽

▽

彼は麻生からほぼ毎日やって来る。僕が思うに、彼は馬術部の中で一番親切な人だ。中身の入っていないガムの包装紙をくれるし、もうすぐ食べ終わる肉チャーに大量のコショウをかけてくれるし、……。数え上げたらキリがないほどだ。社会に入っても、彼にはこの調子で頑張ってもらいたい。

土 肥 真 理 子 <Mariko Dohi>

(衛生・農学部化学系)

やめたいやめたいと思いつけてはや半年。心とは裏腹に、体は朝早く起きることに慣れはじめて、入部の時に比べて、かなり真面目になったと自分では思っています。

●

●

基本的に1年生の女の子ってみんな(いろんな意味で)カワイイんですが、私の経験から言うと、この世界かわいいだけではやっていけません。その点彼女には、1本通った筋のようなものを感じさせられます。将来有望(?) 頑張れ、わが妹よ!

○

○

ハッキリした人です。

長 田 拓 郎 <Takuro Nagata>

(薬品・教育学部)

馬事公苑で飛ぶ!

■ ■
ねじりハチマキが似合う富山の男だ。黒ブチ眼鏡がちょっとイカす。なかなかしっかりしたところがあり、これからどんどん経験を積んでいけば、頼もしいヤツに成長してくれることだろう。

□ □
酔った後の説教、寝ゲロはやめようや!

浜 田 浩 一 <Koichi Hamada>

(文化企画、飼料・農学部総合系)

ドジで失敗の毎日ですが、じつくりと自分の道を進みます。

▲ ▲
彼はとてもおとなしい。

彼はしゃべらない。

彼は「え」「ハ」「ハイ?」しか言えません。

でも彼はがんばって生きています。

△ △
華奢で一見優男タイプだけど、芯の強い頼れる人です。

濱 田 哲 <Satoshi Hamada>

(記録・農学部総合系)

無口だ

★ ★
彼はブツブツいいながらも、結構やるこたやってるいい奴である。誰これかまわず毒舌をふりまいているが、不思議と愛されている。このまま大物に成長してほしいもんだ。

☆ ☆
一見「口だけ男」のさとしは、なんだかんだ文句たれながらも一生懸命やっているようです。でも本当に「口だけ男」です。かな?

森 田 崇 之 <Takayuki Morita>

(衛生・経済学部)

馬術部に入って変わったこと

- 1、勉強しなくなった
- 2、歯を磨かなくなった
- 3、風呂に入らなくなった
- 4、太った
- 5、坊主になった

てんでろくでなしの俺であるが、馬を愛するハートのデカさはだれにも負けないくらいあるんだ。みんな分かってはくれないけれど、それはそれでいい。今日も俺は一匹狼だ。



彼がある日「気合いをいれる」というだけの理由でポーズにしてきたときはマジで驚いた。そして次の日から部員たちは3年目K兄と彼の見分けの難しさに悩まされたのだった。

そしてこの男非常に目立つという特徴を持つ。朝の集合で出席をとるときに彼の返事がないときは、部員だけでなく馬たちまでも「何だ何だ」と顔を見合わせている。もはや彼なしに馬術部はありえないのではないかと思われる。

今後の彼のより一層の活躍と、競馬で儲けたときの「おごり」が非常にたのしみである。そろそろ焼き肉が食べたいんだけどな……



彼は言います。「ボロ山ってさあ、自分の納得行くまでできるから好きなんだよね」そんな彼の2年後が楽しみです。

矢野 絢子《Ayako Yano》

(馬具備品・経済学部)

ファーストキスはDuに上げました。

セカンドキスはヒダカです。

フライトには、顔中にキスしました。

スズは、目下検討中。



かわいい頑張り屋さん。

でもちょっと抜けてるところが……。

頑張れやのっち！



一緒にモモセに行ったときの矢野の働きにはマジで驚いた。むこうのおばちゃんたちが「スーパーおねえさんだねえ」と言ってるのを俺は聞いたよ。あと酒に異常に強い、というかコンパでいつも最後まで残っている。単にうまく逃げているだけなのか、本当に強いのか、確かめてみたいがその日は遠い。

集合写真

◎ 4 年 目



(左から) 池田兄、亀山兄

◎ 3 年 目



(左から) バロン、角堂兄、寺坂兄、乗次姉、田中兄、浅野兄、小谷兄

◎ 2 年 目



(左から) 大崎兄、尾崎兄、金丸兄、栗原姉、徳永姉、寺田姉、川崎兄、鈴木兄

◎ 1 年 目



(上段左から) 土肥、井口、長田、須田、畔柳、(下段左から) 矢野、竹本、浜田
浩一、森田、濱田哲 (後方左から) トルと田中兄、バロンと角堂兄

北大馬術部馬匹名簿

No.	馬名 旧名	性	毛色 種	生年月日 産地	父 母	入厩日 離厩日
001	嚶珞	騾	栗			S 18. S 19.
002	宮武		青 軽半			S 19. S 20.
003	北慥 ミストクシマ	牝	鹿 中半	S 20. 4. 5 浦河	ローライト 北進	S 29.11. 1
004	北翠 エリザベス	牝	栗	S 23 豊平		S 29.11. 1
005	北渾 シラカワ	牝	鹿 中半	S 17. 5.10 石狩町	昭山 第2 白川	S 29.11. 1 S 35.
006	北楡 ミスアプテール	牝	栗 アノ系	S 21 浦河	勇進 小岩井	S 29.11. 1
007	金花 北斗	騾	鹿 中半	S 17. 6.13 静内	森金 第2 ジューラス	S 29.11. 1 S 36.11.
008	北嶺 ヨシタカ	牝	栗 中半	S 19. 5.13 大樹	オンブラージュ 白梅	S 29.11. 1
009	北春 林城	牝	鹿 中半	静内(北大校)	ホシトロ 七三六	S 33. 4. S 36.11.
010	北涼 第2 グレース	牝	栗	S 27. 4.21 河東郡	マンカツ 朗高	S 35. 2. S 42. 1.19
011	北翔 水堂	牝	鹿 ア	S 30. 4.20	遠汐 溢新	S 36. S 45. 2.12
012	北騷	牝	青 サラ系	S 30. 5. 6 静内	キングライト 前山	S 36.11.14 S 42.11.14
013	北楊	牝	鹿 中半	S 28. 4.		S 42. 1.19
014	朝清	騾	栗 中半	静内(北大校)	芳嶺 七三六	S 42. 1.19
015	北巖 ミストヨサカエ		栗 軽半	S 35. 4.20 浦河	タカトシ ニュークラック	S 38.10. 7 S 47. 9.13
016	北嚶 ナグサ		鹿 中半	S 30. 4.28 三石		S 37.11.29 S 47.12.12
017	北髯 長風	牡	栗 中半			
018	ジュピター					S 41. 5. S 41.10.26
019			鹿 ア・ア			S 41. 8.27 S 47.12.11
020	北秀	牝	栗 中半	S 40. 6. 2 北大馬術部	北髯 北涼	S 42. S 52. 4.
021	北凛 ネルソン	騾	栗 サラ	S 39. 3.20 早来	クリノハナ タカクイン	S 42. 9.17 S 47.10.15
022	北雄 ヤマズミオウ					S 42. 7.
023	北力 チカラ		鹿 サラ	S 39. 3.24		S 43. 8.30 S 45. 7.

024	北武	騾	鹿 トロ	S 40. 4.17 音更	ビージェー コテンブル	S 51.12.
025	オキルソン					
026	雪嶺					S 45.
027	千里馬	牝	鹿 中半	S 41. 日高	シーザー	S 45.12.16 S 49. 4.
028	北勇	騾	鹿 トロ	S 36.		S 51. 9.
029	北隼 セントオール	牝	鹿 サラ	S 36. 4.20 伊達	カルガドール ライジングマンナ	S 44.10. S 52. 1.31
030	疾風	騾	栗 ア・ア	S 45. 5.31 門別	オーバーマイン ミストビハマ	S 47. 4. S 56.10. 9
031	カムイ	騾	栗 サラ	S 44. 6.17	ラーカスパー インズキー	S 47.
032	天龍山	騾	黒鹿 サラ	S 43. 3. 6 浦河	ネヴァービート サンキヒメ	S 47. 8. S 55. 7.17
033	リヒト	牝	栗刺 サラ	S 36. 6. 13 早来	カルガドール トキチドリ	S 47.
034	スターライト	牝	鹿 ア・ア	S 41. 4. 4 門別	トモスベビー 銘乾	S 47. 9.25 S 59.12.17
035	羊蹄	牝	鹿 ア・ア	S 44. 3. 4 音更	ハマテッソ 久亭	S 47.10. 3 S 55. 9.28
036	北燕	騾	鹿 サラ	S 46. 3.14 鶴川	マタドア リユーウェー	S 55. 3.20
037	ドンホッパー	騾	黒鹿 中半	S 46. 6.30 早来	オーシャチ ハゴロモ	S 49. S 63.10.29
038	北驪	騾	黒鹿 軽半	S 51. 2.23 北大馬術部	ドンホッパー 羊蹄	S 51. 2.23 S 60.
039	ハイエイム	牝	栗 ハンター	S 41. オーストラリア		S 53.
040	ダイバレード	牝	栗 サラ	S 39. 4.16	ダイハード ミレッタ	S 54.
041	北楽院 マイキュービット	騾	鹿 サラ	S 47. 4. 6 静内	ミンシオ ジュラルディンツウ	S 51. 6. S 58.12. 7
042	北稜 ローヤルタマナー	牝	栗 サラ	S 43. 5.11	タマナー ミスクリシマ	S 51.10.18 S 52.
043	北美 メールエクスプレス	牝	栗 サラ	S 44. 4.10 静内	スパニッシュエクスプレス ゴールデンメルド	S 51.8. S 58. 3.22
044	北姫 ヤマニンミヨコ	牝	鹿 サラ	S 49. 3.27 静内	アステック ヤマニンザザ	S 52. 7. 1 S 59.11.18
045	北将 ショパールブラン	騾	芦 サラ	S 49. 2.14 浦河	フォルティノ マツノミドリ	S 52. 7. S 62. 5.29
046	北皇子 ハーバーギャラン	騾	栗 サラ	S 51. 5.12 新冠	アストラルグリーン ハーバーガール	S 54. 6.23 H 5.12.19
047	北輝 ホースメンヒリユー	騾	鹿 サラ	S 46. 3.17 浦河	ヘンリーヒギンズ タマホマレ	S 54.12. S 61. 8. 3

048	勇勝 ダイカツパール	騾	サラ				S 57. 7.23 S 58.11. 2
049	輝魂龍 キコンリュウ	騾	サラ		サンシー		S 57. 6.17 S 58. 9.20
050	スカイナーホース	騾	栗 サラ				S 59.10. 9 S 59.12. 8
051	烈烈風 カツルーキーオー	騾	栗栗 サラ	S 52. 4.26 静内	ダンシングキャップ ルーキー		S 56. 7. 7 S 59.10.21
052	ゴージャスライフ	牝	鹿 サラ				S 59. 7. 6 S 59.10.10
053	オオカリヒメ	牝	芦 ア	S 44. 4.27 新冠	ホシヒカリ ミズハザマ		S 58. 9. S 59. 9.26
054	オーロラホマレ	騾	黒鹿 サラ				S 59. 4. S 59. 6.21
055	ヤマニンチャンス	牡	サラ				S 60.11. 6
056	北雷 サンテスプリ	騾	芦 サラ	S 57. 5.20 新冠	シルバーランド スピーケーション		S 60. 6. 1 S 61.12. 7
057	北沢 エイトワンダー	騾	栗 サラ	S 53. 4.12 鶴川	ハウシュウエイト アモーレタフ		S 58.12. S 61. 8.22
058	スーパーボーイ アグネススーパー	騾	鹿 サラ	S 57. 4. 1 浦河	アグネスプレス ナロウビン		S 60.11. 6 S 62. 9. 6
059	北紫雲 アルファマリーナ	騾	鹿 サラ	S 53. 4.27 静内	オープンフリーオン クイーンマリーナ		S 56. 6. S 62. 5.29
060	ノエル スパークコルト	牝	芦 サラ	S 50. 4.22 浦河	フォルティノ シンクイン		S 58. 3.27 H 1. 9. 6
061	北銀 トカチユマブキオー	騾	鹿 サラ	S 55. 4.28 新得	ヤマブキオー ソーゴータカラ		S 58.12. H 7.12.12
062	北玲 クイーンクレメン	牝	鹿 サラ	S 56. 4. 8 えりも	ノーザンアンサー クレメンタイン		S 59.10.10 H 9. 3.30
063	北凜 ヤマニンスプリング	牝	芦 サラ	S 57. 4. 8 浦河	ゼダーン ヤマニンパペー		S 60.11.23 H 4. 9.17
064	北駿 チャフルガイ	騾	鹿 ア・ア	S 58. 4. 3 三石	トップホース ブルコワヒメ		S 61. 7.22 H 10. 4. 3
065	北瑛 ニューギャロップ	騾	芦 サラ	S 55. 4.18 鶴川	トレンタム ホクエイフブキ		S 61. 8.13 H 6.11.26
066	ダービーバワフル	牡	鹿 サラ				S 61. 7.22 S 61. 8.
067	リンドクラウン	牡	栗 サラ	S 58. 3.30 浦河	サンプリンス セーヌ		S 62. 6.10 S 62. 9.21
068	北楡 ボットチャンプ	騾	栗 サラ	S 58. 6.16 門別	グレートセイカン ミスボット		S 62. 6.10 H 2. 9. 2
069	北照 ヤマニンウィザード	騾	黒鹿 サラ	S 59. 4.24 新冠	ノーアテンション ヤマニンアツコ		S 63. 6.17 H 4. 9. 1
070	北峰 バトルサクシード	騾	鹿 サラ	S 60. 5. 3 十和田	カツラノハイセイコ サクラパワー		S 63. 7.26 H 1. 4.
071	グレンエトワール	牡	鹿 サラ	S 61. 3.26 静内	サクラシングキ ホシローズ		H 1. 2.16 H 6.11.19

072	パシオンM ダイエクスビー	騾	黒鹿 サラ	S 56. 4.19 三石	アローエクスプレス チターブル	H 1. 3. 2 H 5.11.27
073	明日裕 フロルアタロウ	騾	栗 ア・ア	S 52. 5.23 平取	フロルア ギンチョウ	H 1. 3. 6 H 9. 3.
074	富勇	騾	鹿			H 1. 4 H 1. 9. 6
075	飛沫 ゴールデンパンサー	牡	栗 サラ	S 58. 4. 6 静内	ファバージ テイキリュウ	H 1. 8. H 2. 8. 7
076○	北牙 ファストバロン	騾	鹿 サラ	S 61. 3. 8 浦河	スイフトスワロー インターブロッサム	H 2. 4. 7
077	北通 ベストエンゼル	騾	鹿 サラ	S 62. 4.17 浦河	ベストブラッド カワチカホ	H 2. 7.27 H 6. 9.15
078	ドラールボーイ	騾	栗 ア・ア	S 60. 4.13 静内	フォーモサボーイ リニアホマレ	H 3. 6. H 3. 8.11
079	アブサロム	騾	黒鹿 サラ	S 60. 3.27 早来	リアルシャダイ サワーオレンジ	H 3. 8. H 4.10. 9
067	クラウン リンドクラウン	牡	栗 サラ	S 58. 3.30 浦河	サンプリンス セース	H 3.11.10
080○	北凌 ハギノレジェンド	騾	鹿 サラ	S 62. 4.10 浦河	ハギノカムイオー ハギノコトブキ	H 4. 6.12
081	北鷲 ライトセカンド	騾	鹿 ア・ア	S 62. 4. 6 平取	エビタカラ マイティスカレー	H 4. 6.23 H 6. 9.15
082○	北旋風 トルネードダンサー	騾	鹿 サラ	H 2. 3.26 門別	アスワン ティージービー	H 5. 9. 4
083○	北燕 フライト	牝	黒鹿 サラ	S 63. 5. 9 鶴川	サーカベード カミノダイアナ	H 5.11.27
084○	北帝 マチカネイーリアス	騾	鹿 サラ	H 2. 6.11 浦河	トウショウボーイ オーナーブッチ	H 6. 8.22
085○	北祥 シンコウスピリット	騾	鹿 サラ	H 1. 2.22 えりも	リードワンダー イワサンパワー	H 6.11.
086○	北獅 シャディーデュードウ	騾	栗 中半	S 60. ニュー ジール	MY SIR AVON 不詳	H 6.12.13
087	エアークラッシュ	騾	栗 ア・ア	S 54. 4.15	ブルコワパス ゴールシャイン	H 7. 7. 6 H 8. 9.
088○	北優 ビコーエオン	騾	栗 サラ	H 3. 4.30 浦河	ニシノライデン エムジーマウタ	H 7. 7.25
089○	北鈴 スズロード	騾	鹿 サラ	H 4. 3.31 門別	スズマツハ メイワレディ	H 8. 7.20
090○	北蘭 アーネストヒダカ	牝	栗 サラ	S 58. 3. 7 浦河	ホウヨウボーイ ワールドカホー	H 9. 3.11
091○	北彪 グラッドリィ	騾	栗 サラ系	H 2. ニュー ジール	不詳 不詳	H 9. 3.11
092	タンデムシチー	騾	鹿 サラ	H 4. 4. 5 門別	ラグビーボール アナイスアナイス	H 9. 9. 5 H 10. 4.16
093○	北神威 ランフォローローズ	騾	鹿 サラ	H 3. 3.15 浦河	アスワン ユキノローズ	H 9.10.22
094○	北蒼 トワイライトブルー	騾	栗 ア・ア	H 4. 3.26 八戸	カミカゼイチバン トワイライトブルー	H 10. 3.28

今後より充実したものとするため訂正、追加などの情報をお寄せいただきたいと思います。
 ます。なお、現在在厩する馬には馬名の前に○印をつけております。



HORSE TREKKING

ライディングエリア



馬車



眩光馬(ひき馬)

馬を知る、馬に親しむ。
初心者から上級者までさまざまな形で乗馬を楽しめます。
環境が整えられています。
●乗馬コース(ライディングエリア、
インドア乗馬場、林間コース) ●ひき馬 ●観光馬車 ●ポニー広場



テニス



RECREATION

楽しさ爽快、
汗が光るワンダーランド
ノーザンホースパークでは
乗馬のほかにもいろいろな
スポーツ遊びが楽しめます。
●パークゴルフ ●ターゲットバード
ゴルフ ●バードゴルフ ●テニスコ
ート ●子供広場 ●緑の広場

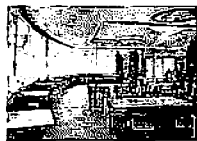


サイクリング

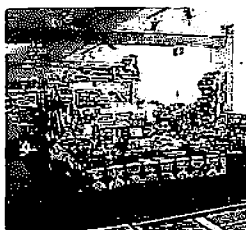


バードゴルフ

TASTE



カフェテリア「サンティ」



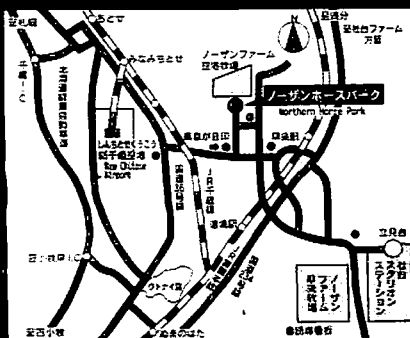
売店



テラス

グルメとショッピング。
コミュニティランド。
馬とのふれあいの後は、グルメと
ショッピングで旅の思い出づくり。
お食事は好みに合わせて、ごゆ
つりお(つ)きください。
●レストラン「ノーザンテースト」 ●カフ
テリア「サンティ」 ●バーベキュー
・ヘッドキャロルハウス ●テラス
●売店

人と、馬と、
自然が出会う空間。



新千歳空港より車で15分

ノーザンホースパーク

〒059-1361 北海道苫小牧市美沢114-7
TEL.0144-58-2116 寄 FAX.0144-58-2377
開園時間(夏期間) 9:00~19:30

※新千歳空港とノーザンホースパークを結ぶ無料シャトルバスを10月1日より運行。



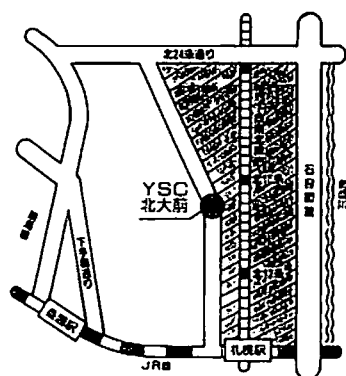
**親
し
ま
れ**

あなたの暮らしに
より身近になりました。

読売新聞は
あなたの表情を豊かにする。

札幌発の全国紙です。

1,000万部



当店独自の企業努力により
この地域では、1 カ月 **3,000円** (朝刊のみ)
で御購読できるようになりました。

● 1 カ月で読売新聞なら **3,000円**

A紙は(朝刊のみ) ... **3,560円**

D紙は(朝刊のみ) ... **3,260円**

1年ですと、A紙とは **6,720円**

D紙とは **3,120円**も
お得になります。

お申し込みは

☎0120-77-8355

読売新聞は
日本で一番
読まれています。



● グラフは各年11月の発行部数 (11月は明治7年の読売新聞創刊月)。
平成6年のみ当月部数、昭和30年までは日社集計、昭和35年以降はABC総合部数による。

購読お待ちしております



北 大 前

札幌市北区北16条西4丁目 ☎011-726-8355

Flowerist



CO. LTD.

四季おりおりの花を
美しいデザインで
お届けいたします
慶弔用スタンド(一段・二段)
アレンジメント・花 束
ブーケ・コーサージュ
花材一式 etc.

〒001 札幌市北区北18条西4丁目
本店 ☎(011) 737-6241
FAX(011) 737-2430
〒064 札幌市中央区南4条西5丁目
ジャンゼリゼビル1F
☎(011) 512-7969

HAIR'S BLOCK

札幌市北区北20条西8丁目

☎707-4308

受付時間

平日 AM10:00~PM7:30

土日祝 AM10:00~PM7:00

定休日 毎週火曜、第3月曜

アパート・マンション・一戸建・店舗・倉庫
有限会社 **エステーション**

お部屋探し、おまかせください。

仲介料10%オフします。「本誌を見た」と、お伝え下さい。

札幌市北区北18条西3丁目 I・Dビル2F

 ☎011-709-8850
Welcome to Estation  ☎011-709-8851

スタートセール
★7-11
★レイン
半額券

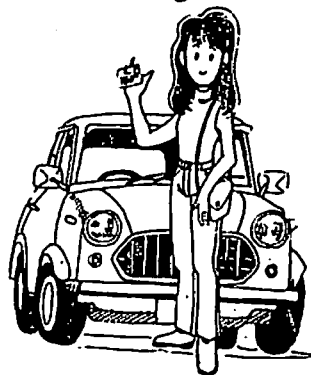
地下鉄北24条駅前(セイコーマート隣)

メガネの光新

北区北24条西3丁目 ☎756-5858

◆コンタクト受付時間/AM10:00~PM6:00/健康保険証をご持参下さい
◎営業時間/AM10:00~PM9:00/日祭AM10:00~PM6:00

Lets Try The
Driving License



北海道大学生協指定

□ 生協組合員特別価格

- ◎ 責任指導制
入校と同時に担当指導員が決まり卒業まで責任指導。
- ◎ 日曜、祝祭日も平常通り教習しておりますので
早期に免許が指取得できます。

篠路自動車学校

札幌市北区篠路1条8丁目 ☎(011) 771-2224

創業81年



旗の専門商社

ヤマ レイ

山 禮

☎(代) 241-1641

FAX 281-0419 ㊦ 駐車場あります
札幌市中央区南1条西7丁目山禮ビル4F



北海道大学生生活協同組合

“ひとりは万人のために 万人はひとりのために”

をスローガンに学園に広く深く根ざした生協運動を推進する

理事長 濱田 康行

札幌市北区北8条西7丁目

電話 011-746-6215

中古車と整備

民間車検工場

株式会社 北大モータース

札幌市北区北18条西5丁目 ☎ 726-1526

チキンをどうぞ

モ モ セ

札幌市清田区美しが丘3条3丁目

TEL 881-0470

コンパ予約受付中

ボリューム満点! コンパ150名様までOK!

当店誕生日、御利用の方
にはカラー写真・粗品を
差し上げます。



焼鳥 ■ 居酒屋
きよた

札幌市北区北17条西5丁目北向き
TEL 747-7000

有限 菅原写真商会

パスポート写真

カメラ・カラープリント特急仕上

3分間写真

各種証明写真

北22条西4丁目 ☎ 716-2662

8円 **コピー
サロン**

北区北17条西5丁目 ☎ 716-6410

(書籍・原稿・預かりコピー致します。)

居酒屋 塩野屋

札幌市北区北18条西4丁目
北18条ハイツ地下
☎ 726-1759

定休日 毎週日曜日
営業時間 午後5時～午前0時
昼間 ☎ 746-4795
E-MAIL NIF-ID GFC00431

〈広告主へ感謝のことば〉

このたび、平成9年度北大馬術部部報発行に際し絶大なる御援助
をいただきました諸社・諸店に対し、厚く御礼申し上げますととも
に諸社・諸店の御繁栄を礼り、ここに深く感謝致します。

(北大馬術部)

お肉の専門店

合資会社 森田精肉店



代表 森田 健資

ご注文はフリーダイヤルで

☎ 0120-75-1298

〒146-0031 愛知県安城市朝日町15-15

TEL0566-75-1298代 FAX0566-75-1297



① ② ③ 家庭教師

MAX 北大 M A X 北大

先生募集中心！

電話一本で登録O.K. (登録料無料)

登録してくれた方先着50名様 PHIS、携帯、
無料プレゼント

〒064-0806 札幌市中央区南6条西11丁目1284 高砂電機ビル1F

TEL(011)513-2111 FAX(011)513-2701

酒・たばこ・塩

㊟ 丸正 浅川商店

TEL 716-4313

北16西4

クリーン&ハートフル
ニュー銭湯

宝 泉 湯

営業時間 PM 2:30~AM 0:00

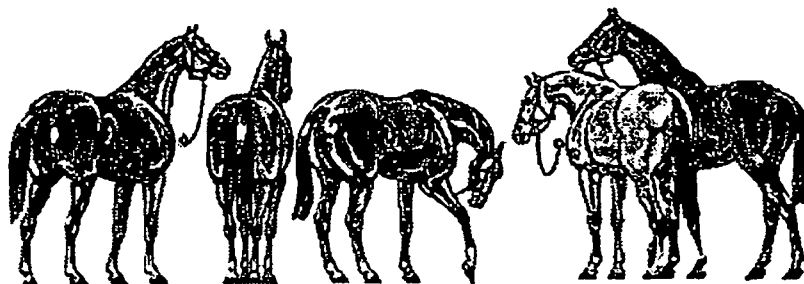
定休日 毎週月曜日

所在地 北区北20条西7丁目18

TEL 736-4810



BIG RUN
DRINK OF HORSE



この製品は興奮剤の検査を受けており、禁止薬物にかかわる原料及び抗生物質は一切使用しておりません

Doriola
CO.LTD.

株式会社 ドリオラ

〒161-0034 東京都新宿区上落合 2-22-12 ウインズビ 9F

TEL 03(5330)3706 (代) FAX 03(5330)3534

E-mail doriola@remus.dti.ne.jp

Home Page <http://www.remus.dti.ne.jp/~doriola>

明治の

哺育・育成 シリーズ

当り前のことですが、
 乳牛も肉牛も能力を
 最大限に発揮させるためには、
 哺育・育成期に
 しっかりとした土台を
 作ることが大切です。
 明治飼糧(株)では、
 最新の理論と技術に
 基づいた飼養管理方法を
 ご提案させて頂いて
 おります。

子牛用代用乳

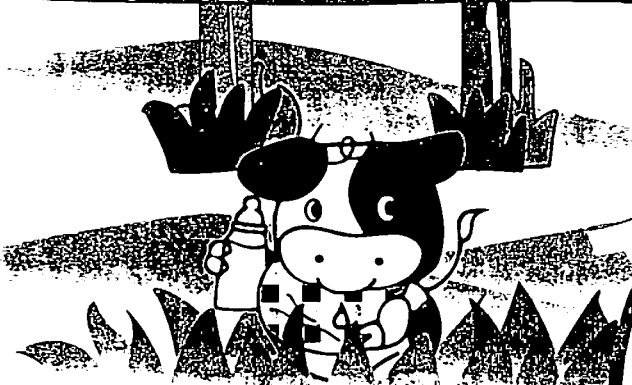
「プレミアムメイラック」

子牛用スターター

「プレミアムメイスターターPF」

子牛用スターター

「プレミアムメイスターター」



お問い合わせは最寄りの弊社営業所又は、
下記のフリーダイヤルまで

フリーダイヤル

良く・食いい

0120-49-9141

明治飼糧株式会社



編集後記

「部報」という役職について初めての昨年夏の部員総会で、「3月までに絶対だします」と強気な発言をした時の事を、はるか大昔の事のように感じます。それから半年、「大丈夫です、春には出せます」を口にしながらも、徐々に部員総会が部費を払うこと以外でも恐ろしい場へと変わっていったものです。結局は半袖のボロシャツで馬に乗る季節になってしまい、いまさら「まだ春です」などとホザく事はさすがにできません。皆様大変申し訳ありませんでした。

編集作業は、原稿の良さを今一つ引き出せない半端なものになってしまった気がします。ただ原稿の中身はためになるもので、編集しながら「部報は現役のための物だ」という何人かのOBの方の言葉を実感しました。この部報が馬術部にとって良い影響を及ぼしてくれるものと思います。OBの方々、外部の方々の中でもお読みになった方で、もし時間に余裕がおありでしたら、読後感、ご意見などお寄せ頂ければ幸いですし、今後の部報発行の際の参考にもなると考えます。

また発行にあたっての出版費用はかなり高額となるのにたいして、広告主となってくださる方が減りつつあるため製本の形式も今後検討していくべきだと感じました。

以上の事をふまえつつ、来年以降の部報編集担当者に、同情しつつ、アドバイスし、協力していこうと今は思っています。

最後に市川先生、陣川さんを初めとする原稿を執筆して下さったOBの方々、原稿執筆や広告集め、その他様々な編集作業で協力してくれた現役部員に心からお礼を申し上げます。

編集責任者 畔柳宏司

部報 第43号

平成10年6月発行

発行者 北海道大学馬術部

札幌市北区北17条西7丁目

北大体育会内

☎(011)716-2111 内線5597

☎(011)737-1626

編集者 部報編集委員

印刷所 北大生協 北大印刷

